

30224
TA33



2

0000378-000

302.24-Ta33ウ

新生ジャワの展望

高橋和世・著

文松堂書店

昭和19

AAB

この著作物は、著作権者不明のため、著作権法
第67条の規定に基づき、平成12年3月23日
付けで文化庁長官の裁定を受け使用するものです



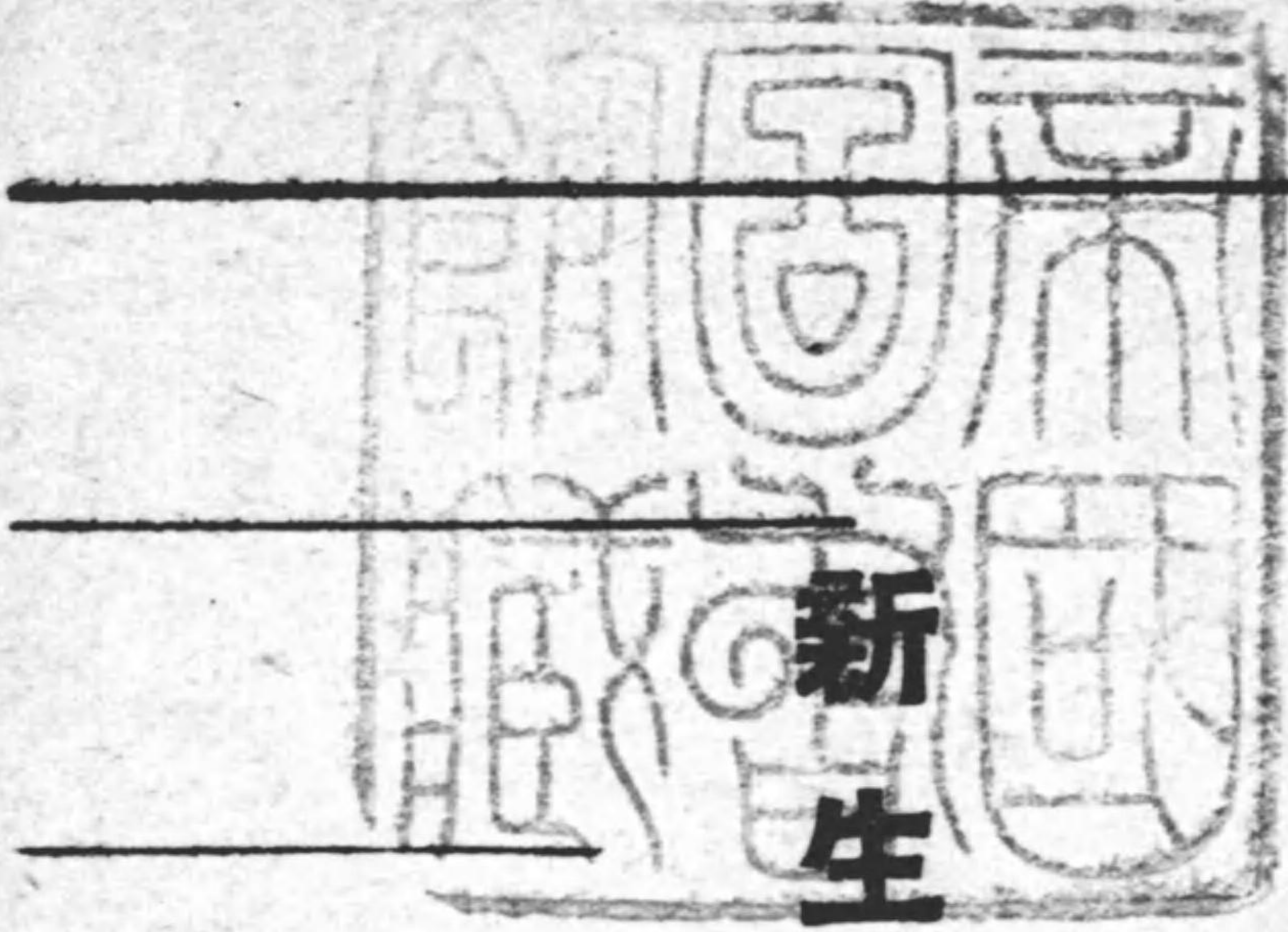
30224
TA33

梶和世著

新生ジャワの展覧

287

302.24
TA 33



高橋和世著

新生
ジャワの展望

文松堂書店版



992
73

序

南方基地ジャワの現状はどうなつてゐるであらうか。

これは戦ふ國民の一人として誰もが知りたいことであらう。前線に於ける皇軍將士の勇敢奮闘については、戦果のあがる度に、或はラヂオの報道として、或は従軍記者の報道として詳細が傳へられてゐるが、新たに弟分として大東亞の共榮圏に参加した各占領地に於ける原住民たちは、どんな眼で大東亞戦争を眺め、どんな氣持で協力してゐるか、その程度は、その深さはどうであらうか、彼等を如何に指導してゐるかなどと考へて來ると、一億統後の國民としては知り度いことで溢れてゐると申しても過言ではあるまい。

戦争の進展が國民の關心をこゝまで昂めたことは寔に嬉しい限りであるが、それを充分に満足させる程の詳報を各部門に互つて赤裸々に提供し得ない點のあるのは、防諜その他の關係上止むを得ない次第であつて、讀者に寛恕を乞ひたい次第であるが、一方また齒痒いことでもある。

それでも許される範圍で、どんな姿でジャワが復興してゐるか、どの程度まで戦力増強の南方基地として活躍してゐるか、原住民の氣持は、生活の姿、或は藝術、或はオランダ人のそれ

等など、旅行の度に目に見、耳に聞き、街に村に拾ひ蒐めた落穂の一束が即ち本書である。

著者は戦前から南方に関心を持ち、特別の要務を帯びて外南洋の各地を、東に西に、南に北に、遍く足跡を印して調査見學した。これはその際の副産物であり、その外いろいろの意味に於て書きたいこと、述べたいことを持つてはゐるが、上述した理由から今は發表の自由を持たない。何れ他日發表する機会があるであらう。

本書「新生ジャワの展望」は、拙著「インドネシア點描（ジャバ編）」及び「新生ジャワ」に續く記録であつて、以上の三部作によつて昭和十七年三月の占領から同年十二月八日大東亞戦争一周年に至る間のジャワの新生振りを洩れなく誌した譯である。その後のジャワについても記述する機会があらうが、今取り敢へず纏まつたものを發表する次第である。

昭和十八年秋

著者誌

目次

一、皇軍占領前のジャワ……………

氣候……………	五
人口、宗教……………	七
都市……………	一四
地方行政の概略……………	一七
地理概観……………	二二
動植物雜記……………	二六
ピールル異變……………	三六
家庭生活の一瞥……………	四三
原住民氣質……………	四四

二、南方基地としてのジャワ展望……………

インドネシア人に待望す……………	五〇
敵るといふ悪事を根絶せよ……………	五三
敵性婦女子等の生活を保護……………	五五
全ジャワの鐵道復舊……………	五八
原住民教員の表彰……………	六〇
原住民市長任命……………	六一
更に九市長の任命……………	六二
スキートハートの嘆き……………	六三
ジャワの内面……………	六四
最近の宣傳ポスター……………	六五
雨期に入る……………	六六
マツチの自給進捗……………	六七
戦前のジャワ工業……………	六八
大和撫子の専用食堂……………	六九

愚かなオランダ人の氣持……………	七〇
ジャワ中央行政機構の充實……………	七一
衛生行政も軍政監部の直轄……………	七二
ジャワの司法機構整備……………	七三
バス網も着々擴充……………	七四
石油の値下斷行……………	七五
物價統制令の公布……………	七六
その後の敵るな運動……………	七七
ジャワに於ける防諜……………	七八
庶民銀行の開店……………	七九
貯金局の無制限拂出……………	八〇
ジャワは常夏、いつも節水……………	八一
支拂猶豫令の撤廢……………	八二
全砂糖工場の復舊……………	八三

日本語熱超特急……………	八七
言葉も豊かな島へ……………	八八
ジャワの日本語、横書きは左から……………	八九
商標登録令公布……………	八九
南方新聞通信政策の決定……………	九〇
ジャワの梅雨的現象……………	九二
ジャワの沿岸貿易……………	九四
小型民船の登録……………	九九
長友の詠める歌……………	一〇一
三、共榮圈に拾ふ……………	一〇六
ボルネオ旅行より歸つて……………	一〇六
ボルネオへの米輸送……………	一一〇
スラバヤの昨今……………	一一一
スラバヤの明治節……………	一一六

南方唱和の歌「八重汐」……………	一一七
相和す民族の饗宴（「八重汐」發表會）……………	一一九
一般在留民の一動向……………	一二〇
最近のビルマ事情……………	一二四
最近のフィリッピン事情……………	一二六
最近のマライ事情……………	一二七
ジャワ生活の一面……………	一二八
ジャワのホテル……………	一二九
トレータス行……………	一三六
四、思想の斷行……………	一四一
重慶のデマ放送を初めて聴く……………	一四一
新任某支配人と語つて……………	一四四
敵性國市民の再掃……………	一五〇
敵性國市民の逮捕……………	一五三

マヅラ名物の競牛大會	一五五
優しい日本女性の進軍譜	一五五
華僑の一面	一五七
興南鍊成院に期待	一五八
舊慣制度の調査	一六一
邦人關係事務局の新設	一六二
南方資源の活用促進	一六四

五、熱帯を知れ

熱帯と健康	一六六
神秘のカ「グナグナ」	一七三
いよ／＼雨期に入る	一七四
ジャワの運動競技	一七五
熱帯を知れ	一七九

六、原住民対策

インドネシア人に對する觀察の一つ	一八三
頭を殴らぬやうに	一八六
原住民に對する態度の一つ	一九〇
何れを採るべきか	一九三
明暗 二筋道	一九五
地獄の沙汰も何とやら	二〇〇
中部ジャワの水害	二〇四
農産物の買上げ實施	二〇五
バスの料、値下	二〇九
地租の免租に感泣	二一〇
青訓開所式舉行	二一六
獸醫學校の初卒業式	二一六
ジャワの世界史的意義	二一九

日本語の學習指導要綱決定.....	二〇九
スマランの日本語學校生、引張り凧.....	二一〇
南方派遣の中等教員決る.....	二一〇
會話は日本語で.....	二一一
農民道場の誕生.....	二一二
原住民の無智と日本人の指導.....	二一四
原住民の血の問題.....	二一六

七、 雜 事 一 束..... 二一九

電話は必ず日本語、マライ語で.....	二一九
邦人の短波受信禁止.....	二二〇
硫黃の山に建設の鶴嘴.....	二二一
トレータスへ夕食に.....	二二四
氣の抜けた酢.....	二二八
軍政監部に内務部新設.....	二三〇

軍の意嚮を汲めば樞軸國語の通話許可.....	二三一
キニーネの配給圓滑化.....	二三三
懷中物御用心.....	二三四
ジャワ全島一齊の防空演習.....	二三六
興亞祭を迎へんとして.....	二三〇
スラバヤで市民防護團結成.....	二三四
ジャワ産業の前途洋々.....	二三四
ジャワの棉作増産計畫.....	二三八
興亞祭に軍司令官聲明.....	二四九
パタビヤをジャカルタと改名.....	二五一
ジャワ新聞の創刊.....	二五三
ジャカルタと改稱したに對して.....	二五五

新生ジャワの展覧



一、氣

候

三百年の長きに亙るオランダの搾取と壓政と
無教育怠惰政策

私はここ數年來、外南洋の各地を歩き續けて來た。初めて訪れたのがジャバだったので、その時は暑くてやり切れないと感じたが、その後シンガポールに行き、マライを旅行し、ハイフオンに行き、サイゴンに行き、バンコックに行つてみて、結論として得たところは結局ジャバが一番よささうだといふことだつた。

然し今度四度目の旅行をジャバにして見ると矢張り暑い。殊にスラバヤは最も暑い。雨期の終りで乾期への移り目であるせいもあらうが、今の住宅が割合に暑いやうに出來てをり、殊に私の居室は南から入る風の通路がなく、その上夕陽が部屋一杯に射し込むのである。斯うしてペンを走らせてゐると兩腕の机に載つてゐる部分は玉なす汗である。暑くさへなればマンデー

をするのであるが、それでもやり切れぬ。

ジャバがいくらよいからと言つて、それは他の外南洋との比較においての話である。誰が考へたつて熱帯が温帯よりも人間の生活に適してゐる筈はない。歴史を繕けばヨーロッパでは人類は東から西へ、北から南へと移動してゐることが知られるが、この事實を裏書きするものといへやう。

ジャバが細長い四周環海の島國で海洋性氣候に支配されてゐることも、その氣候が熱帯にあつて比較的良好な理由の一つである。また、東西に走る山脈がさほど峻険でなく、高山の冷氣が氣持よく低地へ流れて呉れる、しかもその途中に荒蕪地がないので冷氣がその儘下界まで達することも理由の一つと思ふ。濕地帯などもスマトラとかボルネオ、ニューギニアに較べてジャバには少いやうである。

低地よりも高地の涼しいことは申す迄もない。西部ならバンドン、東部ならマランのやうな高原都市で夜を過すと、熱帯にゐることを忘れるくらゐである。更に高いトレドスからトサリへでも行かうものなら、夜は冬仕度で、ストーブを燃さねば寝られぬくらゐ寒い。

然しスラバヤとかジャカルタは相當に暑い。午後の日盛りになると頭がポーツとして来る。夜は十二時を過ぎてても暑くて尙眠れないのが實情である。

眠ると直ぐ汗だくとなり、私など枕の具合で後頭部はあせもで一杯である。理髮屋に行つて

散髪する時に痛くて困るほどのあせもである。いくら暑くても内地ではこんなことはない。

氣候の最も悪いのは乾雨雨季のわかれ目である。殊に四月頃の雨季から乾季に移る頃よりも十一月頃の乾季から雨季に移る頃の方が私は嫌ひである。土地の住民の中には、昔はもつと季節の循環が規則的であつたが近年はそれが亂れて、雨季がだら／＼續くかと思へば、少しも雨もない月もあるなどと言ふ。果してさうであるかどうかともより私達の知らないことである。

雨季といつても内地の梅雨のやうにポソ／＼と降り續くのではなく、驟雨沛然として到り地軸も流れるかと思ふやうな凄惨な奴である。半時間も降り續くと町に洪水する場所も出來て自動車を通れない。三時間もすると溝は氾濫して溺死者を出すくらゐである。その物凄さは内地に營居してゐる日本人には想像も及ばない。さうかといつて降る雨がみんな物凄いのでもない。概してスコールといふ奴は思ひ切りがよく逃げ足が早い。ザツと來てサアツと逃げる。その逃げたあとが涼しい。降つてゐる時は寧ろ爽快である。然し外出の途中でこれに遇ふとやり切れぬものではない。歩いてゐれば胃の腑まで水が入る。オープン車でも先づ駄目で箱型車でやつと防ぎ得るが、一尺先が見えなくなるくらゐ酷い降りである。一番嫌なのは降る直前で、殊に降りさうで降らない時がこたへるやうだ。

よく言はれることであるが、ジャバは一時間ぐらゐのドライブで、パイテンソルグとかマラシのやうな涼しい山腹の都市に行くことが出來、到る處の高地にはホテルがあつて、極く簡單

に猛暑を避け得ると。事實、インドネシヤ人を搾取して贅澤をしてゐたオランダ人の中にはバ
 ンドンに住んで飛行機でジャカルタへ通勤し——飛行時間三十分、飛行場から事務所まで十分
 前後であつた——パイテンゾルグやマランに住んで自動車でジャカルタやスラバヤに通勤し、
 事務所では冷房装置の完備したところで一寸書類にサインするくらゐの仕事をしてゐた者も多
 かつた。それ程で無くとも週末に高原に旅行の出来る連中はまだよい。何年経つても何處にも
 行けぬ連中は如何すればよいのか。そんな連中が居たのか？ つて。それだから無責任な大名
 旅行では困るのだ。内地からの旅行者でスラバヤならスラバヤで一ヶ月滞在した人が果して何
 人あるか。着いた日はスラバヤ第一のオラニエ・ホテル、翌日はトサリなんて言ふのでは何が
 解るかと思つた。

日本だつて、東京七百萬の市民の中で週末に温泉行列車に乗つて寒暑を避けられる者が果し
 て何人あるのかを考へてほしいのである。

尤もさういふ土地が有るのは無いに勝る。無くば行きたくも行けないのだから。然し同時に
 いくら有つても行けない者には無いのと同じである事も考へてほしいのだ。現在でも行ける人
 は、やれ視察だ、やれ下檢分だ、やれ案内だ、やれ連絡だど、何かと名目をつけて盛んに行つ
 てゐる。スラバヤに十數年住んだ者よりも、一ヶ月半しか住まない者の方が數多く高原のホテ
 ルに逃避してゐる實情である。インドネシヤ人の搾取に餘念のなかつた歐洲人は餘暇さへあれ

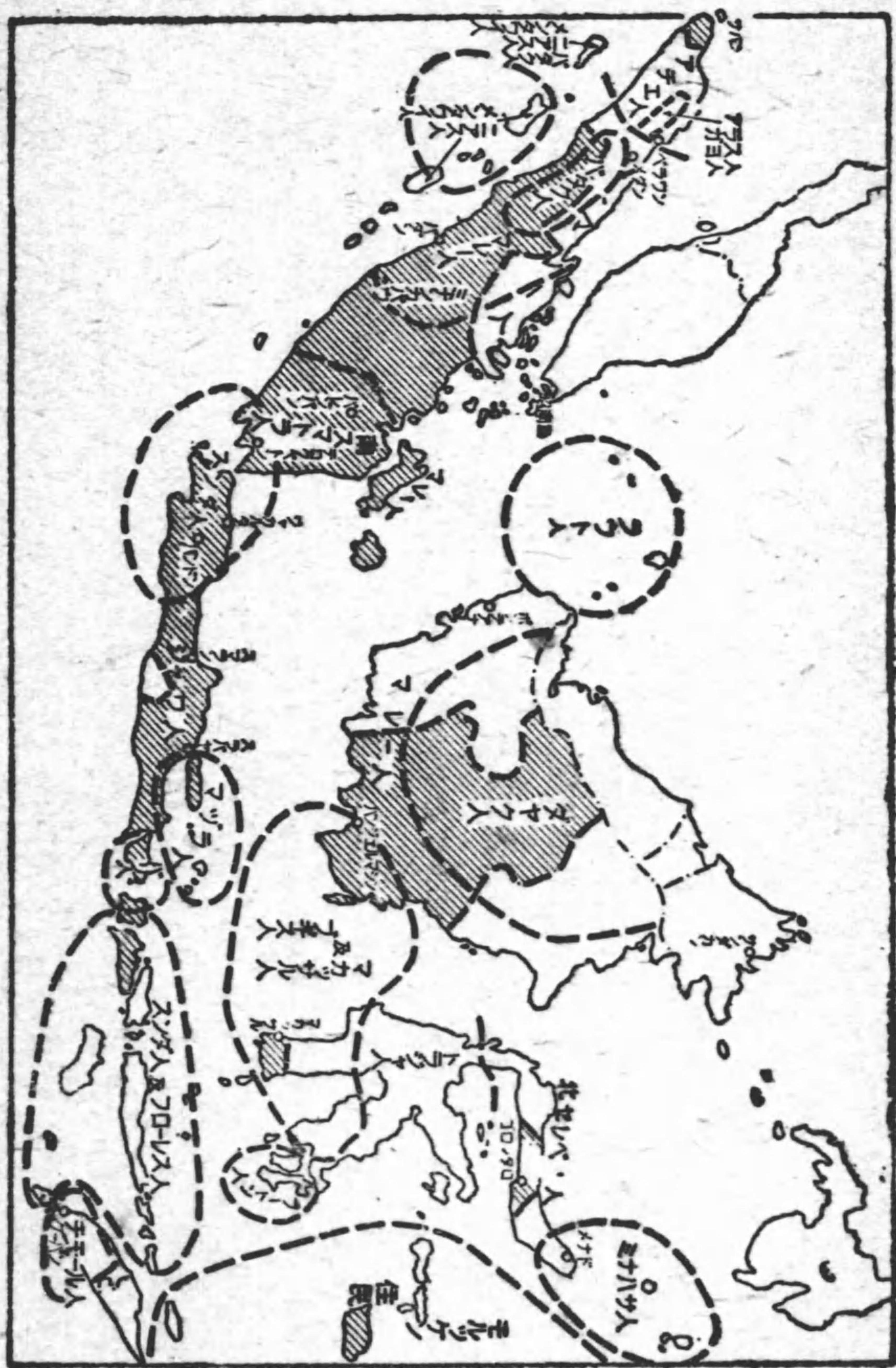
ば、涼風を楽しみに山へ行つた。亞寒帯のヨーロッパで育ちながら二十年も熱帯のジャワで働
 いて一度も歸國もせず、尙元氣でゐる人の語るところでは、彼等は常にジャワの高地の氣候に
 接して、適度に皮膚に刺戟を與へて、身體全體を引締めてゐるといふ。果してさうだとすれば
 熱帯育ちでない日本人にも時々は高原の涼氣生活は必要なのではあるまいか。若し必要だとす
 れば、それが出来るやうに施策されねばなるまいと思ふ。

搾取を排撃する日本人としては、オランダ人が得てゐた程の高給は得られまい。又得なくとも
 もよい。然し必要な施策、例へば涼氣地へのバスの運行、料金の低廉、ホテル契約を日本人に
 限り特定せしむる等々のことが併せ行はれなければならないと思ふ。

戦前では日本側銀行でも商社でも社員には赴任以來三年経たないと内地へ歸國の休暇を與へ
 ぬと言ふ實情であつた。何年ゐても涼氣生活に行けぬ連中の三年は週末毎に避暑の出来る連中
 の五年、十年の滞在よりも辛いと思ふ。しかも實際は避暑の出来るやうな連中は毎年一度ぐら
 ゐは何とか口實を設けて歸國もしたのである。今後はかうした不公平は清算されなければなら
 ない。

二、人口、宗教

ジャワの面積はインドネシヤ全面積の七分にしか過ぎないが、そこに住む人口は全人口の七



割以上で、どんな僻地に行つても驚くほど澤山の人々を見かけるのである。蜿蜒と続く村人の行列を見ると、ハリ・ブツサル（祭日）かと思ふのであるが、さうではなく平常の日でさうなのである。一九三〇年の政府統計ではジャワとマヅラの面積は十三萬二千平方千米で、そこに四千七百七十二萬の人口を擁してゐる。ここで一寸人口統計の事を註しておくが、ジャワの國勢調査は十年毎に行はれることになつてゐて、今迄の統計では一九三〇年のものが一番新しい。一九四〇年にもある種の調査は行はれたらしいが、騒然たる國際情勢のため手が廻りかねたものか、その調査の發表が完了してゐないやうである。私は出来るだけ新しい資料に據るが、新資料を入手出来ないものについては一九三〇年のものに據ることとする。豫め御諒恕を乞ふ所以である。

人口密度は一平方キロに三百十六人で、スマトラは十七人、ボルネオは四人、セレベスが十二人、小スンダ諸島が四十六人、モルツケン諸島とニューギニアは一人位である。人口増殖率は全體一分二厘とされてゐる。従つて一九四〇年にはジャワの人口は約四千七百萬に達し、その密度は三百五十人ぐらゐとなる勘定である。

インドネシアには六十餘りの人種が混然としてゐると謂はれる。その上に幾代かに互つて支那人や歐洲人の血も混つてゐる。ジャワの土着民はスンダ人、ジャワ人、マヅラ人が殆んど大部分で、その数は四千萬人以上である。一九三〇年十月の國勢調査では

インドネシヤ人	四〇、八九一、〇〇〇名
支那人	五八二、〇〇〇名
歐洲人	一九三、〇〇〇名
その他東洋人	五三、〇〇〇名

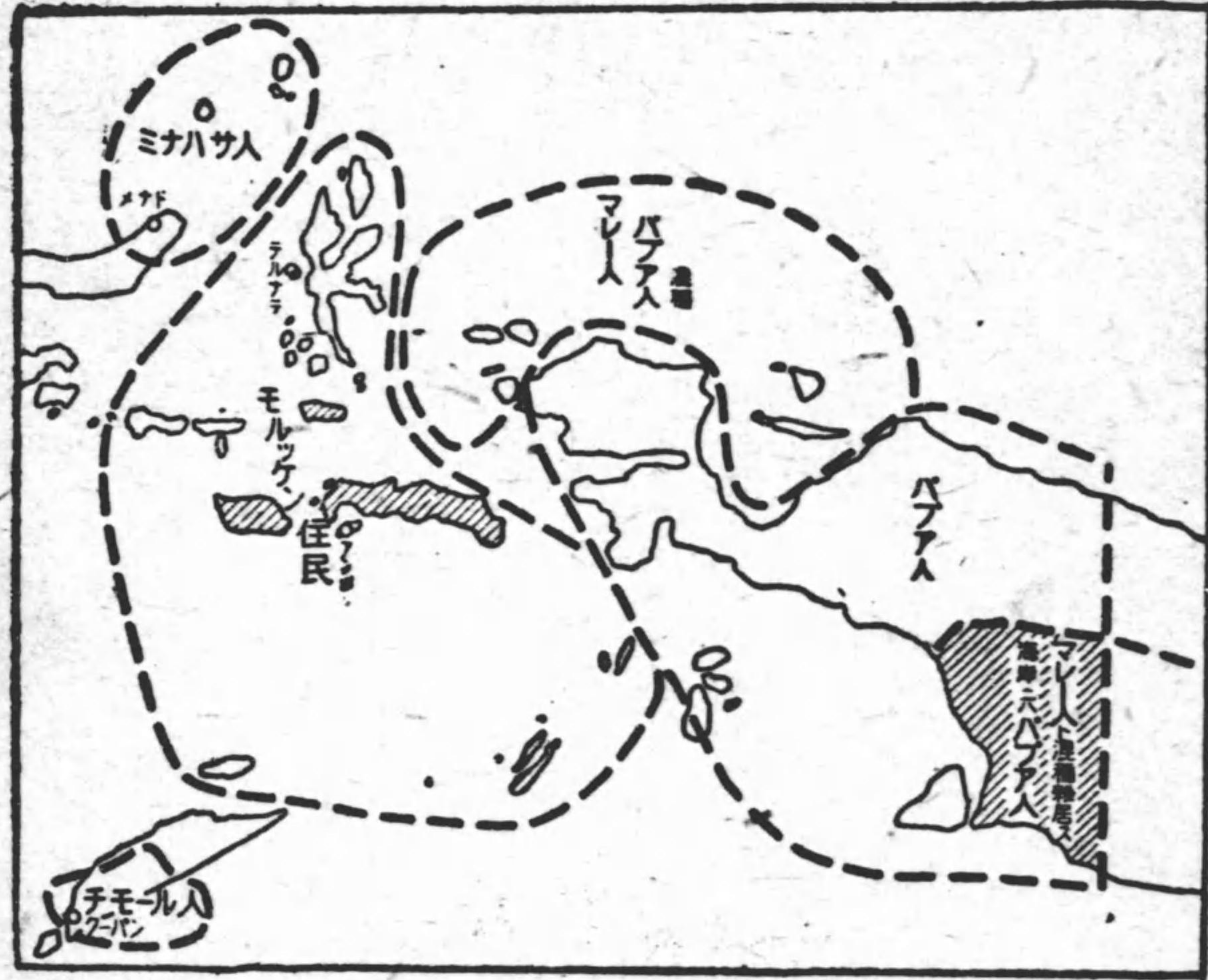
日本人は歐洲人の中に含まれてゐる。これは特に日本人に敬意を表してゐる譯でも何でもなく、オランダ本國が對等の通商條約を締結してゐる相手國人に對してはみんな同様に扱つてゐるのである。又歐洲人との混血者は統計上凡て歐洲人として表示してある。印歐人と謂はれるもの、是である。

その他東洋人の意味は、日本人が歐洲人の中に含まれて居り、支那人は別項に扱はれてゐるので、結局その残りといふ譯で、どんな連中かと言ふと、アラビア人、インド人、セイロン人等が主なものである。

ジャワでは西部にスンダ人、中部から東南部にジャワ人、東北部にマヅラ人が住んでゐる。夫々顔の特徴も異るし、着物も、家の建て方も、日常使ふ言葉も、習慣も性行も異つてゐる。

尙一九三八年度の統計に依れば蘭領印度全體では六千七十餘萬人、その内譯は

歐洲人	二四〇、四一七人
インドネシヤ人	五九、一三八、〇六七人



支那人 一、二三三、二二四人
その他アジア人

一一五、五三五人

となつてゐる。そしてこの六千餘萬人が面積一、九〇四、三五〇平方軒（日本の約三倍、滿洲國の一倍半）の蘭印全體に住んでゐる。

標準語としてはマライ語が使はれてゐるが、スンダ語より外話せない者もあり、マヅラ語より外は知らぬ者もある。特にマヅラは標悍で、色飽くまで黒く、腰にメス様の小刀を帯びて直ぐブスツとやる奴が多い。スラバヤの苦力とか擔ぎ賣りの行商人にはマヅラが多い。女のマヅラも一寸凄味を感じる。頭上に荷物を載

いて、腰を振つて調子を取りながら歩く様子は旅行者にはまことに珍らしい。女らしい等と思ふやうな御面相の者は先づないと言つてよい。

スندگانには美人も多いし、男も温和で、立派な顔付のが多いやうに思ふ。

ジャワはその中間を行くものらしい。

マライ語はインドネシヤ人が標準語として使ふばかりでなく、支那人も、日本人も歐洲人も使つてゐる。商業語としては戦前迄はイギリス語が主用されてゐた。上流語としてオランダ語が使はれ、ハタ(ベバ)南京のインテリ等は自國語を知らないで、得意になつてオランダ語を家庭でまで使つてゐたのである。今後は少くも大東亞共榮圏からはイギリス語、アメリカ語、オランダ語は駆逐したい。ジャワでは日本語とマライ語で充分だと思ふ。

土着民は殆んど全部イスラム(マホメット教)信者である。この點に關しては、日本人としても統治その他の關係上回教をよく研究し、無理のない施策を必要とすると思ふ。例へば回教では豚を不淨の最大なものとして忌み嫌ふ。「この豚野郎」といはれることは罵言の最悪のものである。彼等は豚肉を喰はないのみならず、豚を見ることも嫌ふ。だから回教徒は山羊を飼つて、その肉を喰ふのである。日本から輸入する安住蚊取線香に猪の商標が附いてゐるが、回教徒はあれを豚だと言つて嫌つて買はない。齒楊子も日本品は豚毛を使つてゐるとの噂が流布されて大問題を惹起した事があつたからである。

これに反して支那人は豚を最上の御馳走として賞味するのである。支那人がインドネシヤ人と幾百年同じ土地に生活してゐても仲善くなれない根本は案外こんな處に存するのではあるまいか。

回教徒は佛教を偶像教として輕蔑する。従つて佛教徒をも輕蔑する。何れの宗教が優秀かなどと問題にするではない。事實を事實として私は紹介するのである。佛教徒である日本人が回教徒であるインドネシヤ人を導いてやらねばならないのである。これは假定でもなく、議論でもなく、現實であり、宿命であるのだ。

これを如何にしてやり遂げるか、そこに日本人に課せられた大きな問題があると思ふ。先づ宗教的にインドネシヤ人を導き得たならば、南方共榮圏の建設は案外に容易なのではあるまいか。私達は眞面目にこの問題を考究しなければならぬ。

インドネシヤ七千萬人の提供する勞働力は大きなものがあるが、その文化の程度は未だ低い。文字を解する者三百七十萬人で、その内オランダ語を解する者二十萬人と推定されてゐる。従つてインドネシヤの職業も、多くは單純な勞働を主とするもので、就職者二千萬人中、原始産業に従事する者が七割を占めてゐる事實はこれを裏書きするものである。

三、都 市

ジャワには四千萬餘の人口があるが工業が未發達の状態にある關係からインドネシヤの九割六分は村落生活を營んでゐる。試みに一九三〇年の統計で人口五萬以上を擁する都市を拾つてみると、僅かに十二しかない。この十二都市に歐洲人は在住總數の六割五分、支那人は三割八分、その他東洋人は四割六分も集中してゐるのに對し、インドネシヤの都市生活者は僅か四分に過ぎない。そしてこの十二都市が全人口中に占める割合を示すと約五%であるから、ジャワが世界の模範的農業植民地と謂はれるのも尤もである。

しかもインドネシヤの都市生活は歐洲人や支那人のそれと大いに趣を異にし、謂はば都城内に於ける村落生活である。都市で土着民に向つてお前の家は何處かと尋ねると「カンボン○○」と答へる。「○○村」の意味である。○○村と言ふから郊外の田舎かと思つてゐるとさうではないのである。初めの間は、どうしてもそのことが私達にははつきり呑み込めないのであるが、これは都市の中に澤山の村落があるわけで、言葉を換へて申せば、その邊に澤山散在してゐた村落を包括して都市が出来た。そして一部の商業街は人家が櫛比し、繁華な大通りが出来てゐるが、横丁にせれると大樹の鬱蒼たる下に土着民の住家が點在して「カンボン」をなしてゐるのである。都市の新開の住宅街は、廣い庭園を占め、道路も公園式に設計してどんど

んと延びて行く。以前からのカンボンがあれば、それを遠巻きに避けて歐人住宅街は擴がつて行く。恰も大東京の中に昔の何々村が澤山包括されてゐるのと同様である。日本ではその郡や村が廢止されて何々區何々町などと改名される。ところが、ジャワの都市ではそれがいつまでもその儘残つてゐると思へばよろしい。民度の低い土着民と歐人や支那人が雜居してゐる關係で残存してゐる變態物とも考へられるし、また土着民の生活に干渉しなかつたオランダ人の巧妙な統治策の結果ともみられるのである。

一九三〇年の統計による人口五萬以上の十二都市を列挙してみると、

ジャワの領占軍

地名	全人口	内歐人
パタビヤ(現在のジャカルタ)	五三三、〇〇〇人	三七、〇七九人
スマタバヤ	三四一、〇〇〇	二五、九〇〇
スマラン	二一七、〇〇〇	一一、五八七
バンドン	一六七、〇〇〇	一九、六五〇
ソロ	一六五、〇〇〇	三、二二五
ジョクジャ	一三七、〇〇〇	五、五九三
マラ	八七、〇〇〇	七、四六三
ベカロンガン	六六、〇〇〇	八九一
パイテンゾルグ	六五、〇〇〇	五、二三三
グド	五五、〇〇〇	四一七
チエリボン	五四、〇〇〇	一、六五三
マダラ	五三、〇〇〇	四、一六九

合計

一、九四一、〇〇〇

二二五、八六〇

歐洲人の多い東洋の都市としては戦前の上海が第一、つぎがバタビヤとされてゐた。王領地のソロールとかジョクジャに割合に歐洲人の少いのはこれ等の地では土着民が官吏となつて一般行政に當つてゐた等の關係からである。バンドンとかマランに歐洲人の多いのは軍事都市として兵營等の存在したにも因るが、また高原都市としての設備がよく整つて官吏軍人その他の恩給生活者の多いにも因る。バイテンゾルグに多いのは、官廳の多いのと、バタビヤに事務所を持つてバイテンゾルグに住んでゐる連中が多いからである。兩地の氣温の差は十度に近く、道路は特に完備して五十分足らずで往來出来る。またマゲランに多いのは兵營があるからで、右は何れも十年前の統計であるが、ここ數年來の軍隊關係者の増加は驚くべきものがあつたから、右の表は相當變化してゐることと思はれる。

歐洲人の中樞は二十歳から五十歳までの者であるが、この連中の子供ともみられる二十歳以下の者についてみると、本國生れよりもジャワ生れの方が遙かに多い。即ち本國生れは六千名であるに對し、ジャワ生れは七萬一千名を示してゐる。

歐洲人の職業別人口を見ると、合計六萬六千七百名中、農園關係者一萬一千八百名、工業關係者三千九百名、交通關係九千四百名、商業關係九千四百名、自由職業八千九百名、官廳關係一萬六千六百名、其他六千八百名となつてゐる。支那人やインドネシヤに關してはこれ等の點

についての統計は不充分である。

私達がインドネシヤを研究する場合には、そこに截然と區別される二つの社會或は三つの社會が存在してゐることを先づ認識すべきである。二つとは歐人社會と土着民社會であり、三つとは歐人、華僑、インドネシヤ人である。これ等を一つに纏めてみることは不可能である。過去、即ちオランダ人の統治下にあつては、インドネシヤ人は如何に頭腦が優秀で、勤勉で、人格者であつても、決してオランダ人社會に仲間入りすることは出来なかつた。統治者の社會と被統治者の社會との差は文化都市とカンボンの差であつたのだ。

八紘一宇の理想顯現のため皇軍はインドネシヤ人の地に進駐した。今後のインドネシヤ人は人口的に如何なる方向を辿るであらうか。臺灣は皇化に浴して僅か四十年で籍民の人口は三倍となつた。ジャワの人口が皇化に浴して、更に増加するとなれば一體どんなことになるであらうか。生活を安易にしてやればその餘力で子供を生むと言はれてゐるインドネシヤ人を教育して、その餘力を文化とか思想とかその他各種方面の向上に振り向けしめることが出来ないであらうか。私は將來のインドネシヤ人の人口問題を興味を持つて眺めてゐるものである。

四、地方行政の概略

オランダ人はインドネシヤ人の風俗、習慣、最低部の行政などには放任主義を採つて、大體

を統べ、監視してゐたものである。そのやり方は寔に巧妙でもあり、狡猾でもあつた。ジャワではインドネシア人の九割六分までがカンボン（村落）に住んでゐて一つの「デッサ」を形成してゐることは前に述べた通りである。デッサと言ふのはサンスクリット語で「土地」といふ意味である。インドネシア人はこのデッサを社会生活の単位としてをり、これは二千年來の傳統を持つものである。ジャワの地方行政はこのデッサを基盤としたもので、デッサは西部に三、四一五、中部に六、七七六、東部に八、一四七あり、更にジョクジャカルタに八三〇、スラカルタに一、八四五ある。面白いのはジャワ人のデッサには共有田があつて、村人が一年の中の幾日かを勞力奉仕をして田を作り、そこで出來た米は納税のためにのみ用ひるといふ共產的な制度が存在してゐることである。この制度はスンダ人とマヅラ人には見出せないものである。

ジャワには右に擧げたやうに合計二萬一千十三の村があつて、一村平均人口二千名で六百町歩の田地を持つてゐることになつてゐる。戦前には農村改革が實施されて小村の併合が諸所で行はれてゐた。

村にはグルドといふ番小屋があつて、そこにトントンとかポコロと呼ばれる警告用木が吊されてゐる。それを敲いて村民に時を知らせ、集合などの合圖とし、又非常用警報ともなる。村民は交替でこの番小屋で當番をして村を護つてゐる。それで昔から自動車で田舎道を旅行など

した時に、過つて子供などを傷けた場合、決してその場で停車してはならない。必ず次の村まで行つてから届出るのが最上だなどといはれてゐた。椿事あつた村では直ぐ見張りがトントンを鳴らして村人を非常召集して加害者をおつとり圍む、言葉は通じないし、ぐづ／＼言つてゐる間に昂奮した村人は旅行者を袋叩きにして了ふのである。こんな時などトントンの効力は偉大である。

スラバヤ市内のカンボン等にも、或は又、警察署の前などにもこのトントンが吊してある。西部のスンダ地方ではデッサの下にカンボンがある。即ち幾つかのカンボン併せたものがデッサとなるので、カンボンは更に幾軒かのルンブルに細別されてゐる。バンタム地方ではルンブルをアンピアンとも言つてゐる。ルンブル、カンボン、デッサ、この組織が行政の最小限度の単位とされてゐる。マヅラではデッサのことをジサと言ふ。一つのジサは幾つかのメジ又はカンボンに分けられて、一つのメジとかカンボンと言ふのは四乃至十家族から成つてゐる。そのカンボンにはカバラ・カンボン（村長）が居る。

このカバラ・カンボンの上に小郡と言ふか分郡と言ふか鬼角郡の小さなものがあつて、これが幾つか集つて郡となつてゐる。郡にはウエダナと呼ばれる土着民の郡長が居て、管内を統轄してゐる。その上に土着民の理事官が居り、これをレヘントと呼ぶ。そのレヘントは四乃至十郡を統治してゐる。それが土着民理事州と呼ばれる。それを三乃至五併合したものが分省

で、歐人理事官がその長官として土着民の自治組織を監視してゐる。その上に一省の長官である歐人知事が居て地方行政を管掌してゐる。今これを表示すれば次の如く分れてゐる。

ジャワ	西部ジャワ省……五州……一〇七郡	この下に小郡又は分郡があり、
	中部ジャワ省……五……一〇七	更にその下に二萬一千十三のデ
マヅラ	東部ジャワ省……七……一三七	ツサ(村落)がある。
	ソロー王領地……一……三二	
	ジョクジャ王領地……一……一四	

即ち西部ジャワ省に例を取れば、そこには十の分省がある。即ちバンタム、バタビヤ、パイテンゾルグ、プリアンゲル、チェリボン、ベカロンガン、スマラン、ジャバラレンバン、バユエーマス、ケドーで、各分省に一名宛歐人理事官が居り、その上を西部ジャワ省知事が管掌してゐる譯である。

ジャワにはオランダに直轄されてゐない王領地が二つある。ジョクジャカルタとスラカルタで、ススナンと呼ばれ、サルタンと稱ばれる王様が夫々統治してゐることになつてゐるが、それは表面上のこと、王様はオランダから年に六十五萬盾と三十五萬盾かのお手當を貰つて、あらゆる實権はバタビヤ政府の總督に握られてゐた。人と面會をするのさへお目附(オランダ人)の許可を得、その立會の許でないことが出来なかつたのであるから、その他は推して知るべきである。

金を費すことならお目附は喜んで許す。だからサルタンには妾が五十名もあつて私生兒が百五十名もあるとかいふ。今後の地方行政はどう變つて行くか。オランダ人にすつかり去勢されて了つた王様達をどう導くべきか。スラバヤに居た桑折領事がスカブミから日本軍に救ひ出されて、ソローの王様の指導官になつたと聞く。尾張の殿様である虎侯爵はマライでジョホール王の指導官だと聞く。善處されてゐることと思ふが、樺を緊めて健闘されんことを祈る。

五、地理概観

ジャワ島は東經一〇六度から一一四度半、南緯六度から九度に及ぶ東西一、〇六五キロ、南北は最廣部分で二二〇キロ、最狭部分で六五キロの細長い島で、火山脈が縦走して活火山も多し。高山で名のあるのは百を越すが、三千米以上の高山を東から西へ順に列挙すれば次の十一である。

山名	(馬來語綴)	標高(米)	近くの町	東部
ラウ	Raeng	三、三二八	パンダワサ	
アルガブラ	Argapora	三、八六		
スメ	Smeroe	三、六七六	マラン	
アルジュナ	Ardjuna	三、三四三	スラバヤ、バスマラン	

ラウ	Lawoe	三、二六五	マデイオン	
メル	Merbiboe	三、一四五	マゲラン、スラカルタ	中部
スム	Soeming	三、三七一	マゲラン	
スン	Soendara	三、一四五		
スラ	Slamet	三、四二二	テガル	
チャ	Tjaremè	三、〇七八	チエリボン	
パン	Pangrango	三、〇二二	バンドン	西部

(西部、パタピヤ政府發行の國定教科書附録地圖に據る)

先づ活火山を見ると東部からラウン、アルガブラ、ラモンガン、スメロ、プロモ、ウエリラ、ケルー、ラウーがあり、中部にはメラビ(二、九一〇米)スラマツト、サンボロがあり、西部にチャルメー、グンツール(二、二四四米)ババンジャン(二、六六〇米)ワヤン(二、一八一米)パングランゴ、サラ(二、二一五米)があり、ジャワ西端にはブラサリ(一、三四五米)とカラシ(一、七七五米)があつて、まことに熾んなものである。更にスンダ海峽にはクラカトウ(八一六米)が誠に奇怪な火山として活動してゐる。ある時は水面下に没し、またある時は海上に姿を現出する不思議な存在として有名である。筆者の参考にした地圖は一九二四年版であるがクラカトウ山は八百十六米と記してある。水面下に没したものが、噴き上げてこるにも高くなることもあるらしい。只今の高さはどれ位か、據るべき資料を缺いてゐる。

ジャワの北岸は一般に平野が多く、海は遠浅である。南岸は東も西も急斜し、海岸まで山が

迫つてゐる海も深い上に、港としては僅かにチラチャツプ一港を有するに過ぎず、他の海港は何れも北岸にある。島が細長いのと山脈が島を東西に横断して走つてゐるために、河は自然と北と南に流れ、河らしいものは殆んどない。一番長いのがソロー河で三百三十七マイルで、次がプランタス河でスラバヤの近海に注いでゐる。

水田は大觀して東部に多く、中部之に次いで、西部は西寄りの北岸にあるのが主で他には少い。東部はスマランよりレンバンの附近、スラバヤの西及び南西ケデイリに至る間、東はバサルアン、バニユワンギ附近である。中部は北岸は全部で南岸にも及んでゐる。けれども米は自給するに至らず、タイ、佛印、ビルマに依存せざるを得ない。

椰子は到る處に繁茂してはゐるが、最も多いのは西部の北岸から西岸一帯であり、中部南岸はこれに次ぎ、バニユワンギ附近にも少しはある。

石油はスマランの南西と、スマランの遙か東でレンバンの南方に五ヶ所許り、スラバヤの附近に二ヶ所許りある。その産額はスマトラ、ボルネオに比すれば遙かに少額であり、一九四〇年のそれは八十餘萬噸であつた。鹽はマヅラ南岸に三ヶ所許りとスラバヤの北西ギリセ附近に一ヶ所採取されるところがある。

マヅラ南岸の東端にあるカリアンゲットの如きは大規模な官營の製鹽場がある。

六、動植物雜記

バイテンゾルグ博物館に行くに熱帯の動植物は皆蒐集されてゐると謂ふ。その方の専門家であれば次から次へと珍品が續出するので、一週間の豫定が二週間となり、一ヶ月となつても興が盡きないとの話である。筆者もこの方面には素人であり、研究の機会を失してゐるが、専門的のことは専門家に譲つて、こゝでは讀者に興味ある若干の問題を捕へて雑然と記述し、幾分の参考に供し度いと思ふ。

ジャワにも昔は猛獣がゐたらしいが、現在は僅かにバンタム(西部)地方の僻地に虎や犀が棲んでゐるだけらしい。中には殆んどそんな物はゐないといふ人もある。ジャワの東隣りにあるペリー島の山間には虎がゐるといふことであるが、これは十年程前に虎狩りに行つてこれを捕へたのだといつて剝製にした頭や皮を訪問客に自慢して見せるオランダ人から直接聞いた話なので、先づ眞實と思ふ。

鰐なども殆んど棲息してゐないらしい。ジャワから輸出されてゐた鰐皮などは殆んど全部外領のスマトラとかボルネオ、セレス邊りから集るものである。鰐を餌にして鰐を釣る話とか、夜ブラウに乗つて明りで照らすと鰐の眼玉が二つ光る、その眞中にゾドンと一發やれば必ず捕れるのだ等といふ自慢話は大分聞かされたが、不幸にして私は遂に今日迄一回も河に鰐

む野生の鰐を見たことがない。一體鰐の繁殖率はどれ位か知らないが、日本などで御婦人が鰐皮の手提を欲しがらるゝのの様子から推しても世界中の需要は大した量だらうと思はれる。オットセイのやうな繁殖力の素晴らしいものでも、捕獲を制限しないと絶える虞れがあつたのだから、鰐なども亂獲の結果大いに激減してゐるのではあるまいか。

野豚はゐるといふ。然し何處に居るのか筆者は未だ寡聞にしてこれを詳らかにしない。

農村の家畜としては水牛と山羊が多い。馬はポニー(小馬)が多い。これはスンバとスンバワ地方系のものである。小鳥は各種各様のものがゐるやうだ。雀は内地と同じで、澤山群生してゐるが鳥は少い。燕は海の上陸のとがゐる。海のは魚を主食として、その造つた巢が支那料理の燕巢として珍重されるものであることは讀者の既に熟知のことである。陸のは内地のものより少し小さい。空中などで小蟲類を餌とするといふ。

小さな色彩の美しい鳥が澤山に居る。小鳥の鳴き聲は聴かうと思へば樹間でいつでも聴ける譯であるが、番印象的なのは早朝に聞く小鳥の聲である。夜明け三十分前頃から澄んだ空気を透していろ／＼な小鳥が合唱する。充分に醒め切らない頭で寢床の中でこれを聴いてゐるのは何と言ふ楽しみなことであらうか、想像の外である。

臺灣にもゐるが、ジャワにもヤモリは多い。土語でテツチャと呼ぶ。蚊を追つては巧みに壁を馳り、チチとなく。腹が透き通つて見えるのは内地と同じだ。これの子供などは可愛い様子

をしてゐる。チツチヤの大きいのにトツケーといふのがある。これは屋内よりも屋外の軒下とか樹幹とか一寸濡つたやうな暗いところにゐて、夜になると出て来る。殆んど動かさない。初めて聞くと驚く程の大騒いでトツケーと鳴く。續けて七聲も鳴くのが珍らしいので七聲聞けば幸運が来るといふが、七聲はいつでも聞ける。あれは十三聲でないかと幸運が来ないといふ人もある。成る程。聲なら割合に容易に聞けるらしいが、十三聲となると殆んど聞かれない。トツケーはチツチヤよりは形が大きい、ハンドバッグには出来ないらしい。

罎に次いで熱帯産の手提として好まれるのはトカゲである。あれは一寸物凄いのそく動く。動くのを見ると動からず驚かされる。一米位のもあるからで、私がこの前スラバヤにゐた時にジョンゴスに頼んで置いたら捕まつたといつて持つて来た。ダルモの飛行場の一隅にゐたといふ。針金を十文字に結んで引きつづつて来たので、逃げると思つて、小さな部屋に入れて置いたら、部屋中が臭くなつてそれを困つた。剝製にしようと思つて、ジョンゴス(給仕)に言付けたところ言葉の間違ひで皮を剥いで来た。土着民はこれの肉を喜んで食べる。生きた奴を一眉で買つて、殺して皮にするのに二眉五十仙取られた。上手に皮を買へば一眉か一眉半で買へるのに大變な損をしたものである。

夜ベランダに明りを出して置いても蟲は餘り来ない。内地の夏などは小さな蟲が澤山電燈のところに來襲するので閉口することがあるが、あのやうなことはない。だからといつて全然小

蟲がゐない譯ではない。牛裸で書き物などをしてゐる際にチクリと痛いので、見ると青い小さな蟲が皮膚にしがみ附いてゐる。

時折り羽蟻が大擧して襲來することがある。こんな時は明りを消してこちらが退散するより致し方がない。インドネシヤ人は羽根の抜けた羽蟻から蟻に轉化した許りの奴をゴリン(油でいためること)にして食ふといふ。ゲテ物食ひの一種ではあるまいか。

蛙は随分癡猛に鳴く。ゴボン／＼と響いて来る。雨期には特に多いらしい。蛇なども相當居るのだから町に住んでゐると殆んど見ることがない。

植物は熱帯地方は概ね大同小異である。特にジャワで特殊なものと謂へば規那樹位で、他所では一寸見られないものであらう。インドネシヤ人の日常生活と切つても切れないのは、何と言つても竹であらう。彼等はいろ／＼な器物を竹で造るし、竹の柱に茅ならぬ椰子の屋根の家屋はそれこそ到る處にある。竹の種類も多い中に、幹の色の眞黄なのが、特に人目をひく。それに青の縞が通つてゐるものもある。ジャワの竹藪は内地のそれのやうに廣面積に擴がつてゐるのではなく、株をなして叢生してゐる。一叢からちや／＼と數十本が勝手放題に伸びて四方に垂れてゐる。非常に混雜してゐるが、餘り飛んでもない處には筍を出さぬものらしい。この竹藪がカンボンにもあるし水田のところ／＼にもある。それが近所に澤山あつても、相互には

相當の距離を保つて一畝毎に生えてゐる。行儀のよいのに驚くべきである。有用植物としてはゴム、キナ、茶、コーヒー、チーク、カボック、椰子等である。これらの中には大資本によつてエステート企業として大規模に栽培されてゐるものもあり、又土着民の手で個々に耕作されてゐるものもある。

大樹となつて、澤山の脚枝を垂れてゐる榕樹の風情も面白い。ホテル・デス・インデスの庭とか、バイテンゾルの舊蘭印總督官邸の正面などには見上げるやうな大きな榕樹がある。

並木としてはタマリンド等が多い。その他にイラン、ムラテイ、クナンガ、カイリイなどがある。山などには美しい花を一面に咲かせた大きな樹がある。何といふ名かと思ふが教へて呉れる人がない。カボック樹の遠望は私には内地を想はせるものがあると思ふ。コーヒー樹の白い花なども珍らしいと思つた。ゴム樹にも花が咲くのである。

七、ビール異變

一九三四年と言ふから、今から八九年前丁度長岡全權が来て、バタビヤで第一回日蘭會商をしてゐた頃の話である。五大商社の随一であるボルスミ——ボルネオ・スマトラ商事會社——が、内地のキリンビールをタップブランドと銘打つて盛んに輸入してゐた。ボルスミに較べると物の數にも入らない位のレース商會が、その頃ユニオン・ビールをチャップ・グンテンと命

名して、これ亦盛んに輸入に努めてゐた。チャップ・グンテンとは鉄印の意味で、商標に鉄を使つてゐたのである。兩社とも、日本ビールで徹底的に競争してゐた。後者の如きは、ビール瓶の裏にレッタルを貼つて、丁度キヤラメルとかグリコなどが一時やつたやうに、そのレッタルを幾枚持参したら何々の景品を進呈するといつた方法を探り、十二枚ならナイフ、二十五枚なら魔法瓶と言つた具合に宣傳してゐた。

當時のビールの相場は四打入り一函が、ジャワビールで十二盾であつたのに對し、日本品の鉄とかクツプは九盾であつたから、これにはオランダ側も閉口したらしい。然し内地の輸出値段が七圓であつたと聞くと更に驚かされる。一本が十五錢につかないからである。既に地盤のある商品を驅逐して、或はそれに割込んで行つて、同じ商品の販路を開拓するといふことが、如何に至難であり、如何に大なる犠牲を拂はなければならぬかといふことがこれでわかると思ふ。内地の者の犠牲に於て、斯うした競争をすることは、如何に自由主義の時代であつたからと言つて、自らその限度があつたのではないかと思ふ。オランダ側で、一番最初に非鳴を擧げたのも、ビールである。輸入制限の實施も確かビールに對して第一に行はれたと記憶してゐる。この果しのない競争を見て、ジャワでは自領産ビールの保護のため輸入制限を行ひ、國內的には販賣統制を行ふに至つたのであつた。その結果の價格が十二盾位であつた。間もなく日本品の入荷が激減して、市價は十三盾五十仙位に引上げられた。

當時ジヤワ産ビールの種類は六種くらゐであつた。会社としては二つであるが、商標をいろいろ變へてゐるのである。スラブヤにあるビール会社はヘイネケン・ビール会社といひ、そこではヘイネケンとジヤワとレツクスといふ三種の商標でビールを市場に出してゐる。又バタビヤには、オラエエ・ビール会社があつて、アンケル(錨印)ダイヤモンド(金剛石)クリス(刀)の商標を附する三種類を醸造してゐる。製造高とか消費高とかの統計は據るべき數字を缺いてゐる。

昭和十六年(一九四一年)の十月から、ビン代を別にして値段を決め出した。その相場は四打入り一函で十六盾で、ジヤワとクリスは一盾安くて、十五盾であつた。

瓶代は一本につき十仙である。これは空瓶を一本十仙で、会社が引取ることを意味するのであるが、買入れる時は四打分四盾八十仙の瓶代を豫納することになつてゐる。だから一函十六盾のものを買ふには、先づ二十盾八十仙支拂はないと賣つて呉れない譯である。瓶を返さねば一本十仙の割で消費者の負擔に歸する。返せば十仙に引取つて呉れる。

皇軍占領下の現在は非常に品薄である。四月一日位からビール会社も作業を再開した筈であるが果してどうであるか聞知しないところである。價格も一應は一函二十五盾とおさへられてゐるが、品切れなのと先の見通し難もあつて、結局入手するには相當の困難を伴ふ。

現に三月末私達が支那料理店で飲んだ時は、大瓶で七十五仙位であつたが、間もなく大瓶は

品切れになつて、四月の初めには、ホテルなどでも小瓶を一盾で賣つてゐる有様である。

オランダ人は行動は自由だし、やけ氣味も手傳つて、晝から到るところでビールの満をひいてゐる。あれちやいくらストックがあつても無くなるだらう。華僑商人が、未だく隠してゐると思ふが、何時出て来るやら。ウイスキーは皆無と言つてよい。ジヤワの物資缺乏は先づアルコールよりと申すべきか。

四月十日頃の現狀に依ると、各工場でビールの醸造を開始した。ヘイネケン工場を見て來たが、オーストラリアから輸入してゐた小麦は半ヶ年のストックがある。

毎日の醸造高は八萬本とのことであつた。

八、家庭生活の一瞥

日本人として、ジヤワに居て生活すれば、昔なら先づオランダ人並みと言つたところだらう。固よりオランダ人にもピンからキリまであるから、とてもピンどころには及びはつかないにしても、キリ程度なら及び得るだらう。

住宅街であると、小さな家でも五十盾以上の家賃である。支關を入ると一寸した廣間があつて、セットを置いてある。その右か左或は細長い家だと奥に應接間になる部屋がある。その奥には食堂がある。更に奥に寢室、續いてマNDER場と言つた式で、便所はマNDER場にあるの

が普通だ。並んで別室になつてゐるものもある。臺所と使用人の部屋が二つ位ある。これが小住宅の見本で、部屋数は先づ四つ位である。中になり大になるに従つて部屋数は増すが、いくら増しても、せい／＼七つか八つどまりで、大きなのになると別棟のバビリオンが附く。家賃も百盾となり百五十盾以上になる。要するに外人は夫婦本位の生活だから、夫婦の寝室と食堂、應接室に子供部屋でもあれば充分なのである。よくなれば調度をよくする、寝室を冷房にすると言つたやり方である。

冷蔵庫は大概電気冷蔵庫で、仲々立派である。内地では電気冷蔵庫は贅澤品であるが、ここでは普通家具である。内地では先づ夏三ヶ月とすれば一年の四分の一、四ヶ月とすれば三分の一、贅澤な家で五月から十月迄使つても精々半年で、あとの半年は使はないで遊ばせて置くのである。ところがジャワでは一年中使ふのである。考へやうに依つては、これ位安いものはない。又電気會社でも損料貸しをする。販賣會社では月賦販賣もするのである。昔でも小型で三百五十盾から五百盾はした。中型なら六百から八百ものである。四五盾を百圓とすると相當高價である。が、目下はギルダは圓と等價となつてゐる。電気料が冷蔵庫や冷房を使ふと、どれ位要るのか、目下の筆者には判らない。

狭くとも、調度が整つてゐて、ピアノあり、ラジオあり、電気蓄音器あり、額ある家は羨ましい。更に寝室に冷房があつて、二十度（華氏の六十七度附近）位に空気を冷やせるかと思ふ

と、何と人間と言ふ奴は贅澤なもの哉と思ふ。ダルモ附近の一寸した家にはピアノのない家はない。豎形でなくグラウンドを備へた家さへ多い。最近日本人が住んで下手なピアノをかきながらしたり、影を慕ひて等の古賀政男式の一曲を奏してゐるのがダルモの珍風景となつてゐる。正にダルモ戦線異變ありと申すところである。

更にどんな家になつて、先づ自動車はある。自轉車もある。今でこそガソリンが思ふやうに使へないが、車庫の附いてない家なんか殆んどないといつてよく、一寸した家では二臺格納出来る車庫がある。贅澤な生活をしてゐると結局戦争に敗けるとしたならば、私達は何としても贅澤にはなり度くない。然し科學を實生活に取り入れて活かしてゐる點では確かに羨ましいものがある。

電氣が便利で、清潔で人手を省くと言つても、日本の一般家庭では電燈に使ひ、ラジオに使ふ程度である。少し進んでアイロンを使ひ、電氣蓄音器を使ひ、扇風機を使ふ程度である。電氣冷蔵庫は稍々普及した觀はあるが、電氣で湯を沸かし、電氣で料理をする家庭などは、それこそ指を屈する位であり、更に電氣で夏は冷房をし、冬は暖房をする等といふ家庭は殆んど絶無であらう。冬の暖房といつても、電氣ストーブを謂ふのではない。サーモタンクを謂ふのである。冷房の逆装置を謂ふのである。

家庭の使用人については、シンガポール（昭南島）では馬來人よりも支那人の方が家庭使用

人として多い。料理でも洗濯でも支那人の女が多い。所謂アマである。運転手に馬來人が居り、番人とか掃除人にインドのパンガリ人などが雲を突くやうな團體に案外な愛嬌を見せてゐる。

然るにジャワでは支那人の使用人は尠く、何れもインドネシヤ人である。尤も馬來では人口の半分の二百五十萬人が華僑であるに對し、インドネシアでは六千萬人の人口の中、僅か二割そこ／＼の百三十萬人位の華僑であり、反對にインドネシヤ人が殆んど割九分を占めてゐる關係もあるのであらうと思ふ。

ジョンゴス、コブン、シヨフイール、バプコツキ、バプチュチ、バプ（子守り）等が是非必要であつて、どこの家にも雇はれてゐる。ジョンゴスは給仕で、家庭では部屋掃除から、主人の送迎、飯の給仕などをやる。コブンは庭掃除人で、外廻りのことは一切これの受持ちである。シヨフイールは自動車の運ちやんで、自動車以外のことはやらぬ。バプコツキは料理婦で、バプチュチは洗濯婦である。右のやうに大體各自の仕事の範圍がきまつてゐるので、善意にも悪意にも他人の仕事を犯すことは決してやらない。だから日本式に一人が留守だからとて、その者の仕事を他の者に言付けても決してやらうとはしない。係りが只今留守ですと答へる。能率は極度に低いと思つてゐれば間違ひはない。

給料はどれ位かといふと、〇〇で定めたのは食費自辨で運転手は廿五盾以上——日給なら五

十盾——料理夫は廿五盾から卅盾、料理婦は十盾から十二盾五十仙、園丁は十盾から十五盾、洗濯婦は七盾五十仙から十盾である。私の宿舍で使つてゐたのは、以前の使用者なので身元も安心と言ふ譯で、それを戦前の給料で備ふことにした。運転手は名前をタリーと言つて三十盾、料理婦はサトニーとピヤトンの二人でサトニーは十盾ピヤトンは九盾、園丁はウオソソ——と言つて十六盾、ジョンゴスはジュワイエルと言つて十盾、その妻タスを洗濯婦として八盾やつてゐた。

食費は自前で、簡単な飯屋が荷を頭にのせて來たり——主として女賣子るとき——肩に擔いで——男賣子るとき——各家の臺所口に來て賣るのである。ジャワ人は一度に相當の量を取つて、しかも一日に三度などと決めないで、氣が向けば少し宛何回も攝つてゐる。一度に精々二仙か三仙のもので、ピーサンの葉にくるんだ飯に、一寸したお茶を附けるだけである。主人の残飯は勿論使用人共が喰べるので、氣をつけてゐないと結局残飯を澤山残して、自分達の分としてゐる。私なんかの世帯は男許りなので、その邊は氣を附けた積りでも、殆んど使用人任せとなるので、都合よくやられてゐることと思ふ。

厳格な、やかましい男がゐると、米櫃にまで鍵を掛けてゐる。さうしないとゴマ化されると言ふのである。事實ジャワ人は割合に正直ではあるが、不正をしないと断言出來ぬ。大物を盗むやうなことは先づないが、コソ盗はやらないとは限らない。墓口からでもみんな取ること

はないが、紙幣を一枚抜いたり、小銭を少し持出すことはあり得る。仕末をする者が注意することが肝要である。パツサル（市場）の買出しは、バブコツキーが往く。大抵は往きは徒歩で歸りは買込んだ品物と合乗りで、ロツカル（幌馬車）を臺所口まで乗りつける。だが足代としての計上は往復が普通である。トアン（旦那様）といふ者は——奥様も同様に——そんな細かいところ迄文句を謂はない者と彼等の間では相場が決まつてゐるのである。

女は給料を貰ふと金の装身具などを買ふのが多いやうだ。インドネシヤ人が貯蓄をするを謂へば、こんな形式で装身具を殖やすくらゐである。獨身で、収入のよいバブコツキーなどは、月々装身具が多くなる。夫婦でコブンとチュチとか、シヨファイルとコツキーなどしてゐる者もある。私の宿のはジョンゴスとチュチであることは前にも書いた通りである。一體にシヨファイルとなると高給を食むので、その妻君には怠け者が多く、ブラ／＼して遊んでゐるのが多い。日本に於ける女髪結の亭主を逆に行くものである。

コブンは庭の落葉を掃いたり、草を刈つたり、生垣を切つたりする位であるが、草の生え方も熱帯式で猛烈なので、一寸廣い庭だと一人のコブンでは手が届き兼ねるくらゐである。テニスコートでもあつて、それがコンクリートでなくローンでもあれば草の手入れも要るし、時にはローラーもかけなければならず、その手入れは仲々大變である。トアン連中がテニスでもやると、球拾ひはコブンかコブンの子供の役目となる。トアンはテニスはするが、ボールなん

かは拾はないことになつてゐる。事實熱帯でのボール拾ひは仲々の骨折り仕事だ。だからボール拾ひに使つた時は時間の長短にもよるが、少くもチップとして二十仙なり三十仙なりはやる必要がある。庭にある椰子の樹から實を取つたり、マンゴをもぐにも、これもコブンの手を經ねばならぬ。

チュチバブは毎朝各居室や寢室を廻つてトアンやニョーニヤが洗濯物籠やタイルの上に放置してある洗濯物を集めて裏庭の洗濯場で洗つて乾す。熱帯の強烈な光線のために三、四時間もすると大概のものは乾く。それを取込んでアイロンをかけて、遅くも午後の四時頃には仕上げで、又トアンやニョーニヤの部屋へ届けて置く。それでチュチの一日の仕事が終るので、カンポンの住宅へと歸る。一々出入りに挨拶するではなく、黙つてヌウツと來てヌウツと歸る。ワイシャツなどの下着類なら二十枚位は一人で樂に片附ける。石鹼やアイロンは勿論主人持ちであるが、八盾位の月給で、これだけ洗つて呉れば結局は安いものである。だが毎日二十枚もある譯でなく、私一人に就いていへば多い日で四、五枚、少い日は皆無の時もある。これでチュチとしても採算が採れる譯である。

ホテルでの洗濯のことは別の處に記してあるが、ジャカルタにある日本人のホテルなどでも、男の洗濯人を雇つてゐて、ホテルの備品から自分達の洗濯は勿論のこと、客の汚れものも洗はして洗濯代を取つてゐる。客としても便利であるし、ホテルとしても洗濯夫に一定の給料

さへ拂へばあとは収入となる譯で一舉兩得である。

昭南島の東洋ホテルでは面倒だと言つて、客のものは總て常出入の洗濯屋に出して、備品と自分達のものだけは廣東人のアマに洗はせてゐた。尤も東洋ホテルでは裏庭が狭いので、洗濯物が澤山になると第一乾場もないくらゐである。ジャカルタの箱根ホテルはそこへ行くと裏庭はベラ棒に廣かつた。

ジャワ人の使用人は、主人に對する正式の禮儀としては膝行して答へ、挨拶をするのであるが、今は正式のを見るのが稀である。何時頃から斯うなつたのか、誰の躰か、それは知らない。私が最初ジャワに來た時は一九三六年であつたが、神戸からスタルヂョウ氏と同船だつた。氏はマラン近くに邸宅のある相當な人物で、當時は國民參議院の議員であつた。一人の男の子を日本で教育したいとの希望で、妻子を伴つて東京に到り世田谷邊りに借家をして、子供を日本の小學校に通はせてゐた。年二回の參議院開會の時は單身議席に出るために歸爪するのて、丁度その途であつた。船中で知り合つた關係で、スラバヤに着いた時、船長と私は彼の邸宅に招かれて客となつた。私としてはジャワは始めてであり、見るもの聞くもの總て珍奇であつたが、今でも記憶に残るのは、彼が歸宅した時出迎へたジョンゴス達の片膝を地についての丁寧な挨拶であつた。オランダ人もこれをやらせてゐたらしい。今もやらせて家があるかも知れない。私はオランダ人の家庭に出入りしないので、その邊のことは確かでないが、ソローや

ジョクジャの王領地の格式のある家では勿論行つてゐるし、或はもつと嚴格な身分上の禮儀があるのかも知れないと思ふ。日本人の一般の家庭では、こんな風景は見られない。

午睡の時など、ジョンゴスに何時に起せと言付けておくと、その時間が來ると、トアンを起しに來るが、その起し方がとても面白い。何だか足の先が擦つたいと思つてポツカリと眼を開くと、ジョンゴスが居る。何をしてゐるのかと聞くとトアンを起してゐたといふ。どうして起してゐたのかと聞くと足の拇指を引張つて見せる。ねむつてゐる人を起すのに、足の拇指をひつばるなどは凡そ珍風景ではあるまいか？

子供をお守りするバプはお守りさへすればよいのであつて子供を躰ける權限は毛頭附與されてゐない。だから子供が悪いことをしても決して叱らないし、教へもしない。謂はゞ子守りのロボットである。白人に見れば劣等人種と見下してゐる土着民の無智な女などに子供の躰なんかして貰ひ度くないのであらう。日本人の子供が支那人のアマなどになつてゐる風景のやうなものは、白人に關しては見られない。こんなやり方がよいか悪いかは別問題であることは申すまでもなく。

ジャワに於ける家庭生活とは、さつとこんなものである。日本の婦人で新婚の若い方が、内地の暮し方を御存知なしに、夫君に連れられてジャワに來たとすると、周圍がみんなこれだから、世話女房として大いに腕を振はうと思つてもすることがない。寢床の仕末も洗濯もして呉

れる。マンデーして洗面すれば食事が出来ましたと告げて来る。夫君を自動車まで見送つて了ふと、もうすることがなくて欠伸である。まめな奥さんが居て働き度いと思つても、掃除とか洗濯などは絶対にしてはならないといふ、そんな事をする和使用人があきれて奥様を尊敬しなくなるといふ。一度こんな環境に馴染んで、遊び癖が附くと、結婚生活とはこんなものと錯覚して飛んでもないことになるのである。夫君がいつ迄もジャワ勤めなら、収入も多いし、こんな生活も出来る、親戚もゐない、年寄もゐない、うるさい小姑もゐない、至極呑気に人生の青春を楽しめるかも知れない。然しさうは間屋も卸さない。一度内地に歸ると、すつかりボロが出るのである。

内地で貧乏世帯の苦勞を少しでも知つてゐる人なら、ここは此處、内地は内地で多少の覺悟もありケジメも判つてゐる筈である。それでも變に贅澤になつて、いやにお高くとまる者が多いのである。青年の渡航を勸めて來た私としては、同時に若い婦人の渡航も勸め度い。とりわけ、新婚夫人の渡航は双手を舉げて勸説したのであるが、この點に於て一抹の不安なしとしないのである。大東亞の建設は空念佛では出来ない。男だけで出来るものでもない。日本男子は強く勇敢であるが、それも日本婦人あつてこそである。やさしい日本婦人の理解と協力と援助と激勵がなかつたならば、どうして光榮ある長期建設の榮冠が得られやうか？ 確乎たる信念を抱いて現實を理解する日本婦人の協力を俟つこと甚大である。

次に使用人を使ふ時の心構へと注意を二、三書いて見る。

私は使用人は叱つて使ふよりもほめて使ひ度いと思つてゐる。然るにインドネシヤ人はうか／＼褒められないのである。例へばバプコツキーが作った料理が割合に口に合つてうまかつたとする。私としてはこれはうまいと褒め度いのである。ところが若し褒めたとするところから殆んど毎日同じ料理攻めに遇はねばならない。オランダ人などはどうしてゐるかといふとたへお氣に召したことがあつても決して褒めない。反對にまずいことがあるとそれを叱るのである。三百年の間オランダ式にやられて來たインドネシヤを相手にするにはオランダ式の方が効果がある。然し日本人には叱る許りで褒めないやうな薄情なことが出来るだらうか。インドネシヤ人を日本式に教育し直すとしたならば五百年はかかるのではあるまいか。

今日の晝食がそれであつたので想ひ出したが、バプコツキーなどは人數に依つて量を測ると言ふやうな事は出来ない。出来てもしないのか、出来ないのかその邊は判然としないが恐らく出来ないであらう。或はそんな些細な事に一々頭を使つて居てはやり切れないと言ふかも知れない。三人前の米飯と言へば、皿に大盛りのちらしなどを作つてあつても、鍋にはいつもと同じ量の米飯を焚いてゐるのである。日本人に使はれてゐたことのあるコツキーならちらしとか壽司位はまずいながらも作る。壽司を澤山盛りあげて、その外にいつも丈の飯を焚く。不出来で旦那様達のお氣に召さない時は困るから普通通りに焚きましたと言ふ見方もあるが、そ

んな殊勝なものではない。あり餘る天の恵みに馴れ過ぎてゐるからであらう。

内地で一人前二合七勺の米で、私が二月に東京を出發する時なんか、一日三度の米食は家庭では出来なかつたのである。晝は代用食にしたが、その代用品も手に入らなかつた。朝晩の二食も井飯の盛り切りであつた。あの不自由さを知つてゐるので、勿體なくて仕方がない。出来ることなら米を送つて、腹一杯喰べさせてやり度いと毎日三度々々思ふのである。バプコツキ一達には素よりそんな深刻な事が判らう筈もない。こちらもいつたところで、日本の恥曝しだけで、少しも手柄になることではないので言ひ度くもない。尤も馬來語が下手でそんなことは思ふ通りに喋れもしないのであるが。

これで眼がつぶれなかつたら、神様と言ふものがないのではないかと日本の子供は想ふ。如何に物を粗末にしても、それがために眼がつぶれたといふ話はインドネシヤ人の間では一向に聞かない。いくら使つても使ひ切れない物資が恵まれるのである。こんなのをこそ羨ましいといふべきである。

主人勘定の出入りお構ひなしといふ點もあるだらうが、内地から見ると恐ろしいと思ふほどの現象が毎日臺所やバツサル(市場)で行はれてゐるのである。こんなことは男の領分ではない。女の人が後續隊として續かねばならぬ理由の一つがこんな處にもあるのではあるまいか。バプなどが臺所道具などを壊すと、日本人なら文句は言つても謝罪すれば不注意を戒めて許し

てやるのであるが、オランダ人は文句も謂はない代り、あやまつても決してその儘では許さない。月末が来ると僅か七盾とか十盾位の少い給料の中から壊した物の代價を差引くのである。こんなエゲツないことが平氣で果して日本人には出来るであらうか。

オランダ人が三百年も異喰つてゐた植民地をその儘貰ふのは、羨ましいことだと想ふ者があるかも知れないが、何事につけてもこれを日本式に訂正するには大變な時日と努力と忍耐が要るのである。風俗も習慣も言語も物の考へ方も全然違つてゐる他家で三十過ぎまで育つた無智な女を貰ふやうなものである。一苦勞も二苦勞もする決心がないと手も足も出ないことである。バプアナ(子守りバプ)は奥さんから叱られたのを子供に報復するのは何處も同じであるらしい。子供が無理を言つても主人の前では叱らないバプが陰では相當に叱るらしい。一番よく使ふのはツネルことらしい。ツネリ方は日本のと一寸違ふ。日本人は拇指と人差指の先で肉を挟んでツネルが、彼女等は人差指と中指を曲げて、その中間で肉を挟む。どちらが効果あるかは皆さんでお試めし願ひ度い。白人などもこの方法だといふから、インドネシヤ人が教へられたものなのか、それともそれがインドネシヤ人の固有のやり方なのか、その邊のことまでは判らない。

九、原住民氣質

オツパスと言ふのは、店童のことである。事務所にて、郵便局へ電報を打ちに行くとか、銀行に行くとか、他の會社へ手紙を持って行くとか、タバコ買ひの使ひに行くとか、お茶を出すとか、そんな雑用をするのである。先づ内地の給仕である。内地の給仕と言へば凡そ國民學校生か、漸く國民學校を卒へたくらゐの子供から高等科の卒業生乃至は精々中學下級生くらゐであるが、ジャワでは案外大きい。小僧ではなく中僧から大僧と言ふべき年齢である。中には妻帯者もゐる。尤もジャワでの結婚適齡期は内地と較べものにならぬくらゐに早くはあるが。

月給は先づ七盾見當か？ 長年勤めて優秀なものでも先づ十盾以下である。店童入用の時は新聞などに廣告してもよいが、今迄居る者とか、他店の店童などに頼むと大抵連れて来て呉れる。その方が早くもあるし、安上りでもあるし、紹介者を介しての信用もあるといふ譯である。お目見得に來た時に、自轉車でも持つて居やうものなら、得意然とその事を申立てて、自轉車のない者よりも給料を高く呉れといふ。ジャワでは事實自轉車自分持ちの時は給料は二、三盾高いのである。だから彼等の最大の希望は自轉車を買ふことであり、次は早くカワンカワ（好きな人）を作ることであり、次は白ヤカーキ色の會社所定のお仕着せの服——精々十盾前後のもので、襟章に會社のマークを赤や青で縫つてある——を着ることである。無邪氣と言

へば無邪氣、慾がないと言へばさうでもあり、少しお目出度いと言へば、さうでもある。問題はこれを無邪氣とか無慾とかいつて済ましてゐてよいか否かに存する。

七盾位の月給で勤めて月末にもなると、もう前借に來る。最初は二盾とか三盾程度で、お祭りがあるので田舎に歸る費用だなどといつて來る。二、三ヶ月もすると、自轉車を買ひ度いから三十盾貸して呉れと來る。どうして返すのかと尋ねると、月給から差引いて呉れといふ。七盾の月給とすれば、どういふ勘定をする考へなのか。全部返済させても四ヶ月以上もかかる。全部で困るとして三盾位とすれば先づ一年がかりである。返済しない内に、きつと次の借金を申込んで來る。オランダ人などはどうか知らない。支那人についても知らない。日本人はこんな大金の前借には應じないのが普通である。應じてやらないことは、彼等のためでもある。身分不相應な借金をしてよからう筈はないからである。

然し彼等には借金は常道である。だから少しでも悪い奴で高利貸根性の奴ならどん／＼貸して、高利をせしめ、おまけに口ハで使ふこととなる。尤も餘り澤山貸して取立てられねば、元も子も無くする譯だから、そこには自ら限度がある。この男の限度はどの位か、それを早く見極めるところに經驗が要る。支那人とかアラブの高利貸などは、そこに先天的に近い直感力が働くらしい。

インドネシヤ人としては、借金は恥ではなく當然であり、寧ろ手柄でもある。借金の出來な

いことは腕もないし職もないことを意味する。凡そ職についてゐる限り貸手はあるのである。職についてゐることが絶大の信用でもあり抵當でもあるからである。昨日までブラ／＼してゐて、高利貸でさへ寄りつかなくなつたとしても、今日は日本人の家のジョンゴスに雇はれたとか、オツパスに採用されたとなると、それだけで高利貸が寄つて来るのである。彼等の借金は、大抵五割から十割の日掛返金の高利ものである。

借金の出来ないやうな男には、カワン／＼さへ出来やせぬ。だから一生懸命借金して、腕を見せる。自轉車を買ひ度くもなるではないか。お仕着せだつてさうだ。第一彼等が着てゐるものより必ず立派である。そして必ずロヘである。そしてそれを着てゐることが即ちそこに勤めてゐる最大の證據でもある。議員章を付けて、議院から出て来るのより大袈裟であり確かである。

お仕着せで男振りを上げた若者を見ると、村の娘つ子だつてはれやうと言ふものである。だから彼等は、お仕着せを貰ふと、きつと前借して、田舎に歸りたがる。錦繡を纏ふて郷關に歸るといふところである。村の鼻たれ小僧に、大きくなつたら何になるのかと聞くと、ジョンゴスとかオツパスと答へるだらう。シヨファイル(運轉手)になるのだと答へる奴は、餘程膽玉の太い兒である。丁度内地で大臣大將になると答へると大差ないのだ。シヨファイルは驚く勿れ、二十五盾から累進して、三十盾、四十盾の高給を貰へるのである。彼等の三十盾は内地

での月収二百圓以上三百圓に匹敵するであらう。シヨファイルで二十五盾も貰つてゐる者で妾のないやうな者は一人もゐない。

限雇(ローカル・クラーク)で三十盾を貰つてゐると、適當な一軒の家を借りて、家族五人を養ひ、女中の一人も置いてゐる。内地でその程度のことをするには二百圓から三百圓の収入がなくてはならぬ。場合によつては、それでも彼等の生活には劣るかも知れない。

如何に搾取されてゐても、ジャワ人の生活は、未だ／＼恵まれてゐると思ふ。日給三十仙の苦力でも、月給七盾の店童でも結構暮して行けるのである。衣服は要らないし、食物は一度に二仙位のものや喰べるが、日に五度喰べても十仙程である。袴はいらぬ。セルはいらぬ。羽織はいらぬ。綿入れはいらぬ。禮服もいらぬ。浴衣の平常着が二、三枚あればよい程度である。大便がしたくなれば河の水の中にお尻を入れて思ふ存分泌すればよろしい。太陽が照つてゐやうが、雨が降つてゐやうが、人が見てゐやうが、そんな事は考へる必要はない。それこそ大臣大將が河向ひの道から見ても、明後日の方向を向いて、勝手なことを考へ乍ら鼻唄でも歌ひ乍ら思ふ存分泌物を排出してよろしい。濟めば左手と水で簡単に手際よく處理をして、サロンを引き上げ上げて腰に巻けば萬事終りである。序でに河の水で顔でも洗つて、脊伸びでもして、他所へ行く途中なら、また歩き出せばよいのである。紙は使はないのだから、高くても心配は要らない。無くつても買溜める必要もない。物資はないと言つても、

未だ／＼豊富である。田舎では物産が賣れなくて困つてゐるとか、煙草がなくて困つてゐるとかいふが、それとて程度の問題である。

オツパスと自轉車が大變な横道へ走り込んで、河の中まで入つたやうであるが、これも考へやうである。オツパスが颯爽と自轉車に乗つて使ひに出たところ、急に催して來たので、河で用を達したと思へばよいではないか。

一般に自轉車はオランダ人にも混血兒にも、インドネシヤ人にも愛好されてゐる。戦前にはユーレシアン（混血兒）の娘が三々伍々自轉車に乗つて横隊になつたり縦隊になつたりして散歩——も變であるが散車とも言へないから、矢張り散歩にして置かう——してゐる有様は羨ましい程であつた。今は自動車はあつても、ガソリンの配給がないので、オランダ人でも使つてゐる者は少い。女も男もみんな自轉車に乗つて、町を横行してゐる。朝の買出し時と、夕方の散歩時には、自轉車に乗つたオランダ女が三々伍々と、太股を今にも見せさうな勇敢な格好で走り廻つてゐる。肩から皮の鞆を斜にかけてゐる。昔内地で郵便配達が使つてゐた鞆の小さいやうなのである。これは正に戦時風景であるらしい。

可愛らしいゴム人形のやうな子供が小さな腰掛けに、おとなしく腰掛けて、おつ母さんのお尻を見ながら自轉車の後ろに合乗りしてゐるのも、家族的氣分の溢れた、微笑ましい風景である。

大人が二人で自轉車を並行させて行く時は百中、九十九迄は男と女である。自轉車のアベツクといふ譯らしい。中にはオランダ女ここに在りと言つたやうな典型的なジャガ薯太りのおばんちやんが悠然とみ腰を自轉車に据ゑてゐる。よくも毀れないものだなあと思はず振り返る。

自轉車盗棒も多い。事務所の前とか郵便局などでよく盗られる。だから郵便局では、一定の場所を賃貸して、自轉車番人を營業させてゐる。一回二仙五厘であるが、オツパスから出させる譯に行かないので結局は主人持ちである。そんな處に限つて、番人に預けないと必ず取られる。最近ではケビエムなどでもこの式を採用して、生意氣なところを示してゐた。

一九三四年頃は歐洲品の最上は百盾以上——イギリス品——中等は三割位安く、日本品は官田とかノーリツ號で五、六十盾、それから一時は十五盾位の安物もあつたが、輸入制限で高くなつて、十五盾のものが二十盾から三十盾になつた。一九四一年では歐洲品で百五十盾位、日本品は四十盾から七十盾位であるが品が少かつた。

戦後の今では、中古品で六十盾位である。一九三九年頃からマランで材料をオランダから入れて加工組立をしてゐたが百盾位であつた。自轉車は文字通りの氾濫振りである。

市税として年に二盾とられる。その外に家具税としてとられるが、これは家賃二十五盾以上の家の住人のみ掛る税であることは別のところでも記した通りである。

二、南方基地としてのジャバ展望

新生の歡喜に湧き立つ現住民。長期戦力培養の南方基地として日夜復興の一路を辿る新天地。

インドネシヤ人に待望す

×月 ×日(土) 晴 神嘗祭
0600—1200 1200—1500 1500—1800

「うなばら」の赤道報子が次のやうなことを書いてゐる。——「うなばら」紙は皇軍報道部の發行してゐるジャバに於ける唯一の邦字新聞である——

「人物よ出でよ！」

今、原住民に對して、聲を大にして言ひ度いことは、このことである。

三百年のオランダの壓制下にあつて、全く自信を失へるかに見ゆる海原の民よ。

今、世界史の一大變革期にあつて、絶大なる自信を取返すべき時である。

會て、世界史の上に、アジア太平洋圏の大いなる文化を創りありし民の、古き自覺を呼び醒

すべき時である。

原住民諸君よ、自信と自惚れとは異なるのである。おだてられて、直ぐにつけあがる癖は、やめるべきである。一言抑へられて、直ぐに、へな／＼と崩れ折れるが如き自信は持たぬに如くはない。

アジアの民として、本來瞑想的なる管の諸君は、ヨーロッパ教育を受けて、今日、甚だ、お喋舌りである。言葉と共に、諸君の偉大なる魂は、肉體を抜け出でて、空に消え失せたるか。吾等は、諸君の古き魂の、再び諸君の肉體に還り來たらんことを望む——

その言や誠に佳しと申し度い。今日これを待望して、直ちにこれを達成せんとするは、それは無理と申すものである。十年の後、二十年の後、或は五十年の後に、これを求め得たならば、大成功である。

今日にこれを求むるは、恰も自由主義者の中から、革新的國家主義者を求むるよりも尙六ヶ敷い。七十年の自由主義が、日本の朝野を毒した實績から比較して見ても、三百年のオランダによる壓制は、餘りに長く、餘りに深刻ではあるまいか。

インドネシヤの原住民に、人物よ出でよと今、直ちに呼びかけることは無茶である。

それよりも、何故日本人に向つて「人物よ出でよ」と呼びかけないのだらうか。日本で英雄の出現を熱望することは既に久しい。鶴見祐輔氏の「英雄待望論」が出版されてからでも、隨

分長い歳月が流れてゐる。

日本人に對してなら、そんなことを切望する必要がないといふ者が、若し假りに在りとするならば、それは大東亞戰遂行の現在、日本には英雄が雲の如く居るとも言ふ意味なのだらうか。成る程、それらしい人物もないではない。然し自惚れてはならない。一億の日本民族を一丸として纏めて聖戰完遂に邁進せしめてゐる偉大なる力は、申すも長いことながら、御稜威である。

人物よ出でよーといふ、インドネシヤ人に與へた赤道報子の言葉を、そつくりその儘、一億の日本國民に與へ度い。特に經濟戰が激烈に闘はれてゐるこの秋、大東亞共榮圈の經濟的復興のために。數ケの大資本家の壟斷に委さないで一億國民の福利と繁榮の公平を確保するため。國益優先の國策を誠實に實行するために。一人の偉大なる献身的犠牲家の國民的英雄の出現を望むこと切なるは蓋し筆者獨りの願望ではないと思ふ。南方占領地に在つて、遠く離れた國を祖國を想ふ時、愛國の至情と共に湧然として胸に燃えたぎる情熱はこの願望である。

殴るといふ惡事を根絶せよ

「うなばら」紙の欄外に、治集團の名前で、

「殴るといふ惡事を根絶せよ、明るい爪哇を建設する爲めに」とか、

「醉漢は「殴らるる彼奴」となり易し、惡し、されど殴る者も惡し。

原住民を兄弟愛の懷に抱け、併し愛の鞭は間違ひの因である。

インドネシヤ人は、そのお祖父さんがオランダ人に殴られた恨みを未だに抱いてゐる」

などと書いてある。日本人としては恥しい、情ないことではあるが、日本人は餘りに人を殴り過ぎる。スパルタ式教育とか言つて、殴ることを教育の一つに考へてゐるかの感がある。お互ひ日本人同志なら大した問題はない。殴られたからと訴へても、殴られるやうな悪いことをしたからだと却つてたしなめられる。上級者が下級者の精神を敲き直すのだといつて殴る。

殴られるので、却つて人間の性根が出来るのだとすら考へられてゐる。然しインドネシヤ人は、夢を見て暮してゐる民であつて、殆んど生れてから殴られたことがない。それがいきなり殴られたのでは、やり切れたものではない。第一何で殴られるのか、譯が判らないではないか。

日本でだつて殴る眞意は愛情でなければならぬ。愛情なしに、憎しみで殴つた場合は、相手の性根を直すどころではなく、却つて大きな反感と怨恨を残すだけである。

インドネシヤ人に對しては、たとへ愛情の籠つた鞭であつても打ち下してはならない。彼等を殴ることは、恐怖を起させ、寧ろ憎惡の心を起させるのが關の山である。

日本人の生活のテンポと、インドネシヤ人の生活のテンポとは少し許り違つてゐるのであ

る。このデンボの相違を、癩癩で埋めようとするならば、それは無理と申すものである。戦場で月日を送ると、自然と氣も荒立ち、精神も冷靜を缺いて來るであらう。困苦缺乏に堪へてゐる身で、相手が餘りにも香氣に暮してゐるのを見ると、腹も立つて來るであらう。然し、指導民族は、これを許してやるだけ、雅量を持たねばならぬ。

殊に飲酒銘酩しての武勇發揮は、場合により、場所によつて慎しまねばならぬ。インドネシヤ人は殴られたことがないから、叱られた場合でも甚だ不用意である。日本人ならその場の空気で、結構防戦の身構へもするし、反撃の隙だつて親ふ、とても叶はぬ相手と見れば三十六計の奥の手だつて、臨機應變に使ふのであるが、インドネシヤ人は殴られるとすら感じないから、隙だらけであり、不用意に過ぎる。

その虚を衝いての一撃は、充分の効果を示し、相手方は直ちに伸びて大道でも床上にでも氣絶して了ふのである。可哀想で見つめられたものではない。

日本人に永らく仕へてゐる使用人ですら、殴られさうにでもなると、トアン待つて呉れ、私は殴られぬやうな悪いことはしてゐない、殴る位なら敲首して呉れといふ。日本人なら一つくらゐ殴られても、明日からの飯の心配よりは、未だました位に考へるところを、インドネシヤ人 飢ゑても殴られ度くはないと出るのである。その出方に深刻なものがある。我々の考ふべき點である。

バブ達が不注意から食器などを毀した場合、日本婦人が主人の時は、叱つて今後の注意を喚起するに努めるが、オランダ婦人が主人の時は、少しも文句をいはない。全く知らぬ顔で済ましてゐるが、月給を渡す時にその代價を辨償金として差引くのである。女中の僅少な給料から辨償金を差引くなんて可哀想なことは出來ないといふのが日本人の考へ方であるが、肝心の女中は辨償金を取られても、叱られ度くはないといふのだから、吾々も何とか考へ方を變へねばならないのではあるまいか。叱られることでさへ、こんなものだから、況してや殴られることなんて、死んでも嫌だといふ譯である。

敵性婦女子等の生活を保護

昭南を始めとしてマライの各地は申す迄もなく、セレベス島に於ても敵性國市民の婦女子は一定の地區に收容して、勝手に市中などを歩かせてはゐない。然しジャワでは、どうしたことか婦女子許りでなく男子でさへ、軍隊以外の者は捉へられないで、裁定の終つたばかりの三月から四月の頃は婦人とアベックで腕など組んで、これ見よがしに市中を歩いてゐたものである。その後男子で遊んでゐる者は十七歳以上六十歳位迄は、一定の地區に移されて、強制労働をさせられてゐる由であるが、それがジャワ全島に互つて一樣にさうなのか、東部と西部で扱ひが違ふのか、判然としたことは知らない。

ジャカルタでは×月×日に布告を公布して、オランダをはじめ、米、英、濠各敵性國婦女子に對し、生活上の保護を與へるため、一定地區内に居住を制限した模様である。

軍政當局談として發表せられた主旨は、アメリカの行つてゐる非人道的なものと異り、俘虜又は被居住制限者の家族で、ジャカルタ市内に居住する者の生活を保護し、これを援助するのが目的である。即ち或は生活環境の變化に應じ在來の家屋に居住し得ざるに至りたる者、或は婦女子のみにして生活に不安を感じる者等のために、特にジャカルタ市の一割に居住地を指定し、これが保護に遺漏なきを期したのである。故に居住地を指定せられた婦女子は、宜しく大日本軍の寛大なる措置を肝銘して、布告に示すところに従ひ、安んじて移轉を行ふべし、とある。

布告第三十三號の第一條は一バタビヤ特別市内に居住する生來のオランダ人及英米濠等敵性國人の女（混血兒を除く）にして、現に配偶者又は保護者と別居の生活を爲し居る者及十歳未滿六十歳以上の男子は、以下の各項に従ひ、別紙所定地域内に居住するものとし、右に該當する者は九月二十日迄に特別市外國人保護係に届出づべしとあつて、第三條但書で一生活上必要な家具類の携行」を許してゐる。

もうジャカルタでは、綺麗に片附いてゐることと想はれるが、スラバヤでは、まだく大變であつた。今日なども部屋で調べ物をしてゐると、窓の外があんまりやかましいので、立ち上

つて見ると、俘虜の妻君連が、子供を自轉車のうしろにくつつけた儘で、二十數人も樹蔭に集つてのお喋りである。そのうるさいことといつたらお話にならない。トラックで運搬される夫の俘虜姿を一目でも眺めんものと、斯うして厚化粧して雲集してゐるのである。

トラックの上と下で、手を振りハンケチを振る珍風景をカメラに収めて挿畫として皆様に御覽に入れようと考へてゐると、急に蜘蛛の子を散らすやうに、自轉車で四散してしまつた。聞けば來るべき筈の俘虜のトラックが道を變更したとかであつた。

酒場に行けば、オランダ女がウイスキーに酔つて管をまいてゐる。聞くともなしに耳を傾けると、夫は海軍士官で、未だ二十八の若さだ、ハンサムで親切で、世界中にまたとないスキートハートだといつてゐる。相手の男はロシア人と自稱する中年者で、そんな惚氣を言ふなら今夜の拂ひはお前持ちだよといふ。妾に金はないわ、若しバタビヤに捕はれてゐる夫を連れて來て呉れたら立ちどころにこんな勘定は拂つて貰つて上げるわと、未だ惚氣てゐる。

こんな惚氣をいひ合つて、いかさま者でも白人の男を相手に飲み廻つて居れるのだもの、スラバヤのオランダ女は、何て仕合はせな屋の下に生れて來たのだらうか。他所の女連に較べたら、一定地區に收容されないだけでも幸運と言ふべきなのだらうか。收容しないのが手緩くて悪いのか。飲み廻つてゐるのが不謹慎で悪いのか。私達はとても判断が出来ないことである。

全ジャワの鐵道復舊

×月 ×日(日) 晴 〇八〇〇—二六〇〇三度半、一六〇〇—三三度半、
 一八〇〇—三五度半、二二〇〇—三十五度半。

舊蘭印軍が破壊したジャワ全島の橋梁も全部復舊作業が終了して、バタビヤ、バンドン、スマラン、スラバヤの四大都市を始め、各主要地點を結ぶ鐵道の全通を見るに至つたので、陸輸總局では、これを機會に、從來の區々たる運轉系統を一元的に統一し、×月×日よりこれを實施した由で、この運轉系統の確立と共に、輸送力の活用、定時運轉の確保で一般旅客は勿論のこと、民需輸送も大いに改善されることとなり、一般に好評である。

原住民教員の表彰

ジャワに於ける日本語の普及は誠に目覚ましいものがあるが、その陰には大東亞共榮圈建設の理想に共鳴した原住民指導者の方ならぬ努力が秘められてゐる。

軍政監部では某國民學校の教員二名が、日本語普及に晝夜の別なく専念してゐる努力を認め、今度表彰状と共に金一封を授與したと謂ふ。

現住民教員として、このやうな表彰状を貰つたのは、これが最初である。

尙軍政監部では、日本語勉強熱の旺んなのに鑑みて、これが獎勵の目的をもつて明十八年

月十五、六の兩日、バタビヤにジャワ全島の國民學校生徒の「日本語の會」を催す豫定である由を發表した。

原住民市長任命

ジャワの島内十八都市の市長は、戦前はボゴールとマデオンの二市だけが原住民市長で、他は悉くオランダ人を任命してゐたのであるが、軍政監部では、ジャカルタ、スラバヤ、ボゴールの三市長を任命したのに引續き、今度マラン市その他都市にも原住民の市長を任命した。これで十八都市の内、九市長の任命を見た譯であるが、残りの九市長も、近く原住民の中から任命されることになつてゐる由である。

更に九市長の任命

ジャワ島内十八市の市長は、×月×日に六市長が任命されたが、今回スマラン市長以下九市長が任命された。これで十八市長の内、邦人は僅かに三名で、あとの十五市長は全部、原住民が任命され、數から云つて舊蘭印政府時代の全く逆となつた譯である。

今回、市長の任命を見た九市とは、スマラン、バンドン、ペカロンガン、テガル、サラテガ、マデウン、プロボリンゴ、モジョケルト、パスルアンで、その内スマラン市のみ有馬彦吉氏が

市長で、他は何れも原住民の市長である。

スキートハートの嘆き

コルフと言ふ書籍店に店員として勤めてゐるオランダ娘の朗らかな 愛人」物語は既に誌して御紹介したところであるが、今度旅行から歸つて、特種として得たところに依ると、最近彼女は非常に憂鬱だとのことで、三日間も休業して寝たとも謂ふ。

その理由は、娘の感傷ではなくて、一日千秋の想ひで愛人が釋放される日を待ち焦れてゐるのに、どうやらそれが日本に護送されたいと聞込んだところに在るらしい。

日本人として、こんな噂を聞いても、それが眞實なのか、それとも嘘なのか確實に知つてゐる者は誰一人としてない譯ではあるが、無力な筆者を捉へて愛人の釋放方について盡力して呉れと、溺れる者が藁をつかむ氣持で頼む位なのだから、遇ふ程の日本人に、その眞否を確かめてゐることは想像に難くはない。

隠すより顯はるるはなしで、日本人の知らないやうなことでも、彼女達は案外、早耳で知つてゐるのである。筆者が愛人の釋放方盡力を頼まれた時は、そんなことはチャーチルか、ルトズベルトに頼む方が早道だよ、とあつさり逃げたのであつたが、今度聞かれた男は、うまく逃げなかつたと見えて、悲觀した彼女は三日も泣き明かしたと謂ふ。マカツサルやアンボンの俘

虜達も、内地その他に送致される位だから、ジャワの俘虜だつて送致されて然る可きであらう。

靜かに考へて見るがよい。戦争で負けて俘虜になつた者を、愛人としてゐる娘も世界中には多からうが、殺されても仕方のない反抗者が、武器を捨てて手を擧げたといふだけで、生命が助けられてゐるのではないか。收容の場所が、少し位變つたといつて、そんなこと位は問題ではないではないか。それを當の敵國人に泣いて訴へるなんて、そんな根性だから負けるのだ。

ジャワの内面

×月 ×日(月)曇
0800—1200度半。晴
 1200—3300度半。小雨
 3300—3500度半。

「うなばら」の赤道報に曰く、

「戦闘らしき戦闘もなくて、直ちに建設戦に入りしジャワは、アジア太平洋圏の内でも、その統治に、最も苦心の拂はるべき地である。倒さるべき舊きものが、未だ到るところに、無數に残存する中に、新しきものを培ひ育てて行くことは、歴史の發展上最も困難なる形態である。

ヨーロッパの歴史的發展は、舊きものの完全なる倒壊の上に、新しきものを建設するのであつて、そこに革命が生れるのである。

わが日本の歴史的發展には、ヨーロッパ的革命は決して起らないのである。そこに日本歴史



最近の宣傳ポスター

ジャワの到る處に、現在見出されるポスターは、この挿畫の二種である。

の偉大さと深さがある。

今ジャワ島は徹底的なる戦ひなくして、日本の歴史的發展と軌を一にする發展の途上にある。戦ひの意識の薄い原住民には、兎角に内政的な關心のみ多くなり勝ちである。困難と複雑さが、そこに生れる

と

これは全く同感である。然し戦闘らしき戦闘がなかつたとは謂へ、それは敵がなかつたことを意味するのではなく、海軍の殲滅されたことに依つて、日本の實力を知つて、敵が卑怯にも闘志を缺いて白旗を掲げて、逸早く降参したに過ぎない。

だから、倒さるべき豫定の舊きものは、順を追ふて豫定通り倒されて然るべきである。何も遠慮すべき必要はないではないか。それを遠慮してゐるところに、益々複雑性と困難の度を増して行くのである。手を挙げたからとて、豫定を變更する位では、戦争とは謂ひ難い。

案外幼稚なものであるが、原住民啓蒙が目的だとすれば、この程度のものでないと、インドネシア人には判らないのかも知れない。

宣傳文は、向つて右の方のポスターには、

大アジア復興への光明。

日本と共に凡ゆる犠牲を忍べよ。

とあり、向つて左の方のポスターには、

新生アジア。

大東亞共榮圈達成へのアジア全民族の提携。

と認められてゐる。これに依つてインドネシア人が、その意味を解し、積極的に日本の眞意を認めて、全幅的協力者たらむことを望む。

雨期に入る

あの燃えるやうな紅の火焰樹が今を盛りと、ジャワの到る處に咲いてゐる。マンゴも熟れ出した。次第々々に雨期に入るらしく、風の方向も變り、今日など夕方から夕立めいた小雨が思ひ出したやうに降り出した。

一年中、同じやうな暑さの續くこの土地では、インドネシア人達に聞いて見ても、何時がほ

んたうに熱いのか、あまり判然とした答へはないが、昔から在留日本人達の言ひ傳へた處では、十月十一日のスラバヤは焦熱地獄だと言ふ。筆者がマカツサルから、アンボン方面を旅行して歸つたのが十月半で、丁度いきなりこの焦熱地獄に飛び込んだ譯である。熱かつたのも尤もである。マカツサルの方がどれ位凌ぎ易いことか。ジャワではスラバヤよりもジャカルタ、ジャカルタよりもバンドンの方が遙かに凌ぎよいことは申す迄もない。

果物の出廻りによつて季節の移り變りを知ることが面白い。パイヤなどは、年中熟して殆んど間斷なしに食膳に上るのであるが、マンゴとかマンゴステン、ドリアンなどになると熟れる時期がある。

上陸以來ヶ月餘りになるので、兵隊さんの皮膚も大分陽にやけ、その肌觸りもインドネシア人に近づいて、日本人らしさを失つて來たとはい一般の定評である。

自然に抗さず、自然と共に生きてゐるインドネシア人達は、死ぬ時も誠に安易に死んで行く。日本人であれば餘程大悟した人間でないと出來ないやうな大往生を、簡単に仕遂げるのである。これを偉大と言つてよいか否かは別問題ではあるが、雨期ともなれば、戦病者も増すのではあるまいか。筆者などは雨期に入る迄に参りさうで閉口してゐる。ジャワで雨期を迎へる経験は初めてではないのと思ふと、年老いたせい、それとも今年の暑さが例外なのであらうか。

マツチの自給進捗

×月×日(火) 明け方小雨、曇 000—29度。晴—31—32度。
170—32度半。月夜ナルモ曇—30—31度。

ジャワに於けるマツチの不足は特にひどいもので、愛煙家達は非常に困つてゐる。マツチがないので、マツチなしにタバコに火を附ける方法、即ちライターの賣行は大變なもので、従つて値段も非常に高くなつて、インドネシヤ人が下手な手工で造つた簡単なインドネシヤ人用の赤繩附ライターでも一盾から一盾二十仙、相手に依つては一盾五十仙になつてゐる。戦前には二十仙から精々三十仙程度のものであつたのだ。赤繩を一抱へも肩にかけて、銀座通りをブラ／＼してゐるライター賣りの殖えたことも、スラバヤの異風景となつた。

少し上等品ともなると賣りつくして影も形もない。ライターの上等品なんかでも造れるやうな設備はジャワ廣しと雖も一つもなかつたのだし、輸入品が皆無なのだから當然でもある。どんな簡単なお粗末品でも、火をつける原理は大體同じでパトアピが必要だ。ところがこれがまたジャワにはないので、戦前から全部輸入してゐた。戦前一個精々一仙位もしなかつたものが、少くとも三仙、スラバヤなどでは五仙以上になつて、それ、品不足である。

ジャワのマツチ工場は戦前オランダの經營に依るスラバヤ・マツチ工場が唯一つあつたのみで、その生産能力は月産小箱〇萬箱足らずの微々たるもので、従つて島内の商品は殆んど輸入

に俟つてゐた。同工場は軍の管理下に再開されて、生産擴充に努めた結果、現在では月産〇〇萬箱以上の成績を挙げ、今後は一般民需用として市場にも配給する計畫を樹ててゐる由である。

オランダがジャワに小工業を計畫着手したのは約十年許りも前からであるが、各種の品物は製造するよりも輸入した方が安くもあり、手數もかからないので、自然と自給の熱意も少く、従つて島内工業の發達は微々たるもので殆んど謂ふに足らぬもの許りである。輸入の出来る平時なら、それで差支へないが、戦時ともなつて、輸入が杜絶した今日の困り方は想像に餘りあるものがある。

生産を擴充するといつても、材料が直ぐ間に合ふ譯ではないのだから大變な苦勞である。保護貿易なんか極端にやられても困るが、餘り自由貿易に放任して置いても、萬一の場合は困る。要は結局何事にも中庸の道を探ふ必要があるらしい。

戦前のジャワ工業

マツチのことを書いた序に、戦前のジャワ工業のことを寸記して置きたい。

一九三五年の統計しか手許にないので、少し古くて恐縮ではあるが、それを用ひることにする。

それに依ると、所謂工場法の適用を受けてゐる工場乃至職場は、ジャワに三千七百十ヶ所ある。それを分類すると、次の如くなる。

排水揚水場	一七八	印刷工場	一八四	發電所	一四四
酒精工場	一一〇	修繕工場	八九	飲料水工場	六八
カボック工場	六九	木工場	五二	鐵道工場	四四
機械工場	五〇	セメント加工	七二		

これ等が先づ代表的のもので、この外に、タイヤ工場とか製紙業とか、ビール會社、石鹼工場などあるが、何れも一つから二つ三つのもに過ぎない。その外インドネシア人の需要する精緻サロンを中心とする織物業もあるが、小規模のものが多く、工場法の適用を受けるやうなものはない。

大和撫子の専用食堂

「海外同胞訓」の先手を打つて、勇躍従軍して來た大和撫子の活動は各方面に目覚ましいものがある。最初ジャワに渡航して來た大和撫子は、何と言つても看護婦嬢の白衣の天使達である。

スラバヤなども、筆者と同船で〇名の看護婦嬢が三月〇〇日に着いてゐる。三月八日に皇軍が入城したのだから、占領後〇週間目に着いた譯で、彼女等はみんなダルモの海軍病院で元

氣に兵隊さんの看護をしてゐる。その次にスラバヤに着いたのが、陸軍兵站病院にゐる天使嬢で、〇〇名許りが昭南からジャカルタ經由で〇月頃に來た。その次はタイピスト嬢であるが、今ではタイピストとして、或は事務員として、或は水交社などのサービス嬢として、随分澤山來てゐるやうである。

ジャカルタの下士官兵食堂では、今度軍屬である日本婦人専用の一室を設けて、親子井、天井、壽司などの日本料理から洋食に至るまで日本色豊かな献立を用意して、サービスに乗出したとのニュースがある。まことに結構なことであつて、スラバヤその他各地にもこれに倣つて早くさうした方面の施設をして戴きたい。

大和撫子は滅私奉公を實踐してお國に盡すのだから、そのお禮を望まざる筈はないが、私達は日本男子として、何等かの方法で、日本女子に酬ゆることを考へてもよいのではないか。戦病傷の患者達が、優しい慈愛の籠つた彼女達の看護の賜物で、どんなに慰められ、それが精神上に影響して、病傷の快癒を如何程早めることであらうか。

また、事務所の空氣が、彼女達の挿して呉れる一輪の草花によつて如何に和やかになることであらうか。謙讓の美德と、忍従の微笑は、稍々もすると荒立ち勝ちな戦場での男の氣持をどんなにか鎮め、慰めて呉れることか。それを想ふと日本男子は餘りにも幸福に過ぎるではないか。十に一つか、せめて二十に一つ位は、明朗なサービスで彼女達にお禮心のお返しをしたと

て罰が當る譯でもあるまいし、男の汚券にかかはる譯でもあるまいと思ふ。

愚かなオランダ人の氣持

「うなばら」紙の報ずるところに依れば、マランのオランダ人カプテン（二九）他三名は、漁船 ジャワ島を脱出しようとして企圖して逮捕され、それぞれ嚴罰に處せられたと傳へ、また拘禁所に收容中のオランダ人テンメルマン（四九）は、監視兵に反抗して暴行を働き死刑に處せられたと謂ふ。

一體ジャワのオランダ人達は何を考へてゐるのか。敗戦國民であり乍ら、捕へられもせず、女房や子供達と一緒に、自分の家に住んで、三度の食事は愚か、アルコール分迄も攝つて暖衣飽食してゐるのではないか。それをみんな皇恩の有難さと思はないで、宏大な慈悲に馴れて、飛んでもない反逆を企圖してゐるのではないか。

ジャワを逃れて、何處に行かうと謂ふのか。お前達が考へてゐるやうに、オーストラリヤはお前達を歓迎でもして呉れると思つてゐるのか。それが愚かと謂ふも愚かなりと言ふことを知らないのか。お前達は、世界の浪人であり、放浪者である。一人前と思つてゐるから間違ふのである。却つてお前達よりも、オーストラリヤ人の方が世界の事情を知り、日本の實力を知つてゐる。だから、もう戦争の終つたジャワの生活を羨ましがつてゐるのではないか。出來得べ

くんばオーストラリヤを逃げ出して、ジャワにこつそりと潜入したいといふのが、オーストラリヤ人達の腹の中の本音である。それを知らないで、ジャワから大きな顔して、オーストラリヤに行きたいなどと考へるのは馬鹿な骨頂である。

また、拘禁所に入れられてから監視兵に反抗して死刑にされる位なら、何故戦場で攻めて來た日本軍に最後迄抵抗して、潔く戦死をしなかつたのか。これも愚かと謂ふも愚かなりで、こんな連中が居つたればこそ、オランダは負けたのである。

ジャワ中央行政機構の充實

地方行政機構の整備と州長官の任命などで、飛躍的充實をみたジャワの軍政は、その業務の進展と要員の補充に伴つて、逐次本格的な行政形態を整へるに至つたので、軍政監部では九月下旬、更に中央行政機構の編成替へを行つて、機構運営に萬全を期し、ジャワ島建設の推進に鐵桶の陣を布くこととなつた。

即ち中央本部に於ける従來の總務、財務、産業、交通の四部の外に、新たに司法部を設置し、一般司法行政を管掌せしめる外、近く警務と情報の二部及び放送管理局を新設することになつた。

また、更に外局として、陸輸、通信の兩總局の外に、宗務部、會計監督部の二部の成立を

見、軍政監部は爰に七部五外局の本部組織となり、諸種の公園と公社をこの下部組織として、ここに完全なる充實を観るに至つたのである。

衛生行政も軍政監部の直轄

ジャバも亦南方特有の瘴癘の地である條件に於ては、他の占領地域と何等異るところはない。唯、比較的に進歩した文化施設が、病菌の蔓延を防いでゐるに過ぎないのである。

軍當局は、進駐と共に鋭意衛生施設の整備に努力を拂つて來たが、今回全ジャバの衛生行政を軍政監部の直轄の下に統一管理すると共に、各地の醫療機關である一般病院、精神病院、癩病院その他各種試験所を一齊に整備することとなり、その一部は近く開設の運びとなる豫定である。これに依り衛生思想の低い原住民を啓蒙し、疫癘から救済し、民衆の保健を増進しよう

といふ皇軍の暖い思ひやりは愈々具體的に實現されることとなつた。

ジャワの司法機構整備

×月×日(水) 曇後晴 〇八〇—三度半、一四〇—三度、
一五〇—三度半、三〇〇—三度半。

曩に公布された軍政法院裁判條令が改正され、白人にのみ優越性を認めた不合理な司法制度を根本的に改革して新ジャワの裁判機構の運営に一大飛躍を見ることになつた。従來舊蘭印政權下では、同じ輕罪法院とか地方法院で扱ふ罪でも、オランダ人と原住民とは、全く取扱ひを異にしてゐたもので、これは嚴正なるべき司法權の下では許すべからざることである。

また、原住民の不平や不満を抑へるために、原住民からも司法官を採用してゐた。即ちオランダ本國とジャワの法科大學出身者二百五十名の中百五十名は司法官に任命されてゐたが、何れも責任のない配置におき、樞要な位置は全部オランダ人が占め、殆んど發言權を與へず、またオランダ人司法官も階級制度を露骨に反映して司法權を壟斷すると云ふ有様であつた。

今回の改正で、最高法院がジャカルタに設置せられ、ジャカルタ、スマラン、スラバヤ三ヶ所の高等法院と地方法院では、合議制を改めて、單獨裁判を行ひ、審理の簡素化を圖ると共に、最近來島した日本の司法官の指導を徹底せしめるため、高等法院の審判官、高等檢察局の檢察官は、下級管轄區域の審判官檢察官の職權を行ふことを得せしめるなど、明朗ジャワの司

法機構の運営に萬全を期したものである。

既にオランダ人司法官は全部原住民と代り、日本の司法官と共に業務を遂行してゐる。各法院は舊蘭印時代のもの踏襲し、前記最高法院、高等法院の外、地方法院八十、輕罪法院四十、縣法院及び僧侶法院八十、並に郡法院は各郡に一ヶ所宛開かれ、回教高等法院は、軍の宗教的慣習を尊重する方針により、從來通り人事調停裁判を行つてゐる。

バス網も着々擴充

曩にバタビヤ、セラシ、パンテグラ間のバス網を擴張して、交通建設戰の面目躍如たるものを見せた西部陸輸總局では、更にルウイリヤン、ボゴール、チャンジュール間と、スカブミ、チバダツク、チソロツク間の線を擴張し、十月一日より運輸を開始してゐる。

前者はルウイリヤン、チャンジュール間の直線二往復と、チャンジュール、ボゴール間の一往復、ボゴール、ルウイリヤン間の四往復で、後者は三往復となつてゐる。料金はルウイリヤン、ボゴール間四十仙、ボゴール、チャンジュール間一盾二十五仙、スカブミ、チソロツク間一盾六十五仙で一キロ一仙の割合となり、荷物は大小に拘らず一個十仙である。東部方面でもバス網は着々擴充されて、交通は日に月に便利となりつつある。



石油の値下断行

原住民の生活と密接な関係のある石油類の價格昂騰について、軍當局では補助金を出したりして銳意その引下げに努力して來たが、×月×日大幅の價格引下を断行した。

値下高は揮發油十一仙、燈油 仙、輕油三仙七厘、B重油二仙六厘、C重油三仙（何れも一立單位）で相當の低價となつたと謂ふ。

市價がいくらなのか調べる術もないので、ここでは値下高の記録だけで御容赦願ひたい。

地下資源としての石油が尠い日本とは違つて、ジャワだけでも島内の需要を充ててあり剩る程の石油が出るのである。電氣があつてもオランダ人や華僑許りがその恩恵に浴してゐて、五千萬の大衆は殆んど電燈の恩澤に預かつてゐないのが實情なのだから、燈油としての石油の必要なことは吾々の想像以上である。その生活必需品の石油がベラ棒に昂騰してゐたのだから原住民にとつては大問題と謂ふべきである。

物價統制令の公布

布告第三十六號治政令第五號で、十月一日公布、即日實施された物價統制令は次の通り。

物價統制令

第一條 物品ハ左ノ價格ヲ超ユル價格ヲ以テ取引スルコトヲ得ズ

但シ軍政監ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限りニアラズ

一、軍政監價格ヲ指定シタル物品ニ付テハ其ノ價格

二、前號ノ指定ナキ物品ニ付テハ昭和十七年一月一日ニ於ケル價格

第二條 何人ト雖不當ニ物品ノ賣惜ミ又ハ買占ヲナスコトヲ得ズ

第三條 何人ト雖前二條ニ掲グルモノノ外、價格ノ統制ヲ紊シ又ハ物資ノ流通ヲ阻害スベキ行爲ヲ爲スコトヲ得ズ

第四條 物品販賣業者ハ各物品ニ付見易キ方法ヲ以テ其ノ價格ヲ表示スベシ

第五條 代金三盾ヲ超過スル取引ニ付テハ、賣主ハ物品ノ種類、數量、代金額及ビ取引年月日ヲ明記シタル領收書ヲ相手方ニ交付スベシ

第六條 前記ノ場合ニ於テ、賣主ハ領收書ノ控ヲ作成シ且ツ三年間之ヲ保存スベシ

第七條 第四條乃至第三條ノ規定ニ違反シタル者ハ監禁又ハ拾盾以上ノ科料ニ處ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四條ニ定ムル價格表示ハ、本令施行ノ日ヨリ十日内ニ之ヲ爲スヲ以テ足ル

その後の嚴るな運動

原住民を嚴るなと、盛んに「うなばら」紙は宣傳、教育してゐる。治集團の名に於て欄外に掲げた警句は、その後の分だけを纏めると次のやうである。

怒る前に一から百まで数へよ、人を打つ手は先づ己れの胸に當てよ。
 日本人同志が街頭でやゝ擲り合ひは猿芝居。
 滑稽な優越観から原住民を殴る者は哀れな道化役者である。
 街の酔漢と暴行者を監視せよ、彼等は日本人の面汚しなり。
 殴られた経験のある者は、そのあと味が、如何に不快なものであるかを想ひ起せ。
 原住民は殴られたら、逆上して三日間は使ひものになりぬと知れ。
 等々であるが、若し吾々日本人が、絶対に原住民を殴らぬやうにするためには、斯うした運動も固より無駄ではなく、必要ではあるが、それだけでは糠にカスガヒ、焼石に水ではなからうか。

もつと深く日本人同志が、お互ひに内部に掘下げて自省もし、教育もしなければならぬものがありはせぬか。それにつけて想起するのは、筆者が二十數年前に受けた所謂スパルタ式教育である。自治と指導と教育のために鐵拳を振ふそれは、下級者としては、如何とも反抗の出来ぬものではあるが、今に見て居れ、俺も……………と考へながら下級者としての鐵拳の苦痛に堪へてゐた者はなかつたであらうか。恩情を籠めて殴られるのであれば、恨みは残らない。然し感情で殴る時は必ずや恨みは永久に残るのである。殴られたから殴り返すと言ふやうなさもし根性の者はないと思ふ。ないことを祈念するが、果してそれが絶無で

あるとは斷言出来るであらうか。
 そんなスパルタ式教育の善悪を茲で論じようとするのではないが、若しも日本人の血管の中にスパルタ式教育を是認する血液が流れてゐたと假定すると、唯原住民を殴るなと欄外宣傳するくらいで、果して所期の目的が達せられるであらうか。懸念し、恐れるのはその點である。
 原住民を殴る場合は、日本人が日本人を殴る場合よりも問題は複雑であり、影響は大である。第一は血の相違であり第二は宗教的慣習から來る思想の相違である。殴つた結果の及ぼす處に就いては喋々論ずる迄もない。原住民に對する場合は、假令恩情 籠めても絶対に殴つてはならない。氣が短くて手の早い日本人には、殴れぬことは苦痛の場合も多いと思はれる。無智な弟を持つた悲哀でもあるが、殴らぬ運動を起すには、もつと深く省察して、日本民族としての一考を要するものがあるのではあるまいかと思ひ、敢へて一言蛇足を附加する次第である。

ジャワに於ける防諜
 ×月×日(木)晴
 〇八〇—二〇度、一四〇—三〇度。
 一〇〇—三〇度半、二〇〇—三〇度。

酒場や飲食店のスタンドや壁に、桃色の紙に防諜と簡明な二字を書いた貼紙のされたのは、もうすつと以前であつたと記憶する。いくら酔つた人達でも、流石にこの貼紙に手をつけて、剝がす者もなく、各部とも、いささかの毀損もなく、清潔に貼られてゐる。

その他の處で、これに類したものを餘り見かけないが、巷間の噂ではいろいろの事を聞く。宿舎には絶対に第三國人を出入りさせてはならぬとか、言葉を慎しみ、書類を大切にしろと言つた類であるが、こんなことは當然すぎる程當然な防諜常識ではないか。

宿舎に第三國人を出入させるなどの意味は深長であり、そんなことを言ふ位だから事實これを實行したり、現在實行しつつある者もある譯ではあらうが、そんな方面に縁のない者には、寧ろ腑に落ち兼ねることでもある。宿舎に第三國人（オランダ人も含まれてゐると解してよい）を出入させる場合がありとすれば、書き物などの始末も十二分に注意されねばならぬことは申す迄もない筈で、この點さうした類の書き物など少しもない者達は安心であるとも謂へる。

言葉を慎しむことは最も大切であるが、この點に關して筆者が金科玉條としてゐることは三猿主義で、とり分け聞かないことに重點を置いてゐる。だから往々にして、ジャワにゐながらこんな事も知らないのかと言つた顔で相手に見られることもあるが、兎に角努めて聞かないやうにしてゐる。

原住民が如何にお喋舌りが好きであり、防諜上も氣をつけなければならぬかの一例を極く卑近なところで御紹介すると、それはジョンゴスとシヨフイル（運轉手）のことである。宿舎のジョンゴス達は旦那の一舉手一投足を、起床から就寢に至るまで、事細かに必ず誰かに話さ

ないと氣が済まない者である。

それを聞いた運轉手は、翌日事務所に行く。すると今度は事務所が一つの情報交換所となつて、各部から寄り集つた運轉手達が、旦那方のお出ましを待つ間の退屈凌ぎに各自の旦那に就いての情報を披露に及ぶ譯である。それが又宿舎のジョンゴス達に傳へられる。だからジョンゴス達も運轉手達も、旦那方に就いての情報は細大となく承知してゐる。同じやうな現象は、ペチャ（三輪自轉車）の仲間にも、ロツカル（幌馬車）の駛者仲間にも行はれる。

宿舎のジョンゴスや運轉手達は兎も角として、一見通りすがりのお客を乗せて稼いでゐる筈のペチャやロツカルの仲間が、宿舎の旦那方の情報を驚くほど知つてゐると謂ふことは驚くべき現象である。これは一つのインドネシヤ人達の習癖で、單にジョンゴスや運轉手などの階級のみに限つたことではない。だからジャワでは、秘密は絶対に守られぬものと知るべきである。

シンガポールで三年許り前に聞いた處では、世界中でデマ宣傳に乗り易い民族はインド人に次いでマライ人だとのことである。このマライ人の中にはインドネシヤ人を含めてゐると解してもよいし、若し含めてゐなければ、同格位に持つて行つてよいのではないだらうかと思ふ。ジャワでの防諜は、吾々日本人が氣をつければ大半は、その目的を達し得るのであらうが、ここに厄介なことは、インドネシヤ人がデマ宣傳に乗り易いことと、市井にゐる敵性國市民達

の中で、制限されたラジオの聴取範囲を犯して、アメリカやインド邊りからのデマ放送を盗聴して、それを巷間に流布する者が絶無と言へない點である。

輻射の蠢動に似た、こんなものは日ならずして終熄することは明らかであるが、吾々としても大いに禪を緊めて防諜の堅陣を張つて、戦争に勝ち抜かねばならない。

庶民銀行の開店

原住民の小額融資機關として、舊蘭印政府時代から利用されて来た「一般庶民信用銀行」は戦後一時閉鎖され、治安の確立されるに従つて、地方によつては業務の開始されたところもあつたが、軍政監部では、プアサ明けのジャワ正月を控へて、原住民の不自由を除くため、十月三日ジャワ全島六十八ヶ所の本支店を一齐に再開し、名稱も「庶民銀行」と改め、氣分を一新して軍の暖い思ひやりを徹底させることになつた。

この金融機關は、小口は十五盾位からで、從來の取扱口數は四十三萬口に及んで居り、生活程度の低い原住民を、高利貸などの手から救済する唯一のものであつた。

實際からいふと、十五盾ぐらゐるも借りられるのは、未だ上等の部類で、これ以下の金融を必要とする連中が澤山居る譯である。それ等は先づ官營質屋の御厄介になることになるが、その間に在つて支那人やアラビヤ人などで、あくどい高利貸をして、儲けてゐる連中が多かつた。

ジョンゴスとかバブなどの借りるのは、大抵一盾とか二盾といつたところで、どこそここのジョンゴスだと言ふだけで信用貸しをするのである。バブなどは、毎日バツサルに買出しに行つた時、そこで待受けてゐる高利貸に十仙位宛を取られる。二、三日も経つと、いくら返済したのか忘れて、いはれる儘に拂つては結局、一盾の借りに對して、少くも一盾五十仙から二盾も取られるらしい。

算數に疎いインドネシア人の足許につけ込む譯であるが、バブ達は買物のサバをよんで毎日十仙位騰繰り出すことは至極容易な業でもある。

田舎では植付が終ると、直ぐ青田を抵當にして金を借りるのがゐる。庶民銀行の再開は誠に結構であるが、更にもう一步進めて、貧乏な階級のことをも考へてやるべきである。

貯金局の無制限拂出

今年の大長節以後に預入れた分の拂出は、如何なる人種でも五十盾以内とされてゐたが、十月一日からこの制限が撤廢された。大長節以前と舊蘭印政府時代の貯金は、敵性國人と支那人の中特に許可を受けた者は別として、一般には五十盾以内の拂出は出来ることになつてゐる。これで貯金街道の行進は先づ軌道に乗つたと言つてよい。唯問題は預ける金が有るか無いか

歸する。日本系の銀行では預金が殖える一方で、借り手がないので困つてゐるらしい。然し郵便貯金ともなれば、これを利用する層が全然異つて来るのだからその點も併せ考へてやること
が肝要である。

ジャワは常夏、いつも節水

戦前はジャワで断水の危険があるから節水しろなんて、餘り聞いたことがなかつたが、最近
は新聞などに書いてゐるやうである。常夏のジャワでは、水を節約することが、生活道德の一
つだと述べてゐるが、これは至極當然ではあるが、今迄に聞かなかつたことを、特に戦後聞か
される氣がするので、或は内地で夏が来ると叫ぶ節水の聲が出たのではないかと考へても見
た。

普通に使つて充分にあるのなら、内地でさうだからとて、此處でもさうだと叫ばなくともよ
いではあるまいか。それとも今迄は水道などを使へたのはヨーロッパ人階級だつたのに、そ
れを普くインドネシア人に迄及ばさうとでも言ふのであらうか。

ジャカルタの水道は貯水池がなく、七ヶ所の地下ダムだけで、而も送水管に制限があると謂
ふ。乾雨兩季を通じて、一日最高三萬八千立方メートルしか送水出来ないのに、最近では四萬立方メートル
超過して、昨年に較べると一萬立方メートルも多いと記録が證明してゐるらしい。

斯うなると節水を叫ばざるを得ない譯だ。そこでジャカルタ市當局での申分は、先づ一人一
人が節水すること、部隊などで注意して欲しいこと、マンデーは成る可くシャワーで短くやつ
て欲しいこと、ジョンゴスをよく監督すること等を日常の注意として要望し、更に井戸掘り、
修繕などは無料でやりますと言つてゐる。この點スラバヤは水に恵まれてゐるらしい。

支拂猶豫令の撤廢

皇軍がジャワを裁定した當時、經濟界の混亂を救ふため、四月十一日布告第九號を以て支拂
猶豫令を公布し、またジャワに於ける所謂敵性銀行であるジャワ銀行、オランダ貿易會社、パ
タピヤ銀行、蘭印商業銀行、蘭印割引銀行の閉鎖を斷行したが、皇軍の庇護の下に經濟界も殆
んど回復するに至つたので、軍政監部では今回支拂猶豫令を解除し、前記諸銀行並に香上銀
行、チャータード銀行、中國銀行、華僑銀行の各支店を解散清算せしめることになり、去月二
十日之に關する布告の公布を見た。

これ等の諸銀行は、何れもその資産の大部分を本國投資と公債投資に充て、また領内投資も
回収困難となつたものが多いから、その預金の拂戻しには多くを期待出来ないが、軍政當局と
しては、資産の存在する限り努めて拂戻しをする方針であると。但し敵性國人には行き渡らぬ
かも知れないが已むを得ぬことであらう。

尙ジャワ銀行の清算開始で、ジャワ銀行券その他舊蘭印通貨に就いて何等かの不安を抱く向があるかも知れないが、これは法律による通貨として、軍票と同価値の流通を認められてゐるのであるから、何等の不安もない譯である。

全砂糖工場の復舊

ジャワの砂糖とも砂糖のジャワとも世界にいはれてゐる、ジャワの製糖業は、それ自身が世界的に有名なだけに、その復舊も注目の的にされてゐた。

考へ様によつては、これはわが建設戦の成果を見る最大の對象とも謂はれるが、關係当局の不斷の努力によつて、全島に亙る全砂糖工場の整備は短時日の間に完成し、戦後豫想された生産量の減少も最小限度に止め、豫期以上の生産高を見るに至つた。

因みに一九四〇年度の砂糖生産高は約百五十五萬噸程で、その作付面積は推定十萬ヘクタール（一ヘクタールは約一町歩）に減じてゐた。その最盛時には生産高三百萬噸、作付面積二十萬ヘクタールを超えてゐたこともある。歐洲に於ける甜菜糖の進出がジャワに於ける糖業不振を惹起したのである。

日本語熱超特急

斯く南方基地建设が急速に進展しつゝある折柄、それには何より必要な言葉からといふ譯で、日本人はマライ語を、原住民は日本語を、お互ひに一生懸命勉強して、相携へてジャワ建設に役立てませうと茲許原住民の日本語熱は超特急である。

軍政監部では、先づ原住民官吏と日本軍使用人に、日本語を完全に習熟させるため、奨励金制度を設けて、積極的に日本語熱に拍車をかけることになつたと聞く。來年は三月と九月に全島一齊に試験を行つて、日常會話は勿論、新聞を読み、且つその程度の文章を作り得る者、日常會話と國民學校程度の讀書と作文力を有する者、日常會話に差支へない者の三階級にわけ、夫々合格者に賞金を授けると謂ふ。將來は一般民衆に對してもこの制度を及ぼすとのことである。

そこで問題は「日本人はマライ語を」と言ふ點にあるので、日本人も原住民に負けないでマライ語を征服しようではないかと、一應の號令は掛けてゐる譯である。

この勝負をと謂ふことになれば、自明の理ぢやないかとも申し度くなるが、そんなことは餘り穿鑿しない方がよろしいといふものである。

原住民の子供達が器用に歌ひこなす、日本の唱歌とか民謡は到るところで大流行である。ジ

ジャバ許りではなく、セレベスでも、アンボンでも、バリックパバンでも驚くほどの進境を示してゐる。薫風に翻る日の丸旗の下で、愛國行進曲でも聞くと、戦前を知つてゐる者には、今更の如く足を留め、自らを顧みて、あゝ此處も皇土になつたのであると念を押さねば納得が出来ない。その都度大御稜威の宏大無邊なる有難さに感泣するのである。暴虐なオランダ政府當時を知つてゐればゐる程感涙も多い筈である。

言葉も豊かな島へ

インドネシア語は舊蘭印政府の對原住民政策の犠牲となつて、長い間その發達が阻害されて來た。舊蘭印政府は學術用語、法律用語などには、總てオランダ語を使用し、インドネシア語の介入を許さなかつたのである。

原住民が高等教育を受けることを出来る限り邪魔する方針から、上級學校では一切オランダ語を採用し、一部の知識階級を除いて、一般大衆を文盲ならしめる政策をとつて來た。従つてこのジャバに於て科學の研究とか、法律の設定とかを行ふには、現在のインドネシア語では、如何しても不自由を感じる。

そこで日本の指導の下に、新しいジャバ文化を建設するためには、原住民の言語を、高度文化に適應するやうに向上させねばならぬといふことになつて、最近「インドネシア語整理委

員會」なるものを設置して、新語の制定、譯語の統一、文法の整備等を行ふことになつたと聞く。

ジャバの日本語、横書きは左から

ジャバで日本語を横書きする場合は、凡て左横書きに統一されると承はる。また假名遣ひは、ワ、キ、ウ、エに濁音を打つたものは使用せず、キ、エ、ヲ、ヂ、ヅはイ、エ、オ、ジ、ズを使用、拗音はキヤ、キユ、キヨなどの時ヤ、ユ、ヨを右下に小さく書く。

促音、即ちアツ、イツ、カツ等の場合も、これに準ずる。長音、撥音は從來からの使用例と同じである由、何かの御参考までにお傳へする次第である。

こんな事でも、早く一定して呉れたことは嬉しいと謂はねばならぬ。何事でも指導者の立場にある者は、どしどしと可と信する方向を端的に明示して衆を指導することが肝要である。

商標登録令公布

商標の登録に關する布告が、去月二十日に公布された。罰則を始め、大體において舊蘭印商標條例に準據したものであるが、特に菊花御紋章、又は其の類似の形を有するものは勿論、國旗、軍旗、勳章、褒章、記章、外國の國旗又はその類似のもの、公序良俗を紊すものなどを商

標として登録することは禁ぜられてゐる。

南方新聞通信政策の決定

東京からの同盟通信によつて報ぜられたものの一部を、御参考までに掲記する。

「南方現地に於ける新聞通信政策は、原則としては勿論軍がこれに當るが、實行方法としては南方現地に於ける邦字、現地語及び外字新聞並びに通信社をして、現地軍政の施行に協力し、日本文化の進出興隆に努め、現地邦人の啓發並びに原住民の教化に當らしめることとし、その具體策は次の通りである。

一、内地新聞社の南方地域に對する總局、支局若くは通信部の設置については陸軍省に於いて、これを統制する。

二、南方に於ける邦字新聞は朝日、毎日、讀賣の三新聞社並びに同盟通信社と全国各地域代表新聞社の提携によるものの四社をして、現地軍の監理下に、これが設立經營を行はしめる。

三、現地に設立せらるべき邦字新聞社の擔任區域は

- イ 同盟通信社及び全国各地域代表新聞社の提携による新聞社——マライ、昭南、スマトラ、北ボルネオ

ロ、朝日——ジャワ

ハ、毎日——比島

ニ、讀賣——ビルマ

とする。

四、現地に於ける既存邦字新聞社は、逐次前記四社に包括せしめる。

五、各種の現地語新聞及び英語その他の外字新聞の指導經營に付ては、現地軍に於て夫々その方法を決定するが、これを獨立せしめるか、又は前項邦字新聞をして、これが經營に當らしめるかは、各地域の實情に基き處理する。

斯くて其の委託された地域に於ける新聞の經營方式については、舊套を一擲し、各地域に於ける各新聞社が各自勝手なる恣念に陥ることなく、聖戰目的貫徹の崇高なる指標に向つて一糸亂れざる全體的活動を行ひ得るやう新形態を培養することになつてゐる。

右は即ち陸軍の占領地域に於けるもので、セレベスを中心とする海軍占領地域は、また別個の立場に在ると解釋せられる。先般マカッサルで聞いたところでは、毎日が進出するやの様子であつたが、公文を見た譯でもなし、確定的なことは知らない。

ジャワの梅雨的現象

X月X日(日)終日雨 〇〇〇—二五度半、一四〇—二十度。
 一七〇—二十五度、三〇〇—二十五度。

全くよく降る。どうしてこんなに降るのだらう。もう降り出してから四日位になる。時には雷を伴ひ、時には強風を伴つて、全くジャワとしては珍らしいことである。原住民の擔ぎやなどは、三百年の飽くなきオランダ人の搾取を追拂つて、日本軍が来て呉れたのだから、これ位の自然現象に珍奇なことのあるのは當然だなどと嘯き合つてゐるかも知れない。それ程にも珍らしい大雨であり、永續きの雨である。全く内地の梅雨と變らない。

氣象配置も大陸的だとの素人説を耳にした。

お蔭でここ數日來誠に涼しい。窓を閉めないで部屋に居れない位であり、夜など一枚の毛布では寒さを感じる。八月は乾期が一番好い季節で、今年八月の最低氣温は私の部屋内での測定では攝氏二十六度であつた。それが今朝など午前八時の氣温が二十五度半である。いつも熱いので、これ位になると、ビチャマ一枚では涼しすぎるし、マンデーも餘りしたくない。(正午になると二十五度になつた)

如何に熱帯は暑いからとて、二日も三日も太陽が顔を見せないと、こんなにも涼しく、こんなにも寒いのである。私が約三年に亙るジャワ生活で、こんなことは最初の経験である。

部屋の窓を閉め切つて——と云つても鐵扉で、空氣の流通は多い——午前十一時半だといふのに電燈をつけて、日曜の勞作にこれを認めてゐるが、ビチャマだけで一寸震へてゐる。暖衣の用意もないので、雨の續く限り、震へながらゐなければならぬが、全く珍らしい現象である。

涼しいのは結構であるが、雨許り降るのはやり切れない。ジャワの雨は猛烈なので、ベチャに乗つてゐては、如何に幌をかけてゐても、全身ずぶ濡れである。ロツカルは尙更悪い。

だからと云つて、自動車に乗れない者は、矢張り乗れないではないか。これでは戶外に足を踏み出せぬ。レインコートを買はなくてはとの聲を、到る處で聞く。

毎日降つてゐるからとて、四六時中、猛烈な譯ではなく、時には小雨になることもあるのだが、また暫くすると思ひ出したやうに、沛然とやつて来る。小降りだからと表に出掛けると、この沛然たる奴に出遇つてずぶ濡れになるのである。昨夜もジャカルタに轉任する友達の送別會があつて、文字通り萬障繰りあはせて出席したのであるが、豫定時刻になつても始まらず、四十五分も遅れて始めたので、終りもそれだけ遅れ、そのために歸途誠に物凄い猛烈な雨に遇つて、五分も経たない内に、ベチャの中で濡れ鼠になつてしまつた。

こんな猛雨になると、五分位で、道路が河のやうになつてしまふ。簡単な幌などで防げる雨はこんな猛雨ではない。原住民などは、割合に平氣で雨の中を歩いてゐるものであるが、この

猛雨が来ると流石に軒下に逃げ込んでしまふ。逃げ込むのに一番都合のよいのは、ガソリンスタンドである。一寸突き出た屋根の下に、屋臺店も擔ぎ込んでゐるし、徒歩人は固より、自轉車、ベチャまでのみ出る位の盛況である。西洋建の家では一般に雨宿りする庇さへもない。空のトラックが幾十臺となく、猛雨の中を走る。一、二臺の乗用車も混つて眼の前を過ぎて行くが、どれもこれも空らしい。こんなところで雨宿りしてゐると、何時になつたら歸れるやらと、意を決してガソリンスタンドから出たら、とたんにベチャの車輪が半分も水につかつた。

こんな降り續きの雨が所謂雨期の間降るとしたら、恐らく人間にも微が生えるのではあるまいか、それとも心が滅入つて死んでしまふかも知れない。スコール式な降り方が熱帯雨期の特徴であつたのに、今年からは方式を變へたのか、兎に角いやな梅雨で、みんなが閉口してゐる。

革製品には微が一面生えて来た。洗濯物は乾かないし、關節の神經痛は痛み出す。

ジャワの沿岸貿易

×月×日(火)曇
 〇八〇—二五度半。一四〇—二六度半。
 一七〇—二七度。三〇〇—二六度。

外領の開発が進むにつれて、インドネシアの沿岸貿易は逐年増加の傾向にあつたことは、自

然的成行としても當然なことである。ジャワから外領への移出品の主なものには米と砂糖につきると謂つてよい。昭和十四年の統計で見ると、スマトラへ米を十二萬四千トン、砂糖を七萬四千トン、ボルネオへは米を四萬六千トン、砂糖を三萬五千トン、セレベス以東の大東地方は米を二萬五千トン、砂糖を一萬六千トン送つてゐる。

反對に外領からジャワへの移出品の主なものは、石炭、石油、セメント、乾鹽魚類、コブラ、コーヒーと謂ふところである。スマトラやボルネオは石炭や石油の産地であるに反し、ジャワには是等は産出少くて需要が多いのだから、これは當然な歸結である。

セメントも廣いインドネシア全領で、僅かにスマトラのパダン附近に一ヶ所の工場があつたことと、ジャワの消費の莫大なることを知れば、これも當然なことである。勿論この地方からの移入は年額十二萬トン程度であつたので、足りる筈もなく、不足分は日本から輸入してゐたと申す迄もない。

原住民も華僑も乾魚や鹽魚は非常に好きである。コブラはジャワでは殆んど産出しないといつてよい程度——それでも海岸には相當にある——に産額は少い。これはボルネオとセレベス及び大東地方から年額六萬トン位を移入してゐた。コーヒーは所謂ジャワコーヒーでジャワにも産するが、セレベスなどから年額六千トン位を移入してゐた。

パリー島やロンボック島から、牛を移入してゐたことも有名であるが、これに依つて見て

も、ジャワと外領との物資交流を考へると、どうしても外領は損な立場に置かれてゐる。

殊に現在では、スマトラはマライの行政管下に入つてゐるので、インドネシアとしては、即ちジャワと外領と謂ふ場合の外領からは、これを除外せねばならなくなつてゐる。加ふるに石炭は特殊用を除いては殆んど移動されず、石油とて、ジャワに關する限り増産の結果殆んど自給自足し得る現状に於てをやである。セメントなんかは問題にならない。

食料品に就いて見ても、外領に必要とするものは、米と砂糖であること前述の通りで、而もそれは絶対必需品であると共にその量も多い。これに反してジャワに移入を要する魚類、コブラ、コーヒーなどは米と砂糖ほどの絶対必需品ではなく、その量も亦少いと共に、ある程度は是等のももジャワに産するのである。これを想ふと、現状に於て、ジャワから輸血を得られないとしたら、所謂外領なるものは、その生命を維持することも至難なりと謂はざるを得ない。

然しこれは、戦前に於ける沿岸貿易の實情から見て、戦後の現在も同程度の移出入品をお互ひに必要とする前提の下になさるる議論である。今や大東亞共榮圈建設といふ目的の下に、日本的なる企畫と、日本精神をもつて、外領各地共自給自足經濟に萬全を期してゐると思はれるが故に、起死回生の現象を呈さないとも限らぬと思ふ。そこで進行けば議論は自ら別となることは申す迄もなし。

これ等の沿岸貿易量(スマトラをも含む)は、昭和十四年では大略三百四十萬トンといふところで、その内には石油が約七十萬トンも含まれてゐる。

この七十萬トンの石油は主として、蘭印タンカー會社の油槽船に依つて運ばれてゐる。残りの約二百七十萬トンは他の雜貨物などで、これは獨占的にケーピーエム社の沿岸就航船で運ばれてゐる。この會社は一八八八年に創立された國策會社で、昭和十五年現在に於ける所有船舶百三十八隻、その總トン數三十三萬五千トン強となつてゐる。僅かに資本金三千萬盾の會社で、この豪勢な船隊を擁して、蘭印政府の特別な庇護と指導の下に、蘭印の沿岸航路を獨占し、更に餘力を以て、太平洋方面より、印度洋方面にまでその航路を延長擴大してゐるのである。

然しこの澤山な船隊を擁しての沿岸貿易も、戦前までのそれは、畢竟するにオランダ本國及びヨーロッパ依存のそれであつて、殆んど原住民の福祉とか未開拓地の開發などを目標にしてなされたものではなかつた。

歴史に徴しても、インドネシア貿易は、香料群島に於ける香料の爭奪から始まつて、霸道的爭奪を幾回となく繰返して今日に到つてゐるのである。舞臺は時代の進展に伴つて香料群島からジャワに移り、更に今や三度外領に移らんとしてゐたのではあつたが、その演技の主役は常に白人種であつて、その目的は常に飽くなき利益追求に依る擄取そのものに外ならなかつたの

である。

大東亞戦争勃發し、而もインドネシヤ全地域が既に皇軍の占領下にある今日、これ等地域の沿岸貿易を如何にすべきかといへば、先づ第一には、ヨーロッパ依存の舊組織を改めて、日本を中心とした東亞共榮圈貿易に變革されねばならぬ。

その構想を日本の専門家の意見に見ると、南方への幹線航路の就航船は舊舊印の主要港だけに寄港して、舊蘭印の沿岸就航船は、この主要港への集散に當ることとして、沿岸自體必要とする荷動きと併せ大略千五百トン乃至二千トン型の船が三十隻乃至四十隻あれば差當りの急場は凌げるであらう。若し不足の時は寄港地を更に制限するとか、小港への集散を帆船とか機帆船の使用で補足するより致し方ないと謂ふ。

今少し詳記すると、ケービーエム社は合計六十線の沿岸航路を經營してゐたが、これは約二十線に集約可能である。この場合に必要とする船舶が三十隻乃至四十隻となる。更に使用船不足の時は、極度に集約して、約十線二十隻程度まで縮減し得るが、これだけの船舶もない時には、あるだけの船舶で重要且つ緊急を要する主要港だけを連絡する幾線かの航路を設定せざるを得ない。

據點港は、舊蘭印に關する限り、ジャカルタ、スラバヤ、マカツサル、アンボンであらう。

これで輸送すべきものは、第一義的に見て、領民食糧用の米で、これは約二十萬トン、次は砂

糖で、これは約十萬トン、それから領内で消費する石油と石炭である。

第二義的に見て、内地へ輸送すべき領内産出の玉蜀黍、コブラ、ゴム等を據點港に運び、更にそこから内地産出の綿布、雜貨その他の各種交流輸出品を領内各地へ送り込む役目を果たすべきである。

更に第三義的に見て、領内諸島嶼間の交通に資し、船客設備と甲板客設備をなし、戦前五十萬人を超えてゐた領内往來客の便宜を圖るべきである。

今や是等に關する復興建設は着々と進行中ではあるが、茲に特に留意すべき點は、スマトラが所謂蘭印地域から脱したること、○○がジャワ、△△が舊蘭領ボルネオ、セレベス及び大東地方を擔當して軍政を布いてゐる事實である。

本件に關して、これ以上詳記することは、時期尙早と認めらるゝにつき、一先づこの邊で擱筆して、更に時期を得て追記したいと考へる。

小型民船の登録

ジャワには帆船その他の小型民船は頗る多い。四面環海のジャワとしては至極當然なことで申さねばならぬ。是等の帆船の航行規定とかその他の諸規定は舊蘭印政府當時のものを、その儘で暫定的に使はれてゐたが、今回布告第四十二號、治政令第十一號で正式登録、取締規定が

制定された。

それに依ると五トン以上の船舶と舢舨はすべて、十一月末日までに、ジャカルタとスラバヤの海務署或はスマランの海務支署に登録手續をなし、日の丸旗と軍政監部管理船標識旗を掲揚しなければならぬ。この登録取締の主眼點は、民船の所在を明らかにし、海上物資輸送を計畫的に行ひ、運賃の適正を期さうと謂ふにあることである。

ジャワは四面環海で帆船などの澤山あることは前記の通りであるが、セレベスも亦、帆船が多い。殊にプギス人は帆船の操縦にかけては、インドネシア二十數種の民族中第一位を占め、船團を組んで貿易風に乗つてジャワは素よりスマトラ、昭南方面までも交易に出掛けてゐたことは餘りにも有名である。また外領はジャワからの物資移入で生活してゐた實情をも併せて考へると、常識的に謂つてもジャワよりもセレベスに比較的多くの帆船があつたと思はれる。然もセレベス籍の帆船は、セレベス島内の交通に従事してゐたことは勿論であるが、其の主なる寄港地は、東部ジャワの諸港にあつたことも事實である。

それが最近ではジャワに行くや殆んど歸つて來ないと聞く。軍政擔當者の相違で出港許可が得られないのだとも謂ふ。三月一日敵前上陸の時に、ジャワの港に居つた帆船は、その状態で押へられても仕方がないが、その後セレベスからジャワに往つた帆船も殆んど歸らないといふ。

而もその數はと尋ねると、無慮〇隻に近いと謂ふので驚いて了つた。

話半分と聽いても大變である。成る程さう謂はれて見ると、戦前はマカツサル港など大小の帆船で溢れてゐたのであるが、現在残つてゐるものは寂寥々たるものである。ジャワで小型民船の登録が行はれると聞いて胸に浮んだことは、この機會に、帆船などの本籍港を調べて、若し外領のものであれば、正々堂々と本籍港に歸還させてやつてはと謂ふことであつた。

どちらで使つても、味方同志であつて、お國のためになるのだとすれば、歸り度いと謂ふ本籍港に歸してやつて戴き度いと思ふのは、多くの人々の意見であつたかに記憶してゐる。

ところが今日聞いた處によると次のやうな説もある。即ち別段に押へたの歸還させぬのと謂ふやうな外聞の不穩なことではなく、船主が持船をジャワに回航して見たところ、ジャワ沿岸の方が運賃が遙かに高いので、へる可き豫定を變更して、自由意志で歸らないのだと謂ふのである。成る程確かに、この理窟も成り立つ。輸送すべき品物はうんとあるのに、船が集らないので運賃を引上げて、これを集める。平時なら、どこから何處までの運賃は何品はいくらとか、それがいくりに引上げられたなんて謂ふことは、直ぐ外領へも傳はるのであるが、戦時のことなので通信の方法もなく、往來の人もないので、仲々傳はらぬ。來て見て知つた。これなら歸るよりジャワ沿岸で稼いだ方が採算がよい。それで歸港しない船が多いとしたら至極普通の常識でも尤もだと解せる。

果して、どちらが眞實の原因か知らぬ。然し外領からジャワに來た帆船の幾百隻かが、本籍港に歸らないのも事實である。この際一應は本籍港に歸すなり、そんなのはジャワでは登録しないで置くとかして、その上で物動計畫に基いて、必要な船腹を必要な場所に廻すやうにするのが一番よいのではないだらうか。

畏友の詠める歌

x月x日(月) 小雨後曇

〇〇〇—二五度半。一四〇〇—五度半。
一〇〇〇—二五度半。二〇〇〇—五度半。

珍らしくも〇〇船〇〇丸が入港した。戦ひの海を走る扮装は物々しく、神経を使つた疲れは、そこ此處に散見されるのであつたが、乗組員は元氣一杯で、大東亞の海を呑んでゐた。中にも酒井機關長は、私の舊畏友で、山羊髯に白霜を混せては來たが、元氣は若人を凌ぐものがあり、絶えて久しき面會をこの上もなく喜び合ふのであつた。

君は機關長として、船には乗つてゐるが、一寸變つた哲人的風格があつて、普通一般の船員とは、その趣を異にしてゐる。そこが私には無性に氣に入つて、傾倒する所以なのである。會ては時勢を慨して、大いに警世的名句を物にされてゐたが、久し振りに顔を見るなり待ち焦れてゐたかの如く、その後の名作を所望したのであつた。

君は警句を作られても、決して發表を好まれない。氣の合つた、この人ならと思ふ人々にの

み願けてゐたものなので、同じ會社の連中でも、君に斯うした哲人的名作のあることを知らない者が多い位である。

貴君にならといつて呉れた近作の中から、選んで二、三を左に掲げようと思ふのであるが、今も申した通り、君は發表を好まれないし、貴君にならと見込まれて貰つた私が、君に斷りもなく、これを轉記して發表することは申譯ないが、こんな警句はこの際發表した方が世を益することと思つたのと、私自身が座右の銘にしたいからに外ならぬので、一寸轉記した次第である。幾重にもお許し願ひ度。

曉鐘と題して

曉鐘！ 天地震撼師走八日昭和の御代惟れ拾有六年。」

宣戰の大詔渙發對英米膺懲の師緒戰に快捷。

陸海空、皇軍の意氣天に沖し到る處に敵を撃滅。

大御稜威將兵力戰荐りにも敵を撃摧偉功を奏す。

日を逐ふて戰果赫々聖業は茲に世界の耳目を聳動。

大東亞民族自立の大扉は世紀の革新將に天業。

皇國の理念八紘一字こそ人類無二の生存指針。

目覚めよや人類協和の大哲理、皇道日本の指導原理に。一
萬邦に各民族に安住の樂土分與の大聖戰ぞ。

驟起せよ、白人多年の迫害を撃退すべき時は今なり。

慨歎と題して

皇道の大精神は千古不磨、終始一貫和衷協同。

國是世々自我功利をば擯斥す、然かも皇民斯れを犯すは、

摩國の義を舌頭に弄するも、人實踐に趨らざるなり。

各自皆立身出世を冀求して、排他相刻尙ほも熄むなし。

人心は舊態依然利己主義の牙城に深く立て籠るこそ。

民衆の生活は唯利那的享樂主義に限らるゝにも。

宏業を想へば私情を抛げ棄て、虚心坦懐和協すべきを。

皇運の勃興をしも念願し、大和の國是忘れ勝とは。

億兆は渾然一體赤誠を披瀝し國の柱石となれ。

一死唯祖國に殉ずる信念を把握すべきは民の本務ぞ。

次に無題で吐露されたものを集めて

國策は八紘一字御理想。

臣道の實踐無學聽きたがり。

一億の協力東亞を脊負はされ。

贅澤は國賊なりと見下げられ。

團結の上に徒黨は物を言ひ。

事變下に輕佻浮薄等喰ひさがり。

官衙では協心戮力袖にされ。

利己主義に翼賛會は汗をかき。

不覺者公益優先また忘れ。

非常時は篤實重厚持てもせず。

腕づくで埒があくなり世間様。

弱い者死ぬ迄熄まず搾取され。

三、共榮圈に拾ふ

ジャワは父であり兄である。外領は母であり弟である。母弟生存のため父兄の肉親愛を求むるや誠に切なるものがある。

ポルオオ旅行より歸つて

×月×日(日) 晴後小雨 〇〇〇—三度半。一〇〇—三度半。
一七〇—三度半。三〇〇—三度半。

バリツクババンに、どうしても一度行つて來る必要があつたので、その責を果したいと機会を待つてゐたが、仲々これぞと謂ふ機会も來ない。機会と謂ふものは待つてゐても棚ボタ式に來るものではなく、自ら機会を求め、自ら機会を作らねば駄目だと判つて、稍々積極的の心境になつてゐたが、血壓は高し、痔は痛し、おまけに雨季入りの變調期のせい左腕上膊の神経痛が痛み出してゐたので、仲々腰は上らなかつた。

意を決して、スラバヤを飛び出したのが十月〇〇日の朝であつた。〇〇便の関係で先づマカ

ツサルに渡り、そこを足場として、次の便を待つこととなつた。

スラバヤからバンヂヤルマシン經由で、バリツクババンに行く便もあるにはあるが、いろいろの點で連絡がよくない。バンヂヤルマシンにだけ行つて、またスラバヤに歸る時は、このコースを執り度いと思つてゐる。ここでこの附近の航空路のことを詳記したいが、防諜の関係もあること故遠慮したい。

兎に角、バリツクババン行きを果して、昨日無事スラバヤに歸着した。目的を遂げたことも愉しかつたが、バリツクの焼野ケ原で、級友に遇つたことは、特に愉しかつた。彼は同地の〇〇隊先任參謀の要職にあつて、占領直後から今日まで、治安維持に復興に、警備に防備に、その全力を傾注してゐた。

何と言つてもバリツクババンは油の都である。昔行つた記憶をたどつてタラカンを想起すると、タラカンも確かに油の都であるが、それは洗鍊されてない都のやうに想ふ。それに反して、バリツクババンは寔にスマートなシックな油都の觀が深い。油はみんな何一哩と離れたサングサガ地方に産出して、ここまで送油管で導いてゐる。ここにあるのは無数のパイプと、〇〇もあつたかと思はれる多数のタンクと、〇の大きな近代設備●完備した製油工場と、〇の棧橋と、それに横付ける巨船だけである。

パイプの破損したのは大半修理が完了してゐる。〇〇〇は平地は固より谷間から傾斜地、丘

の頂上まで到る處〇〇〇また〇〇〇であるが、三分の二は焼毀されてゐるのではあるまいか。然し半分は使へるとの話も聞いた。製油工場は〇とも、重要部分は破壊され、半分は焼毀されてゐるかに見えるが、既に一部では蒸気を吹いて操業を開始してゐるところもあつた。〇の棧橋の内、先づ無疵と言つてよい程度で残存してゐたのは、一番小さなものが、たつた一つであつたが、既に〇は復舊して、巨船をどしどしと横付けしてゐる。

水船も澤山ある。曳船もあれば機帆船も澤山着いてゐる。見るからに心強さを感じるやうな立派な港灣の様相を呈してゐる。

パリツクに來て見て、痛感することは、オランダ兵も徹底的に焼毀したが、日本軍も素ばしこく人力と人工の最善をつくして、よくもこの短時日に、これだけの復舊をしたものだと言ふことである。この破壊と建設が近代戦の特殊な様相なのだと思ふ考へたことである。

製油工場を山の上から眺めて想ふことは、總てが復舊して、これが全能を發揮し始めたらしき素晴らしいことだらうと言ふことである。近代戦では石油の一滴は血の一滴に優ると謂はれる。今迄買溜めては、やつと需要を充たしてゐた日本が、今日からはその石油については、持てる國なのだと言ふ喜ばしさは蔽ふべくもなく頰に浮ぶ。

油断大敵と熟語に使はれてゐるやうに、油が断えては、萬事がスダアピスとならざるを得ない現代ではないか。その點から見ても、油田の領有は一億萬の味方よりも心強く、油都の復舊

は大東亞共榮圈完遂への第一歩と謂はざるを得ないではないか。

燃料廠關係員の馬力のかけ方も、一通りや二通りではなく、誠に涙ぐましいほどである。不幸中の幸ひは、第一工場の毀損が極く一部であつたこと、製罐工場が無疵の儘で残つてゐて、占領の翌日から〇〇個の日産能力を發揮し得られたことである。水道も健在であり、電氣も割合に早く復舊し得られ、棧橋の復舊の早かつたことも嬉しい事實の一つである。〇萬トンの巨艦船を横付けして、〇吋のパイプを挿し込んで置けば僅か〇時間で、〇〇トンの燃料搭載が完了するのである。

港は天然の良港で、水深も適度であり、廣さも申分ない。こんな理想的な補給基地は、恐らく大東亞共榮圈内では唯一無二なものとしてよい。そんな良港であり、そんな立派な補給基地であるがために、オランダ側は必死となつて、その施設を破壊し、その人家を焼毀して、日本軍の利用を邪魔したのである。然し、そんなことは日本軍にとつては物の數ではない。物質上の苦難を補つて剩りある精神上の優越を堅持してゐる日本軍にとつてはこれ位の復舊は朝飯前のことだと謂ひ度いところである。元氣のよい復舊の植音を聞けば誰だつてほほえましくなる。

あゝ大東亞の復興は、ここからの氣が天地に充滿してゐる。

ボルネオへの米輸送

バンジャルマシンは舊蘭領——従つて現在としては、海軍軍政下にある——の首邑であるが、ここはその四周に米田があるので、米の自給自足は不十分ながらも、先づ出来ると謂ふ。バリツクパバンは油の都で、重油なら相當輸移出し得るのであるが、米田は近在にもなく、従つて米は全部輸移入に依つて賄つてゐる。それでも港は、世界第三と謂はれる大きな島ボルネオの中でも唯一と稱される程の天然の良港なものと、重油の積卸しに出入する船舶が多いので、米の輸移入も割合に便利で——不便なところに比較しての問題であるから、その積りで想像願ひ度い——あるらしい。先般訪ねた時も、確かに不味ではあつたが、それでも米の不足については、それ程深刻な話も耳にしなかつた。

バリツクパバンに較べるとポンテアナク——ボルネオの西南方にある——は餘程、米が不足らしい。附近には米田も無いらしく、人口僅か二萬人ぐらゐであるが、毎月少くも一千トン位は欲しいと謂ふ。一トンと云へば約六石であるからポンテアナクだけでは少し多すぎると思ふが、移入計畫としては、ポンテアナク州に對し年三萬八千トンと謂ふから、月額にして三千トン餘りとなる。州全體が米不足なのだ。

これだけの米は、どうしてもジャワから移入せねば、住民は飢ゑると謂ふ。ジャワとの必需

物資の交流問題は別として、これだけの米を送るだけにでも相當な大きな問題がある。三千トンの積荷の出来る船なら、一隻で運べる勘定ではあるが、入口の河が浅くて、そんな大きな船は遡河が出来ない。河口の淺礁を通過出来る船なら、荷物はいくらも積めない。いつそ機帆船の方が便利でもあるが、汽船にしても、機帆船にしても、第一、船が無いのである。

然し生活に缺くことの出来ない米の輸送であつて見れば、船が無いでは済まして居れない。そこに悩みもあれば問題もある譯で、一日も早く何とか處置をせねばならぬことと思はれる。

(註) ポンテアナクの人口は、二萬人位であるが、赤道直下にある唯一の都會といふので有名であり、これを標示する赤道標もここにある。

スラバヤの昨今

××月×日(月) 曇後スコール

0400—26度半、1100—25度半、
1700—23度半、2400—22度半。

旅から歸つて、身にこたへたことは、スラバヤの暑さである。マカツサルと較べて、寒暖計の示度では、それ程の大差もない。バリツクパバンでは十月二十八日の温度は、0800—127度、1300—129度、1700—131度、2100—129度であつた。

バリツクに較べると、少しは高いやうだが、これとて大差のあるものではない。それで、この暑さはどうであらう。十月と十一月はスラバヤに居るものではないとは昔からよく聞

く言葉ではあるが、今度その事實を體驗して驚いてゐる次第である。

濕氣の多少も大いに影響してゐることであらうが、兎に角熱い。内地では菊が咲き亂れて、文字通り天高くして馬肥ゆる秋の好季節であるのに、ここジャワの新領土では寝苦しく、汗だくで、四六時中身の置きどころもない暑さである。

オランダ人と謂へば、雑役に使はれてゐる俘虜より外には、子供一人、老人一人見當らないやうに整理されてゐる。軍地區から、スラバヤに歸つて来て、今更のやうに驚くことは、オランダ人達の多數が、いとも呑氣に、傲慢に、すまして、得意然と、家に、街路に、店頭、電車内に、のさばつてゐることである。

この頃では日本軍の温情に馴れ切つたのか、それとも最早大丈夫とたかをくくつたのか、兎に角、小面のにくい程の落着きと自信を取戻して、颯爽と闊歩してゐる。自動車が警笛を鳴らしても、道を譲らぬ自轉車乗りの婦人達も見受けられる。

誠にどうかと思はれる風景ではあるが、そんな婦人達に向つて、トラックの上から兵隊さんが「この馬鹿者奴が」とどなつてゐるのも散見される。兵隊さんならずとも吾々だつて、怒鳴り度いやうな圖々しいのが、この頃ではチョク／＼見受けられる。オランダ人達が、何か勝手に誤解してゐるのではあるまいかと思はれるからである。手綱は餘り緩め過ぎても馬は走らないのではあるまいか。

子供は無邪氣である。やさしい日本の兵隊さんを友達にしてふざけてゐる。二、三ヶ月前までは、オランダ人の子供達は、すねたやうな、劍のある眼で、日本人を眺めてゐたものであるが、それが友達になつて来た。子供が斯うした心境になるのは結構としても、大人がこんな心境を持つて来たとするれば、一寸考へざるを得ないのではあるまいか。

オランダ人に次いで眼につくのは支那人で、それも特に女が多くなつた。華僑の娘達は何處へ行つたのだらうかと不思議に思はれてゐたくらゐだつたのが、この頃では一體何處からこんなに出て来たのだらうかと思はれるほどで、それがもう安心だと(?)言つた顔付で、遅ればせ乍ら布地の買漁りといふ格好である。女の布地漁りは何處も同じと見えるやうな、深刻な様子で眼をすゑて物色してゐる。流石に支那人だと肯かせるやうな美人も、そろ／＼出て来たやうだ。

次に眼につくのは、大きな、不體裁なほど大きな櫻花の記章を胸につけた一般日本人の多くなつたことである。この記章は日本人會で制定してつけさせてゐる由であるから、これをつけてゐる連中は軍人でも軍屬でもなく、所謂一般日本人なのである。

それが兵隊さんが血を流して占領したジャワに遅ればせにやつて来て、俺等が占領した土地なのだと言つたやうな大きな顔して、到る處に進出してゐる。勿論大東亞の新秩序建設のために、皇軍に協力するために来てゐることは判る。彼等の眞摯な協力と挺身がなければ、復興も

建設も豫定通りには進行し難いこと 認める。この點に於ては、その進出を、その協力を、その挺身を衷心から希ふものである。

然し、物には順序があり、人の世は禮儀が大切である。時と處と相手を考へて總てに自重して、大いに健闘して貰ひ度い。一般日本人としては、先づ身命を賭して闘はれる皇軍に對し大なる感謝を絶對無條件に献げるべきである。次は曾ては友達であり同僚であつたかも知れないが、今は軍屬として、早くから從軍してこの地に來てゐる連中に大なる感謝を表すべきである。今日來た者は、昨日來た者に對しては、一日の長ある建設戰の勇士として敬意を表すべきである。

又、戰時であつても、古來からの日本に傳はる日常道徳は忘るべきではないのであるから長幼は序を立て、禮儀は正しくしなければならぬ。更に現在に於ける日本人の立場は東亞の盟主であり、指導者であることを寸時も忘れてはならない筈である。

然るに、ビールが飲み度いから、女が買ひ度いからといつて、軍人軍屬以外の立入りを禁止してゐる場所に公然と押し込んでゐるのは、どうしたことであらうか。軍人に席を譲らない許りか、軍人と張合つて〇〇〇を横取りしようとする者のあるのは、どうしたことであらうか。

自動車も少く、ガソリンも不足なので、軍人でさへ准士官以下の者は、自動車に乗ることを禁止されてゐるのに、民間人でこの點に遺憾な振舞の者の多いのは、どうしたことであらう

か。

〇〇將校俱樂部の入口には「將校及同待遇者、軍屬の外立入禁止」と掲示してゐるのに、民間櫻花記章組が入り込んで、座敷を占領してゐるがために、將校がお座敷が御座いませんからといつて断られてゐる事實を目撃したが、どうしたことであらうか。金で女中を買収する手もある。買収される女中も悪いが、この時この地で、そんなことをする民間人は、斬捨てにされても仕方のないやうな、舊思想の持主ではあるまいか。

將校俱樂部は將校の俱樂部であるべきで、軍人慰安所は、軍人の慰安所であるべきは、三歳の兒童だつて間違へることのない自明のことではあるまいか。然るに、そこに大の男が潜入するのである。そして泥棒猫のやうに、魚や鱈節をチヨロマカして食ふのである。素より民間一般人の總てが然りといふのではない。然し事實は事實である。

ジャカルタで〇〇カフェーが開店の翌日營業停止になつたとの噂を聞く。理由は軍人を殆んど入れないで、一般客を取り過ぎたからだと言つてゐる。事の眞偽は別としてさもありなと思ふ。一般人の自省と冷靜なる行動を希望する所以である。

街の人出も多くなつた。これでは戦前と變るところは殆んどないと言つてよい。

火焰樹の紅い花が到る處に咲き亂れてゐる。マンゴも到る處に賣つてゐる。空の雲行は稍々曇しさを増した。兵站旅館から兵站指定旅館に變更された大和ホテルには、一般人の泊り客も

増えたらしい。

スラバヤに歸ると、何となく寛ぎを覚えるが、それは旅では味はへない安易さと落着きを自分の住居で見出せるからだと思ふ。日本の領土であつて、一番日本色の少いことは、何となく物足りなさを感じるが、そんなことには成る可く觸れないで、寛ぎの生活を求めたい心で一杯である。

スラバヤの明治節

×月×日(火) 明治節、晴 〇〇〇—二〇〇度。一〇〇〇—三〇〇度。
一〇〇—三〇〇度。三〇〇—三〇〇度。

宣傳班では数日前から、明治節の宣傳ポスターを作つて、到る處のショウ・ウインドーその他街頭に貼付して、原住民に呼びかけてゐた。

陸海兩軍各司令部、部隊等に於ける遙拜式に次ぐ奉祝行事は申す迄もなく、海軍では特に陸上運動會を催した。原住民その他一般市民は戸毎に日章旗を掲揚し、業を休んで奉祝の敬意を表した。

ジャカルタ、スラバヤ、バンドン、ジョクジャ、スマラン等の主要都市では、内地の神宮大會に呼應して體育大會を開催して、日本人と共に、新ジャワの將來を荷負ふ原住民青少年の意氣を昂揚し、次いで街頭行進を行ふ。

夜は、日本人と原住民が齊しく聖戰を讃へる南方唱和の歌「八重汐」が發表された。この他盛澤山なプログラムで奉祝放送が行はれた。

内地の明治節は肥馬高天、菊花薫る好季節であるが、故國を遠く南に三千裡離れたこの地ジャワでは、常夏の暑さ厳しく、日中の室内氣温三十二度(華氏八十九度)と言ふ有様である。眞夏の明治節は一寸奇異の感なきにしもあらずであるが、それだけに廣く宣布された國威を思ふ時、我等草莽の臣の頭は自然と下るのみである。

南方唱和の歌「八重汐」

歌はう、心から大聲で。……………新ジャワ建設のために、波濤萬里を越えて來た吾々が、原住民と相和して、朗唱する南方唱和の歌「八重汐」の歌曲が出来上つた。

莊重で雄壯な歌詞は、澤山な應募作品の中から、〇〇〇〇部隊〇〇隊の佐々木隆氏の珠玉が當選、歌曲は日本人原住民を問はず廣く一般から募集した處、各部隊の勇士諸氏を始め一般邦人から四十六曲、原住民から百七曲の應募作品を得た。

嚴選審査の結果、候補作品數篇を得たが、何れも原住民と朗唱して、新秩序を謳歌すると謂ふ點から見ると、いささか物足りなさを感じるので、改めて〇部隊軍樂隊に作曲を委囑し、情報部囑託飯田信夫氏の協力に依り別項の如き歌曲を得た譯である。



八重汐

— 南方唱和の歌 —

- 一、(日本人より原住民に呼びかけて歌へる)
八重汐の遠つわだつみ、
天照す神の國より
大みことかしくみまつり
みいくさの船をすゝめて
はらからとこゝに集へり。
- 二、(原住民之に應へて歌へる)
日の本はあじやの光、
すめらぎの大御心を
おろがめる民草われら、
みんなみの椰子の島より
まことをば誓ひまつらん。
- 三、(兩者唱和のことば)
八重汐や幸の通ひ路、
波寄せて湧くや力の
新らしき海原人ぞ、
大いなるあじやを興す
みいくさにふるひ起たばや。

今三日明治節を下して、廣く全島に普及せしめんがため、ジャカルタ市立劇場に於て作詞者及び作曲佳作當選者たる〇〇〇〇〇〇部隊市田勇氏、ジャカルタ市トピン君に賞品授與を行ひ、次いで軍樂隊の演奏に移り、これをラジオにて全島に中繼放送することとなつた。その歌詞と歌曲とは前掲の通りである。

相和す民族の饗宴(「八重汐」發表會)

南方唱和の歌「八重汐」發表會は、明治節の夜、ジャカルタの市立劇場で開催された。集る者、軍關係首腦者、原住民有識者の外、軍政監部や陸軍病院等から若い日本女性の姿も見え、その數凡そ一千名、立錫の餘地なき有様であつた。

國民儀禮、歌詞及び歌曲の募集審査の經過報告、當選者に對する表彰狀と賞品授與に次いで、司會者飯田信夫囑託、指揮磯田軍樂隊長の指揮する〇部隊軍樂隊の演奏で莊重にして勇壯な曲が披露された。會衆は美しい調べに陶醉して終つた。

それから一番、二番と隊長の懇切な歌ひ方指導があり、忽ちにして全會衆の合唱となる。更に軍樂隊に代つて、市民病院看護婦約六十名、女子教員鍊成所及び若葉技藝學校の原住民女性約百名の大合唱が行はれた。

「日本人より原住民に呼びかけて歌へる」と題する一番を日本女性が、「原住民之に應へて歌

へる」と題する二番を原住民女性が合唱し、三番を相和して齊唱すれば、日本人と原住民の渾然一體となつた現實の姿が、ここに具現して全會衆の昂奮は最高潮に達した。

繰返し繰返し、高らかに齊唱するにつれて、會衆もこれに和して、天にも響け、地も裂けよと歌ふその聲は大戦下、南方第一線で、明治の佳節を壽ぐに、ふさはしい感激そのものであつた。會衆に混つた兵隊さんの中には、涙が出るよ、とか、俺は何だか胸が一杯になつた、といふ囁きを洩らす者もゐた。原住民の中にも、汗を拭くやうな格好で感激の涙を拭ふ姿も見受けられた。

會場の四周は群集の黒山である。披露に次いで軍樂の演奏があり、最後に全會衆の大合唱で愛國行進曲が齊唱され、意義深い「八重汐」發表會の幕を閉ぢたのであつた。

一般在留民の一動向

××月××日(木) 雨時々晴 0800—27度、1400—26度。
(ガダルカナル沖大海戦の當日) 1700—29度、2400—20度。

一般在留民と謂ふと、軍人でもなく軍屬でもない者を謂ふので、嚴格に謂へば、先般の抑留者交換船で昭南で下船してジャワ方面に歸つて來た者と、所謂現地復歸者の特別な者を除いては、一般在留民としてはない筈である。

無資格では、渡航して來たくとも渡航が出来ないのが現状である。船にも飛行機にも乗れな

いのでから致し方がない。だから最近準軍屬なる身分の者が増してゐる。これは便船を求め、軍に依つて好意的に取扱はれる者らしく、従つて目的地に着けば殆んど有名無實で、一般在留民となる譯である。

一般在留民は、日本人會に入會せねばならぬ。日本人會に入會すれば、金屬製の櫻花の徽章を貰つて、それを胸間に佩用せねばならぬ。従つてそれをつけてゐる者は、一般在留民と見てよるしい譯で、最近これが非常に激増して來たやうである。彼等は比較的遅く來たので、敵前上陸をした連中や、その直後に來て、先づ破壊された物の跡始末をして、然る後に建設を始めた連中に比較すると苦勞が足りないといふ。現在も觀方によつては、未だ創業時代ではあるが、少くも今日迄を一區切りとして見るならば、初代の創業者の苦勞を知らない、二代目の香氣さがある。物の觀方も戦争を知らない内地人の推理に外ならない點がありはしないかと思はれる。ホテルに着いて翌日から暇があるからとて、人目にかかる廊下で臆面もなく麻雀を始めめるやうな連中もある位である。内地では不自由のビールが、望み次第飲めると云ふので、馴れない土地に來て、健康的にも一人前でないことさへも考へずに、夜遅くまで飲み歩いて、早速病氣してゐる者もある位である。

荷物を各自で擔いで、汗を流しながらホテルに辿り着いた先人の苦勞も知らないで、迎へに來ないと文句を言つたり、自動車が不自由だとこぼす連中もある位である。

オランダ人達が香気に自由に歩き廻つてゐるのを見て、これぢや勝つたのか何か判らない等と生意氣な口をきく者もある位である。私達の來た三月二十日頃には、ホテルと言ふホテルの部屋の八割はオランダ人達に占領されてゐたし、食堂でもそんな連中は傍若無人で中央のよい位置を占めて、朝からビールを飲んで自暴氣味であつたし、街などをアベツクで歩いて随分癩にも障らされ憤慨もさせられたものである。

タバコなども殆んど工場が休業なので街頭から姿を消して了つたこともあつた位であるから、愛煙家の惱みは深かつたものであるが、昨今ではそんな現象はなくなつてゐる。然るに先づ一番よいタバコはマスコットであるが、それが軍管理のため一般人には入手困難なので、相當文句を云つてゐるらしい。擧句の果は、軍關係者に無理をいつて入手してゐるらしく、それも遠慮して少量にすればよいのに望蜀の結果大量をといふことになつて、肝心の兵隊さんに不自由をさせる迄に到り、最近問題になつてゐるやに仄聞する。

味噌にしても醤油にしても、市場には無いので、軍に頼んで分けて貰ふことを考へ、我も我もと殺到することにもなり、顔や因縁だけで動さざるとなると、名目のつけられるところにつけて、それで入手して、他へ流すことになつてゐるらしく、殊に甚だしいのはバターなどである。バターなんか食はずとも死ぬ譯ではなし、あんなものはこの際断然清算してと思ふのであるが、實情は仲々さうではなく、まるで餓鬼道の奪ひ合ひである。好く入手した者は澤山ス

トツクしてゐるので、何だか何も無い者は如何にも無能のやうであり、それが競争的になつて、非常に情無い状態を呈してゐる。

バターやウイスキーを清算して、欲しがらぬやうにならない限り、大東亞戦争には勝てないのだぞと怒鳴つても見るが、それだけでは馬耳東風で何にもならない。斯くなる上は、こんな物を早く消費して、何處を探しても皆無と云ふことにせねば、埒は明かないと思ふ。

酒場に行つても、例へば△軍で開店してゐるサクラ食堂に行つても、昨今では客の大半は一般在留民で、スタンドの椅子を占領して、じつとねばつてゐる。〇〇の准士官以上とその待遇者専用の酒場がこの有様である。一寸遅く來ると、軍人が坐るところもなく、それを見てゐても席譲らうとする一般在留民も唯一人としてない實情である。

ジャカルタで先日開店した酒場赤玉は、開店の翌日營業停止になつた。その原因は一般人の客許りを入れて、軍人を入れなかつたとの噂であるが、これは恐らく數も多くなつた一般人が小遣ひも豊富であり、時間的にも自由なので、早くから押しかけて、殆んど場内の坐席を占領してしまつた。従つて後から行つた軍人さんの入る餘地がなかつたのだらうと思はれるが、これが事實とすれば、一般人の自省も足りないし、場所柄をも考へない傍若無人振りでもあり、自由主義的利己主義の丸出しと申さざるを得ない。

今からこんなのでは、先が思ひやられるとも謂はれる。もう少し、時を考へ、處を辨へて行

動すると共に、敵前上陸をして、この土地を戦ひとつた兵隊さん達に感謝をして、それを日々の言動の上に反映させてはどんなものなのだろうか。敢へて苦言を呈するものも、一般在留民のことを想へばこそである。許された自由にも限度のあることは知るべきであると共に、兵隊さんに感謝をし、兵隊さんを立てることは、原住民教育上にも重大な影響のあることを知るべきである。

最近のビルマ事情

x月x日(金)雨また雨。夕刻は雷雨。0400—1175度。1400—1275度。
1700—1175度半。2300—1275度。

南方占領地域から軍政會議に出席のため各地軍政顧問が歸朝した。その際東京で語つた各地の事情は、参考となる點が多なので、同盟ニュースの報ずる處を轉載して置き度い。先づ櫻井兵五郎氏のビルマ現況を。

「ビルマは大東亞共榮圏内でも最も豊富な國防資源の供給地で、シヤン地方一帯は金屬資源の一大埋藏地であり、鉛、亜鉛、ニッケル、タングステンその他現在採掘中の鑛山は莫大な數に上つてゐる。ポートウイン鑛山の如きは、恐らく世界一の鉛の生産地である。石油も航空用潤滑油が出る。米も世界一の輸出國で、輸送が自由になれば、生産費の低廉なビルマ米によつて、共榮圏内各地の米は壓倒されて終ひはせぬかと思はれる程である。原住民たるビ

ルマ族シヤン族は、無條件に親日で、日本人がビルマ人を同じく東洋人として、兄弟視するのが、この上なく嬉しいやうだ。それだけビルマ人を人間扱ひしなかつたイギリスに對する反感は根強し。

シヤン族の如きは、日本の指導に、現在の儘やつて行き度いといつて來てゐる。治安はすつかり回復し、日本内地と少しも變りはない。ビルマに居つた重慶軍の焦土戰術には、全く憤激してゐるが、歴史的に見て、對支感情は悪くなく、寧ろ良好である點は、注意しなくてはならぬ。

ビルマ國內に居住する百二十萬のインド人に對しては、反感を持つてゐるやうだが、インドそのものの動向には、多大の關心を拂つてゐる。

また、日本がビルマを如何に取扱ふかの問題は、インド側も非常に注目して居り、大東亞共榮圏建設の日本の意圖を、ここに汲み取らうとしてゐる。

現在わが軍政は、ビルマの復興、治安回復、産業開發を主眼として行はれ、軍政の下部組織として、ビルマ人の中央政府を設け、順調に進んでゐる。ビルマ人のビルマと云ふ東條首相の聲明に深く感激せるビルマ人は、愈々日本人への信頼を深め、ビルマの再建設に邁進してゐる。

パーモ行政長官は私に對し、日本の優秀な技術家を思ひ切つて、ドシ／＼送つて呉れ、積

極的に日本語を習得出来る教育方針を確立して呉れと繰返し希望してゐた」
その後東條首相は議會に於ても本年中にビルマの獨立を許す旨を議會に於て聲明し、又ペー
モ長官來朝の際にもその旨を再確認し、ビルマ人はこの聲明によつて益々日本に對する信頼感
を昂めてゐることは、讀者諸賢の既に諒承されてゐるところである。

最近のフィリッピン事情

フィリッピン軍政顧問村田省藏氏の談は次の如くである。

「比島は今後の南方經營に於いて、邦人進出の最大據點の一つである。その意味に於いて、
わが軍政施行の理念と方法は、慎重にしかも急速に決定されねばならぬ。先づ比島に於ける
民族對策は、混血兒對策、宗教對策、華僑對策の三つの立場から、それ／＼研究せねばなら
ぬ。従來混血兒に通有の缺點として、祖國愛の缺乏、信念の稀薄なことが擧げられてゐる
が、これに對しては大東亞興隆を擔ふ一員として、嚴しい鍊成と自覺が養成されねばなら
ぬ。

宗教に關しては、住民の約八割が、ローマン・カトリック教徒で占められてゐる事實をよ
く認識する必要がある。華僑の數は、未届の者を加へれば、恐らく數十萬にも及ぶであら
う。それが金融、配給、運輸の各部門に於いて強大な勢力を有し、堅實な中産階級を形、し

てゐる。だからその去就は輕視してはならない。

これ等の比島人を打つて一丸として、東亞共榮團建設の重任を各々分擔せしむるためには
政治力の滲透、産業開發による民生の向上も必要であるが、所詮は教育による民生の向上、
自覺による民族的自信力の養成に努めねばならぬ。

アメリカ化した比島人は、所謂ヤンキー文化に毒されて來た譯であつて、従つてわれ／＼
の當面の課題は、この浮薄なアメリカニズムを拂拭し、東洋精神を確かり建設することにあ
る。差當り實業教育に重點を置いて、比島資源の革命的開發に當るべき人材の養成に努むる
と共に、日本語の普及および學校の再建など、萬端の施策を東洋精神涵養の線に沿つて實施
して行かねばならぬと考へる」

フィリッピンも本年五月東條首相は親しく視察して、フィリッピンが充分獨立に堪へうる力
を備へた際は適當な時機に獨立せしめる旨の聲明を行つたことは衆知のことである。

最近のマライ事情

マライ方面軍政顧問水田秀次郎氏の談は次の如くである。

「マライ、ヌマトラを始め、ビルマ、ボルネオ各地の軍政機構は、既に一應整備を終り、各
般の施設も、軌道に乗つて、これから愈々本格的な飛躍を遂げる段階に達した。私は大正十

二年の關東大震災後、帝都復興の事業に携はつたが、あの経験が今回の南方軍政施行に、幾多の示唆を與へて呉れた。

僅か數ヶ月に過ぎないが、私の経験からいへば、南方軍政は劃一主義ではいかぬ。民族が雑多で、風俗も習慣も言語も、各地それ／＼相異つてゐる南方に、イデオロギーや法令のみに捉はれて、杓子定規の劃一主義を以つて臨むと、到る處に思はざる困難に出遇ふ。従つて各民族夫々の民度に應じて、施策を調節する融通無碍の柔軟性と親心とが必要である。

南方諸民族は大體日本人に親しみと尊敬の念を抱いてゐる。日本の軍隊では上官が率先して範を垂れるが、これではなくてはいかぬ。日本軍の強い理由は、ここにあるとジャワの或る指導者が云つてゐるが、彼等の着眼は仲々適切である。

大東亞戦争完遂と共榮圈建設のため、南方民族が同甘共苦の立場に立つのは當然で、今後彼等を善導すれば、本格的建設に大いに役立つであらう。

華僑對策は劃一的にやるのはよくない。昭南島附近の華僑は、占領前迄は盛んに敵性行爲をやつたものだが、現在では改心してゐるやうだ。これに反し、ペナン附近の華僑などは定住してから三代、四代を経たものが大部分で、支那人よりも殆んどマライ人となつて居り、従つて重慶との關係は薄い様に思はれる。善良な華僑を利用すれば、經濟建設に利便が多である。

現地で要求される日本人は技術者である。何しろ南方は物資が豊富だから、これらの利用方法を考へることが急務で、ゴム、石油、椰子油、マニラ麻等の物資を、どし／＼生産して、國力擴充に役立たせるやう、科學的研究を進めることが第一だ。

ジャワ生活の一面

×月×日(土) 雨また雨、夕刻暴風加はる

〇〇〇—一五度。二〇〇—一七度。
一七〇—一七度半。三〇〇—一七度。

内地からジャワのことに就いては何も知らない人が、私の上役として着任した。本務の仕事に就いては同系の大会社に永年勤めた人であつて、退役してゐたのを、時節柄人物拂底と謂ふのにかこつけて引張り出したらしい。だから仕事の仕事は支人と申してよからうが、ジャワに關する限りほんの素人であつて何も知らない。

ジャワでも變體な位の梅雨式の雨が降ると、何處から聞込んで來るのか、こんな雨が來年の三月頃迄も降るさうぢやないか等と仰言る程度である。

ジャワ生活について教育と云ふと口幅つたいかも知れないが、いろ／＼と知つてゐて貰はないと困るので、機會ある毎に注文もし、指導もするので、それを纏めて見ると面白い。

ホテル住ひは窮屈でもあり、やり切れないので早く家を探し度いと云ふ。大きな家を探して陸海軍關係で來てゐる者も、一般人として來てゐる者も一緒に住んではどうかと云ふ。現在では陸海軍關係者の住宅區域は、大體一定してゐる。占領直後に接收して、ダルモ方面に混住してゐるのも、往々／＼は別になるらしい。ダルモ附近は陸軍が占めて、海軍を他に移すと云ふ。他といつても適當な處もないのだから、カタパン附近に移るのではあるまいかと想像してゐる。同じ軍隊でも高等官と判任官(待遇者も同様)では、住む地域も異なるし、家も異つてゐる。最初海軍ではダルモの一區を占めて、そこへ各部隊で纏まつたのであつたが、暫くして、判任官(兵長や判任囑託のこと)をダルモに住まはすのはけしからんと横槍が入つたとかで、タンジョン・ペラ街道に移して了つた。

その跡に當時としては、陸軍が入るとの噂であつたが、三ヶ月許りも空家の状態であつて、最近ではオランダ人と華僑などが、ポツ／＼借りて住み出した。

抑々がオランダ人や華僑を追ひ出して接收した筈なのに、どうした行違ひか、それとも方針の變更か、或は係官の心境の變化か、それとも日本人は住まはせられないがオランダ人や華僑ならよいと謂ふのか、兎に角、一度接收して海軍關係者の入つた家から無資格だとの理由で、

他に移轉させて、その跡にオランダ人や華僑が入つて來てゐることは事實である。

高等官は一軒に何名位と標準が定まつてゐる。そんなことも知らないで、大きな家を一つ二つ借りて、十人も十五人も一緒に住み度いなんて、物を知らなさ過ぎる。物を知らないなら先づ陸海軍のやり方はどうなのかと尋ねて、それから意見を述べてはどんなものだらうか。

それに一般人の居住区域は、これ亦一定してゐて、これは日本人會を経て、確か市役所で取扱つてゐる筈である。この地域内には、現在オランダ人や華僑が澤山住んでゐるので、空家を強めて殆んどない。オランダ人でも整理して了へば兎に角、現在としては、先住者に立退きを強要する権利も認められてないし、現地復歸の一般人がドシ／＼殖える一方ではあるし、將に住宅難で困つてゐる。この問題も、時が解決するであらうが、現状としては、空家があつても、他の地域では借りられないし、先住者と直接交渉して立退いて貰ふことも出来ないし、ホテルは満員であるし、仲々痛し痒しで大變である。

家族を連れて來れるやうになつたらどうするのかと尋ねると、我々年輩の者なら、家内も相當な年輩であり、上海やアメリカで海外生活をした経験もあるので、同伴してもよいと思ふが、若い連中はどうもね……と仰言る。私に言はせれば若い連中にこそ、連れて來させねばと思ふ。それには住宅を別にすればよいではないかと言ふのであるが、上の人になると住宅手當の嵩むことなどを考へるらしく、色よい返事がない。

こんな考へは、戦前の自由主義的な、而もオランダの植民地へ日本人が來てゐた當時の考へを一步も出てゐない、謂はゞ舊體制の思想である。

老年者よりも若い連中に妻子を同伴させねばならないが、現状では家が不足してゐるから暫くは一軒に大勢が同居せねばならぬから、この問題は家の解決する迄は預かりだと謂ふなら未だ判る。さうでなくて、若い妻君達は協調を缺き易く、それが主人公を通して仕事の上に反映しては面白くないから、同伴に難色を示すと謂ふのでは、將に時代錯誤と申さざるを得ない。そんな考へで、大東亞の盟主として、日本人が原住民達を引張つて行けると思つたら、大きな間違ひである。

一軒の家に五家族も六家族も同居するからこそ、煩はしくもあり喧嘩もするのである。支店長や重役の妻君達が年だけは取つてゐても考へ方がそれに伴つてゐないから、我が儘で部下の妻君達を不和にするのである。やれ麻雀の相手をするの、やれ何を手傳へるといふのではやり切れたものではない。麻雀の相手をするも偶々にはよいが、勝てば怒るのだから始末に負へない。わざと負ければ、誰々さんは何時迄迄経つても弱いのと來る。そして賭金を主人の月給袋から差引いたのだから、主人としても面白くないのは當然である。

社内の空氣を不愉快にしてゐた張本人が、所謂支店長や重役などの妻君であるのに、それを支店長や重役は御存知がないのだから目出度くもあり、百年河清を俟つにも等しい譯である。

よき上役の妻君が、同じ社宅などに居て呉れると、どれだけ獨身者が助かることか。食事はバブが作り、洗濯はバブがするのであつても、一寸した日本婦人の注意で、その料理が美味となり、日本人の口に合ひ、しかも清潔で、この上もない喜びを感じる。

ポタンがとれてゐても、ほころびがあつても、黙つてゐては決してバブは手を加へないが、それを女の細心と親切で氣を配つて呉れることは、どんなに妻を同伴してゐない者にとつて有難いことか。建設戦の一翼は婦人が擔はねばならないのであるから、一刻も早く婦人の進出を待望する。特に親切で明朗な方で、原住民婦人達の手本となるやうな方の進出を望んで止まな

ジャワのホテル

戦前ジャワで、日本人の經營してゐたホテルは、スラバヤでは堀野ホテルと東京ホテル、スマランでは花屋と玉屋、マランでは丸十ホテル、ジョクジャではやまとホテル、バンドンではホテル日光、クタピヤでは箱根と諏訪の兩ホテルであつた。

日本からの旅行者などにとつては誠に親切であり、便利至極であつて、豫告して置けば停車場へも出迎へて呉れるし、通關から入國の手續、滞在届もみんな代行して呉れたし、商賣人であれば、お得意廻りにまでも附いて行つて世話をして呉れた。見物や買物の案内などについて

は謂ふまでもない。各地の日本人經營ホテルは、左程大きくもない。家も割合に貧弱であり、環境もあまりよくはなかつたが、いつも満員である。

オランダ人經營のホテルは客の選擇も嚴しかつたし、ホテル代も大變に高かつた。おまけに三度の食事は所謂オランダ料理で、これを文句なしに一週間も續けて攝れる日本人は百人に一人あるやなしである。量許り多くて、變な調味を施したオランダ料理は私など週末旅行の夕食一回でうんざりであつた。

内地から来る高官やお歴々は、體裁のせい、兎に角オランダ人經營の一流ホテルに泊つて窮屈な思ひをしながら、まずい料理を食つて、お體裁上我慢をしてゐたのであるが、一度風邪でもひくとか、腹でも毀すと一遍に閉口するのである。と云ふのは、いくら注文しても、お粥一碗出来る譯ではなし、お刺身一切れ出来る譯ではないので、その時になつて漸く日本人ホテルに逃げて來るのである。お體裁で泊るホテルなんて、凡そ肩の凝るものらしい。

オランダ人經營の有名なホテルはジャワ全島で百軒以上もあり、中には東洋一を誇るホテル・デス・インデスのやうな立派なものもあつたが、それは戦前のことで餘り参考にもならないから詳記することは止める。最近では内地からホテル業者が進出して、各地のホテルを接收して貰つて兵站旅館若しくは兵站指定の旅館として經營してゐる。

京都の都ホテルが西部ジャワに進出して、五大ホテルを經營してゐる。即ちジャカルタのホ

テル・デス・インデス(百六十一室あり)、バンドンのホテル・プリアンゲル(八十五室、ゴルフ、テニス、水泳の設備あり)、ホテル・イソラ(十二室、ゴルフ、テニス、水泳の設備あり、オランダ軍降伏の際確か此處で降伏條約に調印した筈)、ガローのホテル・ニャンプラク(三十五室、ゴルフ、テニス、水泳、乗馬の設備あり)、それにもう一つ何處か有名な處を委託されてゐる。

萬平(?)が中部ジャワで、東部は丸の内會館がスラバヤのオラニエ・ホテル——改名して大和ホテル(百室あり)、マランのホテル・スプレシデイド——改名して常盤旅館(四十四室)トサリのグラランド・ホテル(六十七室、ゴルフ、乗馬、テニスの設備あり)、セレクトターのセレクトター・ホテル——改名して望天閣(久邇宮様の御命名に係る)、それにもう一つサラタイガであつたかサラランガンであつたかの高原避暑ホテルの經營を委託されてゐる。

バリ島のホテルは強羅ホテルが、海軍から經營を委託されたと聞く。
兵站旅館となると、兵隊さん許りで、他の人々は泊れない。兵站指定旅館となると、一般人も泊れる。宿泊料は軍で格安に規定してゐる。ジョンゴスへのチツプなども規定してゐる。然し一般人の宿泊料は、スラバヤの大和ホテルで確か十盾であつたかと憶えてゐる。

右に挙げたやうなホテルは、どれでも内地で謂へば一流或はそれ以上のものである。しかもホテルは殆んど何等の被害も受けないで、建物も器物も調度も、そつくりその儘、接收されて

委託經營者の手に渡されたのだから、委託された者は大いに勉強して、この恩に報ゆべきである。現在としては、家賃も、電気、電話、瓦斯、水道料も不要なのだから、僅かに料理などの

材料費と使用人の給料だけ浮かせば、收支償ふのである。

大和ホテルの如き、平均三十人も宿泊者があれば、收支償ふといふのに、九月頃は平均九十人近くもあつたらしく、儲かり過ぎて困る位だと謂ふ。

餘りだらしない、禮儀も作法もない、大衆食堂のやうなホテルにしないで、少しは品格を保持して、そして誰でも泊り易いやうにして貰ひ度い。そんな事をした客は、そんなことの出來るホテルに行けばよいので、何もかも混ぜて一樣にすることが公平でも平等でもなく、先進國として、盟主國としての國民が國威を宣揚する所以でもないのである。

軍政が廢される時期に、どんな形式と方法で、これ等のホテルが委託經營者の手に移るか、それは別個の問題ではあるが、大東亞戰處理は一億國民の基礎の上に立て行はれねば納まりのつく筈はないのであるから、委託をされてゐる者自身の方からその心構へで、範を垂れて貰ひ度いと思ふ。同じやうなことが他にも澤山あるのであるから、昔のやうな自由主義的な考へ方で、策動したり、處理を希望したりしてはならないことは申す迄もない。

國家が所有して、家賃を取り、純益の何割かを納付させる方法も考へられる。株式會社にして、國家が現物出資の形式で、何割かの株券を所有することも考へられる。さうすれば誰にや

らせても問題ではなく、所謂利権漁りなどもない譯で、比較的公明であると思はれる。

トレイテス行

×日×日(土)晴 〇〇〇—三〇七度。
トレイテス—〇〇〇—三三度。

内地から来た許りの人を案内して、二ヶ月振りにトレイテスに出かけた。トレイテスについては、度々いろいろなことを書いたので、もう取立てて書くこともないが、その後の變り方について、氣のついた事を寸記して見度い。第一、最近は自動車でスラバヤ州外に出る場合には、豫め旅行日時、目的、その他についての届を州廳にして、許可を得る必要が定められた。勿論、軍關係者はその必要なく、一般民間人だけであることは申す迄もない。

山の涼しさは誠に身心を爽快にさせるものがある。朝の八時で二十度、日中の暑い時でも二十五度附近、夕方の六時ともなれば、もう二十二度となつて非常に氣持がよい。どうしても出来れば月に一度位は、斯うしたところに行くことは熱帯での健康保持上必要であると今更のやうに痛感されたことであつた。

始めての友人は「女護ケ島」と名付けてゐた。誠にその通りと申さざるを得ない。働かない男達が捕へられて、パニユワンギ附近に送られてから、もう三月以上は経つと思はれる。別荘に残つた女や子供達にも、退屈の來た頃合である。我慢強いと謂ふか、體裁のため、謂ふか、

未だ孤城を護つて、山を下らないのではあるが、一騎當千の心臓者が、適當なる目標を選んで、夜襲を試してゐることは事實らしい。友人の一人が朝早くボニーを乗入れてそこへ入るなとマライ語で怒鳴られた時、見上げた相手の顔は、まぎれもない×××であつたといふ。さもありなんと思はれる節が多々ある。一般居留民の復歸と共に、その中からこの種の猛者の出て來ることは好いことか悪いことか。それは別として、事實となつて現はれるのだから致し方がない。

清澄園の主人はオランダ人で、妻君はオーストラリア人である。海軍指定ホテルとなつてゐる關係で、兎に角海軍經理部の使用人といふ名義を貰つて、今日まで無事に經營をやつて來た。内地から乗込んで來たホテル業者の中に、此所を狙つて早く接收して呉れとせがむ者もあるとかの噂であるが、未だその儘であつた。腹の大きかつた妻君は、今夜にも赤ん坊が生れはせぬかと思ふのだと笑ひながらいつてゐた。成る程、お腹は落ちさうに大きい。マランの病院に入れないのかと主人に聞くと、ここに産婆が二人もゐるし、何か變調である時は、電話さへすれば海軍病院からお醫者が來て呉れる手筈になつてゐるからと至極安心してゐた。日本人は親切だと盛んにお世辭を振りまいてゐた。

せめて、赤ん坊だけは、この安心のままで、産ませてやり度いものだとも思つた。今度は一行四名だつたので庭球をして汗を出しては、水泳をやつて、大いに鍊成の目的を達

した。十三夜の月は皎々として、高原の夜は更けて行く。上の別荘からオランダ女の哀調を帯びた合唱が聞えて来る。南十字星はと聞かれたが、よく見えない。オリオン座の三つ星が見え出した。十一月下旬の内地は寒冷を覚えることであろう。ソロモン沖では今夜も闘つてゐるのではあるまいか。

四、思想の断片

重慶のデマ放送を得意に聴く〇〇。戦地での御苦勞はもう少し心から感謝すべきではあるまいか。挨拶を忘れたカナリヤ。

重慶のデマ放送を初めて聴く

××月×日(水)晴 〇八〇〇—二六度。二〇〇〇—三二度。
一七〇〇—三三度。三〇〇〇—三十四度。

敵側の対日デマ放送は内容の如何に拘らず、これを聴取することそれ自身が、既に敵の宣傳術中に陥つてゐることを意味するので、これを聴かうともせず今日に至つたのであるが、今晚圖らずも遂に聴くこととなつた。

夕食後同宿の友人達と内地放送を聴き乍らダべつてゐたのであるが、その中何を思つたか×君が、ダイヤルを廻して、日本の音楽を放送してゐるところを捉へた。どこの放送かと聞くと、スラバヤのだと謂ふ。成る程間もなくレコードも止んでマライ語で日本語講習を始めた。

丁度内地でのニュース時間なので、×君が再びダイヤルを内地放送のところに戻したらしい。すると未だ講演のやうなものをやつてゐたので、更に静かにダイヤルを進めたところ、日本の歌謡が聲高らかに唄はれてゐるではないか。藤山一郎の「男の純情」ぢやないかと謂ひ乍ら甘美なメロデーに耳を傾けてゐると、間もなく、レコードも終つて、只今からニュースを申し上げますと美しい女の聲で、立派な日本語が流れて来た。

……南太平洋ソロモン海では日本の海軍が惨敗したのであります。……大東亞省は東亞の占領地域を植民地化して……

と言つた鹽梅に、これは飛んでもない對日デマ放送ではないか。一體どこの放送なのかと盤面をよく調べると二十五米一〇の重慶である。

これは驚いた。對日デマ放送を日本語でやつてゐるのは、サンフランシスコとインドのニューデリーだと聞いてゐたが、これは紛れもなく重慶である。

先づレコードで日本の流行歌などを五分間許りもかけて置いて、聴取者を惹きつけて置いて、扱てニュースを申上げますと来る様子は、恰も縁日夜店の香具師のやうである。田舎祭りのインチキ見世物に變らなう。

さあさ、お立會ひの諸君、もつと近う寄り給へ、見たから買つて呉れと言ふのではない。お代は見ての歸り……

と言つた工合で、それも仲々ハキハキとした日本語である。今夜の重慶のアナウンサーの日本語などは、こんな比較をして叱られないならば申しますが、スラバヤ局のアナウンサーなどより上手である。所謂相手の懐ろに飛び込んでゐると謂つたやうなもののあるのを直感した。どんなデマ放送を聴いても、それに騙され、それに踊らされるやうな日本人は唯の一人も大日本帝國臣民一億萬人中に無いことは、太鼓判を捺して請合へることはあるが、眼に見えない空中で、電波による戦争が、こんなにも深刻に、こんなにも身近で行はれてゐるとは知らなかつた。記巴と言ふのは、この電波戦などを指して謂ふ形容詞ではなからうか。

それにしてもビルマを裁定して了つた今日、背面から重慶を突いて、蔣公をなんとかする方ははないものなだらうか、既に丸五年も戦ひ續けて、未だ重慶がこんなデマ放送をやつてゐるかと思ふと、一寸小癢にも觸つて来るではないか、と言ふ者がゐる。

一體どんな御面相の女アナウンサーが、どんな格好で、こんな放送をしてゐるのであるか見度いものなど話合つてゐる中で、電波戦のショックから、いろ／＼な事を考へ乍ら、益々冷徹になつて行く心のあるを知つて、これはデマ放送にしてやられたかと呵々大笑したことであつた。日本の上空を、どんなデマ放送の電波が記巴と飛び廻つても、日本の家庭には小波一つも立たない事は、放送事業の開始に當つて、短波の使用を禁止した先賢達の功績として一應は感謝の意を表して置き度い。

新任某支配人と語つて

×月×日(木)晴 八〇〇—二六度。一四〇〇—三三度。
一六〇〇—三二度。三三〇—三九度半。

皇軍がジャワを占領したのは三月上旬であつた筈だ。新ジャワの建設戦は占領の翌日と謂はず、直ぐその日から始められてゐる。それから、もう八ヶ月近くの日時が経過した。第一期の建設戦は、もう此の邊で一段落と謂つてよい位に進捗してゐる。これ 關東の大震災で謂へば燃えてゐる火は消して、燃えかけの家や土蔵は毀して、その焼跡を整理し始末して、そこへ曲りなりにバラツクを建てて、雨露を凌ぎ、離散してゐた一家の者も集つて自炊生活を始めた程度と申してよい。

そこへ死んだものか生きてゐるものか判らなかつた一人が歸つて来て——しかも、それは一緒に關東にゐて大震災に遇つた者ではなく、關西にゐたのやら、九州か滿洲にゐたのやら判らない者で、震災を身を以て経験してゐない者——黙つて家の内へはいり込んで、今迄苦勞してゐた者達に、これ迄にするには大變でしたせう、ほんたうに御苦勞さんでした、との挨拶さへもしなかつたとしたら、どんなものであらうか。

今度、會てゐなかつた人が會社にはいつて、高い位置を與へられて、全ジャワの代表駐在員と謂ふ資格でやつて來た。第一に氣に入らない點は、御苦勞でしたとの挨拶のなかつたことで

ある。次は戦前のジャワも知らず、熱帯も知らず、五十歳にして、始めてこの地に來てゐながら、占領直後の建設戦にこの熱地で、軍の囑託として、土曜も日曜もなく、お國のために會社を代表して先着奮闘してゐる連中に、その勞を犒ふ術も知らねば態度もない點が最も氣に食はぬ。そして二言目には、個人としての利益も、會社としての利益も、この際は追及してはならぬ、一丸となつてお國のために盡さねばならぬと口先だけでは一人前のことを謂ふ。一體これは何處から何時來た人間が、何處に何時からゐる、どう言ふ人間を相手に謂ふべき言葉なのだらうか。

如何に内地では、新聞に雑誌に、ラジオに講演に、毎日毎晩この種のことを聴かされてゐるとしても、今頃やつと新占領地ジャワに來て、占領直後から、そこで苦勞してお國に盡してゐる我等に對し、それが謂ふべき挨拶なのだらうか。會社の上役だとのことだからこそ、それでも黙つて——陰ではその非常識を嗤つても——聞いてゐるのである。

試みに想へ、第一線の兵隊さんの慰問に行つた者が、こんなことを命を捨ててお國につくしてゐる兵隊さん達に謂つたとしたら、それこそ顔を洗つてもう一度出直して來いである。これは自分達の心の中の虚隙を如實に喋舌つてゐるのではないか。こんな言葉はその場でお返しして逆に進呈したい。自由主義者達が、この時代の急テンポな激變に置いてけぼりを食ふまいと、あせつてゐる事はよく解る。置いてけぼりを此の際食ふことは、生きて行けない事を意味

するのだから尙更慌てざるを得ないだらう。昔なら日本に容れられない様な赤化思想の持主でも、ソビエトへ越境して行けば生きられたかも知れないが、この超非常時に、日本に容れられない様な自由主義思想を持つた者が、何處の國へ逃げて行つて暮せると思ふのであらうか。それ位のことの判らぬ者もあるまいから、置いてけぼりは食ひ度くないとあせる心境は判る。然し唯あせるだけで、思想の改革は素より、清算さへも出来てゐないではないか。そして口先だけで誤間化さうとしてゐるではないか。そこに重大な誤算があるのだ。とてもこの超スピードの乗物には乗つて居れないと判れば、あとは若い者に譲つて降りたらどうだ。降りて一服してゐる分には、生命に別條はないのみか、却つて薬でもある。それを馴れもしないのに、呼吸さへ出来ない状態で、遮二無二しがみ附いてゐるために、飛んだ悲劇が起らうとしてゐるではないか。老いては何とやら、十年昔の諸君は、これ程物判りの悪い目先の見えぬ連中ではなかつた筈である。

腹の中で、一昨日のことを考へ乍ら、口先だけで、明日のことを語るやうな曲藝はお止めなされた方が、お危くなくて、およろしう御座んすぞ、と申上げ度い。

お國のためにと言つてゐる尻から、儲かる仕事なら喧嘩しても貰ひ度いが、利益の薄い仕事で、お上から割り振つて呉れることなら、先づ他に逃げる心配もあるまいと振りむきもしない様な實例があるが、これが頭隠して尻を隠し切つてない證據ではあるまいか。荷物を積むのは

よいが、運賃は呉れるのか知らなんて言ふのは、どんな種類の男なのか。それでゐて、如何にも滅私奉公第一主義の様なことを表看板にしてゐるから笑はせるではないか。

海軍の仕事をするのなら、少くも海軍軍屬なり、準軍屬で来なくては、手も足も出ないに拘らず、陸軍關係の名義の方が渡航の船便に都合がよい位の考へで来て、海軍にも顔を出し度いがと、誠に子供の駄々を捏ねる様な虫のよいことをいふには驚く。

顔を出して仕事をしたければ、現地で軍屬にして貰つてもよい譯だが、それでは陸軍關係の仕事が出来なくなるから困ると言ふ。誠に虫のよい考へで、陸海軍を両手に乗せて都合のよい様に操らうと言ふ譯である。

それちや仕方がないから陸軍關係の仕事を表面上やつて、海軍關係の仕事は裏面で即ち社内だけの實権を握らうと企てる。百鬼夜行振りではないか。

二つの会社の重役を兼ねてゐる男が、甲の会社の身分だけで、ジャワに渡つて来た。何處へ行つても先づ甲の会社の身分を書いた名刺を差出して挨拶する。これは當然であるが、話してゐる間に、話を乙の会社の分野に誘導する。そして頃合を見計つ、今度は乙の会社の身分を書いた次の名刺を差出して、どうぞよろしくとやる。

こんな連中が相當に多いのである。しかも、きまつてそれは下級社員ではなく上級社員であり、重役階級である。こんな手は十年前では當然であつた筈で、紹介状を貰つて人に會ひに行

く手の、自由主義的變形態と言つてよい。

これを大東亞戰進行中の今日、新占領地で、軍人相手にやつてゐる連中の心臓の強さ、厚顔振り、時代認識の缺如さ、憐れと言ふも愚かなりと申し度い。こんな連中が社員連に向つて、お國のためだ、大いにやつて呉れと言ふのだから清濁混淆して、ケジメがつかなくなる譯である。先づお手本は上の者が垂範しなくてはならぬ。上の者が口先だけの附け焼刃では笑はせものである。

スラバヤに着けば一流の大和ホテルに立派な部屋がとつてある。自動車も心配なく廻して呉れる。そんな結構な身分が何處にあるだらうか。みんな先着して苦勞してゐる社員達の心盡しに他ならない。三月末の頃はどのホテルにもオランダ人が大きな面してのさばつてゐた。先づそれを退かさねばはいる部屋もなかつたのである。トラツクでやつと荷物を運んで貰つて、自分で積卸して、ホテルの穢い部屋にやつと落着いたのが、船で埠頭に着いてから三日目である。仲間の連中はみんな船で三日二晩を明かしたのである。自動車を一臺貸して貰ふに、どれだけの頭を下げて頼み廻つたことかと思ふと、占領直後で氣も立つてゐたが、よくもやつたと涙が出る位である。それとこれと、唯一つ二つのことを較べても、それこそ雲泥の差である。あとからのそ／＼と今頃やつと来て居り乍ら、何の苦勞も味はないで、大きな面をしてゐるのは、何と考へても好感は持てぬ。これが自然と思ひ、これが當然と思つてゐるのである。

あとの薦が油揚をさらつたとはこんなことを言ふのか。支配人でこれ位だとすると、重役でも來たら、どんなことになるのだらうか。

もつと／＼會社などは新體制にならなくてはならないと思ふ。それには先づ重役連中が思想的清算を行つて、表も裏もない、眞實の新時代に於ける指導者とならなければならぬ。若しそれが出来ねば、潔く職を讓ることである。時代は急テンポで移るのだから。

次は社員連中は、もつと／＼規律的に行動し、禮儀を重んじ、上長の命に服すべきである。よくも今日迄、あんな支離滅裂さで、一つの會社としての形態の維持が出来たものと驚く。面従背反を日常の茶飯事とし、一時間で出来る事に一日を費して能率を低下せしめ、事勿れ主義に墮し、阿諛を事としてゐる様なやり方は速かに清算さるべきである。

重役はもつと社の綱領と、これが實踐方法を明示し、身を以て陣頭指揮に當るべきで、社員は一致團結して、社の目標に向つて滅私的に勇往邁進すべきである。

若しそれ給與に關しては、宜しく國家が、全般的均衡を目的として、指示調節を圖るべきで、厚薄偏重による少數大物製造よりも、廣く厚く中物大多數製造に着眼されて然るべきではないかと思ふ。これ等のことに關しては何れ項を改めて語り度い。

敵性國市民の再掃

×月×日(金)曇

0800—1200 晴 1200—1500 晴
1500—1800 半晴 1800—2100 半晴

第一回の清掃工作は、可成り以前に行はれて、確か十八歳以上五十歳以下の男子達で、現在軍に協力して建設戦に従事してゐない連中は、パニユワンギ附近に連れて行かれた筈である。その後、いつの間にか、水が涌き出て来る様に、敵性國市民が再び澤山姿を現はして、我が物顔に歩き廻つてゐることは、つい兩三日前にも誌した通りである。

まさかマラリヤの蚊ではなし、況してや水でもないのだから涌き出る道理もないが、さればとて一年と経たないのだから、十七歳以下の子供が急に大きくなつた譯でもあるまい。結局第一回の清掃の際は、何等かの名義を附けて有職者として收容を免れた者であらう。或はその後失職した者もあるであらう。或は地下に潜つてゐた者で出て来たものもあるかも知れない。小さくなつてゐれば、それ程目立たないのであらうが、案外大きな面して、のさばるので目立つのである。果ては圖々しいと言ふことにもなつて來る譯である。

第二回目の清掃 近く行はれるとの風聞が飛んだのは、この時である。

知らぬが佛ではあるが、昨年十二月八日の朝、連行されて遂にはオーストラリヤ迄も奴隷のやうな扱ひを受けて送られた在留同胞のことを考へれば、早晚彼等にも來るべき運命であつ

たものが遂に來らんとしてゐるに過ぎないと思ふ。

この期に及んでどんなに泣いても叫んでも致し方ないではないか。

大東亞戦争が始まつてから既に一年近く、皇軍がジャワを占領してからも既に八ヶ月が経過してゐるではないか。在留邦人が十二月八日の早朝に、寢込みを襲はれて、寢衣を外出着に更へる暇も與へられず、況してや朝食を攝るなどは及びもつかないこととして、即刻引き立てられて行つたのに較べれば、この長い間、多少の不安はあつたかも知れないが、毎日三度の食事を攝つて、外出も自由で、枕を高くして寢に就き得たことは、如何程の有難さであらうか。感謝の涙に暮れて然る可きところである。

第二回の清掃は、どの範圍どの程度か知らないが、それが行はれると謂ふことは、當然のことであつて、何等の疑念もさしはさむ餘地はないと思ふ。

更にこの機會に、不逞——皇軍の建設に協力しない者或は皇軍の建設を妨害する者等——華僑の清掃をも併せて断行して戴き度い。

商業街と謂はず、ダルモ附近の、日本人でさへも移轉して來られない様な住宅地域に、最近大分華僑が進出して來て、是亦大きな面をして住んでゐる。その舉措にも、我々日本人に對し傍若無人なるものを痛感させるものがある。

不逞な華僑の中には、第一回の肅清に捕へられてゐながら、百方手をつくして、收容を免れ

てゐる者がゐる。こんな華僑の露拂ひとなつて歎願書などを軍當局に提出したと噂される日本人すらもある位であるから、華僑の裏面史は仲々複雑である。

新ジャワの明朗なる建設は、先づ敵性のものの清掃から始めらるべきであらう。

敵性國市民の逮捕

×月×日(月) 新嘗祭、晴
 〇八〇〇—二七度。一〇〇〇—三二度半。
 一五〇〇—三三度。二五〇〇—三三度。

兩三日前から、スラバヤに居住してゐる敵性國市民の第何回目かの逮捕が始まつてゐるらしい。極秘裡に行はれてゐるので、大きな噂とはなつてゐないが、それでも事實は事實として、口から口へ、次から次へと傳播してゐる。筆者の三猿主義を堅持する耳へ入つたのも、全然別個の二つの途からであつた。こちらは聞き度くはないのだが、先方はよい聞込みとして話し度くてたまらないらしい。一つは氷枕を買つて呉れと頼んで置いた支那人からで、何處を探しても見付からない氷枕をやつと一つ何處かで見付けたといふ。鬼の首でも取つたかのやうに、見付かりました、明日持つて来ますと云つたその翌日に、持主のオランダ人が捕へられたので駄目ですといつて来た。もう一つは、日本から最近来た許りの男が、夕食後の散歩に出たら隣組の一人から「今晚は」と日本語で挨拶された。見ると西印度から来たインディアンとのことで、それと話してゐると、問貸してゐたオランダ人が一昨日連れて行かれたとのことであつた。

たと筆者に話して呉れた。

今度は、どんな範圍で、どんな人々が連行されるのか、よくは知らないが、恐らく積極的に日本軍の建設戦に従事しないで、女なんかと隠れて棲んでゐるやうな連中が連行されるのであらう。出来れば、これ等と一緒に、第三國人で利敵行爲をやつた者や、排日をやり、不逞であると目される華僑なども一度清掃して貰ひ度いものである。前者の一例は、丁抹人や瑞典、諸威或はアイルランド人で、大東亞戦争勃發後、ジャワなどの港にあつて、オランダ海軍の命令に違つて各自の乗船を沈めた船員達である。後者の例は餘りにも多く、極言すればジャワにある華僑の大物は全部それに該当するといつても過言ではない位である。現在でも、日本軍の取締の寛大なのに乗じて、ナイト倶楽部の如きものを作つて、オランダ女を集め、酔ひ且つ踊り狂つてゐるとの噂もある位で、それも「敵國人の日本人を相手にするより、吾々を相手にしては」と持込んでゐるとのことである。

尙、最近の商業街を見ると、〇〇人が、我が世の春と謂はぬ許りの顔をして、いろ／＼の店舗を擴張し、新たに開き、その簇生振りには一寸驚かざるを得ないものがある。

暴利といふことは、今まで十盾で賣つてゐた物を、二十盾で賣ること許りではない。十盾の品の品質を五割も低下して、それを十二盾で賣つても暴利であると思ふ。表向きでは暴利取締令も公布されて、一應は取締られてゐることにはなつてゐても、仲々そこ迄は手が及んでゐな

いのが實情ではあるまいか。彼等に日本軍に協力する意志がないとすれば、こんな取締はとも充分に遂行されるものではないかと思はれる。若しさうだとすれば、こんな真中も何とかする必要があると思ふ。

オランダ人達は、インドネシア人の巡察に、戸口調査をやられたり、逮捕に來られたりする事は、到底忍び難い侮辱を感じると思ふ。日本人にやられることは致し方ないとして、辛抱はしても、インドネシア人の巡察では辛抱が出来ないと謂ふ。昔のことを考へたら、さもありなんとも思はれる。然し日本側に見れば、そんなことに迄日本人を派 するほどの人手もない。インドネシア人の巡察と雖も、現在では立派な日本の官吏なのだ。捕へられるのまで贅澤を言ふな、といふことにもなるではないか。

昨年十二月八日の朝まだき、在留日本人を逮捕に寄越したのも、インドネシア人の巡察ではなかつたのか。それも一人か二人を連行するのに、二十五人もの巡察を派したといふではないか。

ジャカルタでやつてゐるやうに、早く敵性國市民を一定の保護地域に收容して貰ひ度いものである。飽く迄も反樞軸國側の勝利を信じ、近くアメリカが救援軍を送つて呉れると確信して期待してゐる是等敵性國人を、全くの自由の下に、住まはせ、街を歩かせ、買物をさせてゐることは、いろいろの意味からいつても、決してよいことではなさうと思はれる。

ジャワは天國であると云ふのも、インドネシア人が自然の兒として天恵の生活をしてゐると言ふだけではなく、華僑も第三國人も、誠に安易な、思ひの儘い生活をしてゐることをも意味してゐる。

マヅラ名物の競牛大會

牛の島マヅラ——マヅラは同時に鹽の島でもあるが——の珍奇な催物として、有名な競牛大會が、去る一日マヅラ島スメネツプで開催された。各郡の豫選を経て集つた牛は七十餘頭、ここで島一番の牛定めが行はれた。競技場の四周には幾萬を算する農民の群が集り、あの牛、この牛と張り合つてゐる。

競技は、百五十米の芝生の上を、牛二頭に櫓を仕立てて、二組宛出場して突走るのであるが、牛歩遅々なんて謂ふのは日本のことで、ここマヅラの牛は大抵二十秒以下で百五十米を走る。

着飾つた牛が、幟を立てて、土煙の中を走るなどは、マヅラならでは見られ、風景である。斯くて選ばれた島一番の牛は、金四十盾也の奨励金を戴くのであるが、何せ牛を可愛がることは妻子以上といふマヅラ人のことだから、近所近在への挨拶や大盤振舞で、身代限りをする者もあると謂ふことである。

優しい日本女性の進軍譜

若い日本の女性達が、たぎる聖戦完遂への情熱を波濤萬里に乗せて、續々と南方地域の戦ひに参加してゐる。仁愛の赤い十字を白衣に包んで、傷痕の勇士達許りか、優しく原住民の子供達に送いたはりの手をさしのべる看護婦さん達、これが数から云つて一番多いらしい。

生花、手藝、お作法など、日本婦人の持つ教養を、原住民の女性に教へる人々もあるらしいが、これは案外に少数かと思はれる。

軍関係の各機關でタイプの鍵を叩く女性、事務を執る女性、朝から晩まで軍票を数へてゐる女性、兵隊さん達のオアシス軍酒保で慎ましく働く乙女、水交社などでサーピス嬢として勤務してゐる明朗女性等々……

寸暇があれば、兵隊さん達の浴衣などを縫つて、二重三重のお務めに専心してゐる有様は感激の他はない。日曜ともなれば、バスや自動車で、高原の避暑地などへ、隊伍を組んで引率者の指揮の下に遠出をしてゐるのを目撃する。

町に残つた者はテニスに、散歩に、プールに、潑刺として青春を愉しみながら、建設戦に参加してゐる。陽やけした者など、原住民と見分け兼ねる位である。

それでも我々日本人としては、如何に陽やけで顔が黒くとも勇ましい彼女達の街頭行進

は遙かに遠くから識別し得られるのである。蟹股に歩く稍々太い足——あら御免遊ばせ——これが大和民族たるの證據でなくて何であらうか。

然し今は、そんな姿や格好なんかは問題ではなく、新ジャワ建設の世紀に轟く歩調に合せて、雄々しくも進む日本女性の眞姿こそ、いとも氣高く美しいと讃へずには居られない。

華僑の一面

××月×日(土) 小雨 〇八〇—二九度。晴。一四〇—三〇度半。
一七〇—二九度半。曇。二四〇—二九度。

さほど小さくもなく、さればとて一流と云ふ程でもない支那料理店に行つたことがある。こちらが招待されたのであつたが、主人側が仲々來ないので、しびれを切らして帳場に電話を借りに行つた。電話をかけながら何氣なく、机の上にあつた一尺許りの定規——断面が正三角形のものであつたが、それを片手でいぢくつてゐたが、よく見ると、こんな文句が書いてある。

持其志無暴其氣 效於事而慎於言

理智勝於情感 精神克服一切

これは當然な事で、別段名句でもない。然し私の感心した事は、こんな飯店の主人か使用人か知らないが、(恐らくは主人であらうが)定規にこの様な修養の句を誌してゐることである。文字の國である中華の人々は、時にアツと驚く様な名文句を、いとも達筆に誌してゐる。

そして、それは單に誌すだけではなく、それを座右の銘として、それに依つて日々の修養をなさんとするのであると想ふ時、中華民族に對して、限らない尊敬と愛着を感じる。さう言つては失禮かとも思はれるが、南洋華僑は殆んど一人の例外なしに、赤手空拳、裸一貫で渡來した者で、謂はば振出しは苦力である。この飯店の主人、新客か、それとも何代目のババ南京かは知らないが、定規に誌したこの座右の銘を見て、何となく好感が持てるではないか。利にさとく、狡猾なだけが華僑ではないらしい。彼等も亦、人としての修養を志す者であることを知る時、我々日本人として大いに考へさせられる處が、なくてはならぬと思ふ。

興南鍊成院に期待

南方諸地域の建設に挺身する、大東亞要員を鍊成する興南鍊成院は、十二月初めから開院の運びとなると聞く。

東京からの同盟ニュース報に依ると、「鍊成の基調を、南方國諸民族をして、皇國の民として又皇國精神をもつて、拘擁せんとする我が南方政策を、基本理念に立脚して、鍊成員が將來南方各地赴任後は、原住民に率先垂範し、同甘共苦の信念により、指導せしめんとするにあり。單なる教育に止まらず、心身一如、知行一體の實を擧げんとしてゐることは注目される」としてゐる。

誠に文字通り、この通りであらねばならぬ。これが會てのやうに、文字上では、國家に有用なる者を教育するにあり等と誌して置き乍ら、その實、研究に名を藉りて赤化思想を養ひ、國家に有害なる教育をなしたるやの憾みありし殷鑑に顧みて、戒心自重すべきは申す迄もない。一言にして謂ふならば、現在南方現地に於て、最も必要としてゐる人物を鍊成送致すべきで、それには南方を斯々せねばならぬと我が方から希望する線に沿はすこと固より必要ではあるが、それと同時に、斯々して貰ひ度い、現地で研究したところに基き斯々せねばならぬとの現地希望の線に沿はすことも甚だ必要なことと思惟される。

又、大東亞要員の派遣挺身隊のみに、要望すること急で、これが温床たる内地の各部が依然牛歩漫々であつてはならない。この點本末輕重を誤ることなく上下一致、施策を急進し、要員鍊成に努められんことを望む。

尙蛇足を附加するならば、特に禮儀を重んずることを強調鍊成して戴き度い。例へば長幼の序列を尊重することも、日本人同志がもつと一致團結して相互扶助することも、特に強調されねばならないことと思ふ。唯人手が必要だからとて、内地でも既に退役してゐる者を、引張り出して送るだけでは、現地としては甚だ困る。爺捨島ではない筈だから、もつと若く、信念的な人間を送つて戴きたい。それを實現させるために、興南鍊成院などを造つたことと思ふ。

神経痛で仕事の出來なかつた者を、熱帯では神経痛も發作すまいと考へて送つて見たり、老

齡既に退職してゐた船長を、無理に起用して送つて來たので、乗船させて見たら、老眼のため夜間の方位測定が全然出来なかつて見たり、現地復歸後でやつたとジャワに着いたら、早速腦溢血の再發で倒れて見たり、こんな人々に對しては誠に氣の毒ではあるが、各自にも無理があり、これを知つてか、知らずか送つた方にも手落ちはあると思はれる。

生々として發展するには、先人の屍を踏み越えて進まねばならぬことは申す迄もないが、この際必要なのは屍ではなくて、既に屍を乗り越えて進んでゐる第一線部隊への増援隊であり、更に躍進すべき信念的若人の挺身隊である。

國家的使命を自覺し、信念を以てこれを挺身貫徹せんとする若人の増援部隊があつてこそ、大東亞建設戰の戰果を擴大強化し、不動にこれを把握し得ると思ふ。眞に皇國精神を體得した者であれば、禮儀を重んぜよとか、長幼の序を心得よとか、一致團結せよとか、新附の民に仁愛であれとか等々のことは今更申す必要はない筈である。舊きものの殻を捨て、新しき道に生きる感激と、信念を鍊成することこそ、刻下の急務でなければならぬ。大東亞要員は理窟をこね廻すやうな人間ではなく、捨石となつて黙つて縁の下の力持ちとなるやうな人間でなければならぬ。一方に於ては、そのやうに教育し、鍊成すると共に、他方に於ては、是等の挺身隊が何等後顧の憂ひなく活動し得らるゝやう國家としての施策を講じ、恩賞の途を明らかにすべきだと思はれる。

(附記) 海外同胞中央會で、海外進出を希望する女性のために、東京市杉並區阿佐ヶ谷に海外同胞女子鍊成寮を開設中であつたが完成、十一月七日開寮式を行ふ由。

舊慣制度の調査

××月×日(日) 晴 〇〇〇—二七度。一〇〇—三二度半。
曇一〇〇—三三度半。三〇〇—三九度。

原住民の持つ文化とか習慣等を尊重して、それ等を充分に研究調査した上、これを諸施策に反映せしめ、新ジャワ建設を、圓滿に進行せしめんとする趣旨の下に、軍政監部に舊慣制度委員會が設置されたと聞く。誠に喜ばしい限りである。

溫故知新は必要なことであり、これを新ジャワ建設にも、用ひんとする公明なる態度と寛大なる仁慈は、誠に皇恩の恰き證左であつて、こんな喜ばしいことはないと思ふ。原住民に代つてその有難さに感泣し、關係各位の勞を多とすると共に、この上とも研究調査の完遂と、その利用の迅速且つ急速なるを切望してやまない。

委員は日本人と原住民とから成つてゐるが、その顔觸れを見ると、原住民側に、マンスール氏とかアミス氏の如き宗教界の長老を始め、ジャヤデニグラト氏とかスタルジョ氏の如き舊蘭印評議員たりし政界の長老などのあるのは嬉しい限りである。特にハツタ氏の名前を見ることは珍らしくもあると共に、喜悅の情を禁じ得ない。ハツタ氏は經濟學博士であり、知日の有識

者であつた。會て日本に旅行し、その時の日本新聞記者の獨斷的な會見談が禍根をなして、シヤワに歸着するや否や捕へられ、「好ましからざる人物」として、ニューギニアのデグール地方に流刑されてゐた。皇軍のニューギニア占領と共に救助されて數年振りでシヤワに歸つてゐた。ピルマのバーモ博士に匹敵すべき人物で、この長老を爰に加へ得たことは、それだけで既に舊慣制度の調査を完遂した觀を覺える。その他に五名、合計で十名の原住民を加へてゐる。日本人側に委員として、有村貫一氏の名前を見出すことも嬉しい。古い駒場の出身で、會てシヤワに在留日本人の長老として、公私共に大いに邦家のため活躍せられた方である。委員會幹事に、バタビヤの領事であつた三好俊吉郎氏、シヤワ日報の主筆でめつた谷口五郎兩氏の名前を見出すことも嬉しいことである。關係者御一同の御健闘と輝かしき成果を祈念する。

邦人關係事務局の新設

新シヤワ建設の一翼に参加するため、シヤワに渡航して來る者が續々として増加してゐる。一般邦人、銀行會社の従業員、現地復歸者など、その主なる者であるが、軍政監部では、是等邦人に關する一切の事務を掌管するため、今般「邦人事務局」を新設した。

邦人事務局での仕事の主なるものは、邦人の指導、監督、取締及び斡旋などであつて、これ

が地方機關としては、各州廳内務部内に係員が置かれる筈である。

内地での行政簡素化中に、繁文褥禮の撤廢と謂ふ一項目があつたと思ふが、何事にあれ、先づ最初は最も簡潔な方法で事務を執つて進んで戴き度い。必要にして、最少限度の書類などを整備して、大局的に潤達な事務運行を希望して止まない。内地で繁文に馴れてゐるからとて、不必要な仕事までなさる必要はない筈で、必要にして最少限度と云ふことが金科玉條として、守られて然る可きではないかと思ふ。

話は少し横道に外れて、飛躍するが、内地の會社などでも、この際大いに事務の簡易化を圖つて、能率第一主義とし、足りない人手で間に合はすやうに施策する必要があると思ふ。大抵は最初は簡易であつただらう仕事は、追加々々で段々仕事を増して、不必要な部分の整理統合が殆んど行はれない爲に、徒らに繁雜を増す許りである。

現在のやうな時に、徹底的整理統合をやつて、事務を簡易化し、人事を省くことが、大きな意味で「職奉公」もなり、報國ともなることを知るべきであると思ふ。事務のたゞの事務に墜ちる事を希ふこと切なるものがある。逆説かも知れないが、占領地から、内地銚後の賢明なる諸賢に敢へてこの言を呈する所以である。

南方資源の活用促進

××月×日(月) 小雨

〇八〇—二九五度。曇、時々バラ／＼雨一四〇—一三度。
一七〇—二九五度。小雨三〇—六度半。

内地からの同盟ニユースに依ると、共榮圏の建設と、長期戦の完遂には、益々大量の資源と
 確固不動の戦力培養を必要とするので、政府はこれが整備充實のため、各般の施策に萬全を圖
 つて來たが、更に我が國不足物資の補填増強に一層拍車を加へるため、近く南方資源活用促進
 試験研究機關を創設することとなつたと報じてゐる。

試験とか研究對象を一元的に調整して、我が不足物資を如何にして、合理的且つ急速に南方
 資源により補填し、活用すべきかを、國家最高目的に合致せしむべく検討の上、實施さるゝこ
 とは、誠に有意義なこととして滿腔の讃辭を呈するものである。勿論この中には本年の六月十
 日附東京の新聞に掲載されてゐた、南方の過剰資源の利用も包含されてゐることと想ふが、そ
 の記事の抜萃を摘記するならば、ゴムは共榮圏内では、年産百六十萬トンを生産するが、ゴム
 として利用した以外の過剰なものは耐酸、耐熱、耐蝕性を保有させて、金屬代用品として利用
 する外、航空燃料やゴム油を製造する研究をするといふのである。

椰子油は、共榮圏内では年産百十萬トンを生産するが、今までの需要で剩るものから石鹼、
 ローク、塗料などの新利用法を研究すると云ふ。

マニラ麻は主として、ダバオを中心として、年産八十萬トンを生産してゐた。これの過剰額
 から、軟い黄麻代用品を作つて、麻袋やズックなどにすると云ふ。

砂糖は、どう勘定をしたのか詳らかでないが、年産二百萬トンで、過剰のものからアルコ
 ル、合成樹脂、澱粉などをつくると云ふ。

何れも誠に結構な着想ばかりである。世界に冠絶してゐる現代日本の科學と、技術に加ふる
 に、國難打開の熱と力と意氣で、大いに研究を促進され、これが實施の一日も速かならんこと
 を切望して止まない。

南方には資源が豊富にあると謂ふ。然し只在るだけでは、何の役にも立たないのである。資
 源を必要な處へ、必要な時に、必要な量を持來つて、それを必要とする役に立てるのでなくて
 は、文字通り寶の持ち腐れである。

眞摯なる研究が、急速に行はれて、必ずや立派な成果を收め、それが大東亞の建設戦に一役
 も二役も役立つことを信じて疑はないと共に、それを祈るものである。

今や大東亞共榮圏は、凡ゆる資源に於て、過剰を生ずる程に、持てる國である。今後の使命
 は、これが有益なる使用の程度如何に存する。大東亞戦争完遂の成否、遅速は、懸つてこゝに
 在ると観するならば、大いに努めて、研究に邁進せざるべけんやである。

五、熱帯を知れ

熱帯は恐れる必要はないが馬鹿にしてはならぬ。恐ろしいマラリヤ。決して死なないデング熱。案外多い盲腸と肺結核。

熱帯と健康

戦前ジャワに在留してゐた日本人は、概ね三年働くと、一度内地へ休暇を得て歸つてゐた様である。尤も物質上にも餘裕があり、時間的にも使用人として縛られてゐなかつた人達——銀行會社の重役とか個人商店の主人など——は、一年に一回、それも内地滞在三ヶ月と云ふやうな贅澤な歸朝旅行をしてゐたが、それ等は一般から謂ふと、先づ例外とせねばならぬ。

この歸朝は、三年も本國から離れてゐると、祖國の事情に疎くなつて實務に差支へが出来るからと云ふよりも、温帯で育つた身體に、幾分なりとも休養を與へる意味が多分に含まれてゐるのである。これをしないと、所謂ジャワ呆けで、おまけに健康を害して、役に立たなくなつて来る。イギリス人なども、毎三年に一度歸朝と云ふやり方であつたらしい。

然るにオランダ人は、五年毎の休暇で——その代り五年毎に、丸一年の休暇が貰へ、その間の給與、手當等は全額支給を受けてゐた——よく働いてゐたが、その理由は、何もオランダ人が特に熱帯で強健だと云ふのではなく、長い間の植民地經營で、種々と經驗を積んだ結果、政府として短期休暇を設けて、領内の涼しい土地で休養させてゐたからである。

この制度があるがために、割合に寒い本國育ちのオランダ人も、充分健康を回復することが出来るのである。この制度の如きは、將來の施策上、日本人としても學んでよいのではあるまいか。兎に角、この制度を裏から見ると、領内での短期休暇で健康が回復出来ると云ふことは、ジャワの氣候が健康的である證據で、こんな處は、他の熱帯植民地には見當らない。

ジャワでは都市の衛生施設は、誠によく完備してゐる。ある意味から謂ふと、日本の都市よりも遙かに近代的衛生施設がなされてゐる。特に水道は吟味が充分である。

ジャカルタの水道は、サラ山の中腹に水源を求めて、これを一〇〇キロもある長いパイプで導いてゐる。貯水池も理想的なので、東京の水道に少しも劣るところがないと謂はれてゐる。水質検査によると、その儘で飲用に適してゐる。スラバヤについても同じことが謂へる。

こんな立派な水道がジャワの各都市に完備されたのは、第一次世界大戰當時の好況の結果である。當時はジャワに、黄金の雨が降るとさへ謂はれた位の物凄い景氣であつた。その黄金の一部を使つて、政府は交通土木の方面や、都市の衛生方面の施設を完備した。

たゞ、茲で一寸注意して置かなければならないことは、都市に上下水道その他の衛生施設が完備したからと云つて、全都市がさうなつたのではない。官廳街、商業街、歐人住宅街が、その対象であつて、原住民達は殆んど、その恩恵に浴してゐないといつてよい。

上下水道の完備のため、マラリヤ病やコレラの如きも、都會の住人にとつては、殆んど脅威ではなくなつて來たし、マラリヤ蚊の激滅して來たことも事實である。然し地方では勿論のこと、都市近郊、都市の中に散在する原住民の村落——カンボンと謂ふ——に於てさへ、蚊や飲食物に注意を怠つてはならない。腸チブスとかアミーバ赤痢は、よく生の食物から傳染することが多い。また子供には疫痢に罹るものも多いやうである。

ジャワには盲腸炎が多い。オランダ人の醫者は盲腸炎の手術には熟練してゐるので、極く簡単に切つて了ふが、手術料に五百盾も取られ、入院料に二週間で一千盾近くも取られるので戦前の在留日本人達はこれを一種の破産病とさへ稱した位である。どうしてそんなに盲腸炎が多いのか、氣候の變化と密接な關係があるらしいが、その關係については、醫者の研究と調査に俟つより他に致し方がない。

ジャワでは誰でも風邪に罹り易いのであるが、それは常に皮膚を刺戟して置かぬからだと言はれる。

一日に少くも二回のマンデー（水浴）を勵行して、汗を流せと謂はれるのも、そのためである。

特に都會に許り住んでゐて、高原の涼氣を楽しむ餘裕のないやうな多忙な人々は、努めてマンデーをやらなければならぬとされてゐる。マンデーは、また運動にもなるのである。私のレコードでは、一日に九回やつたことがある。熱帯で豊富に水を使へることは、何にもまして愉しむ。

マンデーをやらないと、皮膚がたるみ、皮膚の色が悪くなると謂ふ。熱帯では夜明け方に、氣温が激變して來る。それに耐へるだけの皮膚を鍛へて置かないと、殆んど毎日のやうに風邪をひく。熱帯で風邪をひくなんて、可笑しくつてと云ふ人があるが、その人は、日中の熱さが、殆んど變化なしに夜中過ぎまで持續されて、それが明け方にかけて激變する熱帯氣温の特徵を知らないからである。

明け方に寒いなと思つたら、もう風邪をひいてゐる。それも多くは鼻風邪で、仲々癒らない。寒いと思つて毛布をかけると、蒸しむしして眠られない。いつの間にか毛布をはいでゐる。また寒いと思ふ時は、大抵手遅れである。私なんか高血壓の關係もあるのだらうが、熱帯でゐながら、明け方は足先が冷えて目が醒める。それでゐて上半身は汗だらけである。だから調節の仕方がなくて閉口してゐる。毛布を足先だけにかけたのでも、むし／＼してねつかれない。

ジャワの醫藥は、戦前は殆んどドイツ品であつた。バイエル藥が壓倒的で、日本藥では武長

品が相當進出してゐたかに想はれる。オイチニの薬屋さんが富山の薬を賣り歩いたのは、遠く二十年以上の昔である。醫者の診察もドイツ流で、都市には相當澤山な醫者がゐた。ジャカルタだけでも戦前百名以上の開業醫がゐた筈である。

二十年許り昔は、醫師法なんて、よい加減なもので、所謂もぐりのインチキ醫者が多かつたらしいが、最近是非言にうるさくなつて、しかも開業醫の國家試験が、オランダ語だけで行はれるので、日本人などで合格する者は殆んどないといつてよい。またたとへ、試験が通過する程の成績であつても、政策的に落第させようと思へば、いらくでも落第させられたのである。だから日本で教育を受けた醫者なら、先づ絶對的に合格は出來ない。

數年前、二名の日本人が、この試験を通過して、一人はスラバヤに、他の一人(臺灣人)はジャカルタに開業してゐたが、この二人は、何れもジャカルタの醫科大學出身者である。政府で認定してゐる醫科大學の卒業者であつて見れば、いくら何でも不合格には出來ない譯である。

齒醫者だけは別で、今でも、いくらでもインチキなのがあるらしい。これは何もジャワに限つたことではなく、マライでもビルマでも殆んど同じである。金の入齒の好きな華僑も多いし、原住民だつて相當金齒に浮才をやつすから、少景氣でもよいと、痛くもない齒をいぢくつて金を冠せるので、面白い程儲かるらしい。トツカン・ギギと云つて、齒醫者と謂ふよりも。

商職人と謂ふ方が、評し得て妙である。私が會て、マライ全半島を旅行した時に、到る處で、面白い經歷を持つ、所謂立志傳式の日本人トツカン・ギギに遇つて、その寸話を纏め度いと思つた位である。

一寸痛む齒に、薬をつけて痛みを止める時は、内地でなら先づ二十錢か三十錢と云ふところであるが、スラバヤでは戦前に、二盾から二盾五十仙取られた経験がある。

また熱帯では、齒がよく痛むのである。

現在では、軍の病院が、日本人の患者に對しては、親切に診て下さる。然し、オランダ人もゐることだし、華僑や原住民もゐるので、それ等相手の醫師は戦前の通り、開業してゐるらしい。日本人でも戦前にゐた連中は、オランダ人の顔馴染な醫者にかゝつてゐる。

最後に注意したいことは、日本人で病氣に罹る中には、夜更かしして、ビールを飲んで廻る結果による者が絶無と言へない點である。日中は熱いし、忙しい。夜も十一時頃にならぬと涼しくはならない。その頃から、内地で味はへないビールを鯨飲して廻つて、兩三度も無理をすると、どんな強健な者でも參る。況してや晝間の疲勞で心身共に強健でない場合は一度で參ること請合ひである。

もう少し、斯うした方面に自重して戴き度いと思ふ。それと同時に、俺は何回病氣したとか、デング熱に何回罹つたと、吹聴してゐる人々がゐるが、そんな話を聞いた時でも、それだ

けで直ちに、ジャワは不健康地だと断言してはならない。本人の不攝生の結果、罹病したものと、一言の下に、土地のせいにされたのでは堪らない。

熱帯の氣候を馬鹿にしてはならない。内地の人々が南洋と聞けば瘴癘の地と考へるらしいが、そんな考へは是正されねばならない。と言つて到る處が健康地とも言へない。

無闇と恐怖する必要はないが、馬鹿にしたり、これを無視した我が儘をしてはならない。私は常に先手主義で病氣に對峙してゐる。戦争で謂へば先制の利である。少し頭が重い、風邪をひいたなと思ふと、直ぐ風邪薬を飲んで、半日位寝るのである。これが仲々よろしい。内地のやうに、これ位はといつて無理をすると、半日で癒る病氣の玉子が、一週間も十日もかゝらねば癒らぬやうな本格的な病氣に生長するのである。

マンデーも運動と心得て、暇さへあれば、出来るだけやるがよろしい。睡眠を充分取ること、絶対的に必要であるが、夜明けの少時を除いては、熱くつて寝苦しい。それを補ふためには、暇さへあれば、假令十分間でも、午睡をするとよろしい。

一日に一回、テニスとかゴルフなどの運動をして、汗を流すことも、熱帯での健康保持には絶対必要であるとされてゐる。私は始めてジャワに來た方々でデング熱に罹る度に、入國税と思つて我慢なさいといつては慰めてゐる。

神秘の力「グナグナ」

××月×日(火)

晴 28.00—27.50 度半。小雨 28.00—27.50 度。
小雨 27.00—27.50 度半。曇 27.00—27.50 度。

オランダ人の間には、原住民の女が、時として神秘の力「グナグナ」を使ふといつて、恐怖する者があるが、見方によつては面白い現象である。

日本人の間には、「グナグナ」に對する恐怖も被害者もないのであるが、オランダ人の男達の間では、眞剣な恐怖を以て、これを語り且つ信じてゐるやうである。

原住民の女を棄て、歸國した男が、オランダ本國に着く前に、得體の判らぬ病氣で死んだとか、原住民の女の「グナグナ」に掛つた男が、オランダ本國に残して置いたフィアンセや妻を振りむきもしなくなつたとか、話はいろいろ、それからそれへと擴がるのである。

白人が有色人種に對して持つ特別な優越観は、いろいろ人道上許し難き行爲を敢へて犯させる場合が多く、而も、その責任などは毛頭感じてゐないのである。神様は斯うした神秘の力を原住民の女達に與へて、その貞操を保護してゐるのかも知れない。反對に見ると、白人にも幾分か良心的苛責があるのではあるまいか。原住民を壓迫し、搾取し、侮蔑し續けて來た彼等は、常に良心の一隅で、その應報の來ることを恐れてゐるのかも知れない。

マライには、惚れ薬なるものがあつて、男だけがその使用法を知つてゐて、惚れた女に飲ま

すと謂はれ、女の怖れるやうは氣の毒な位である。「グナグナ」とは似而非なるものではあるが、斯うした事を、眞面目に信じてゐる處に、愉快なものを見出すではないか。信ずることに依つて一種の自己催眠にかゝる譯らしい。然しマライ女のそれは兎に角として、オランダ人がインドネシア女の「グナグナ」を怖れて、自己催眠にかゝるなんて笑へない悲劇ではないか。

いよ／＼雨期に入る

乾雨の境目は十月、十一月とされてゐるが、昨日あたりからの様子では、どうももう本格的な雨期に入つたと見てよいらしい。今日などの雨の降り方は、内地の梅雨を想はずものがある。

朝から氣温も大して昇らない。〇八〇〇に二十七度半だつたのが、一四〇〇になつても、漸く半度昇つただけの二十八度である。一四〇〇に二十八度だなんて謂ふことは、今迄は稀有のことである。

雨期ともなれば箱型の自動車でない、とても外出は出来ない。ダルモは好天氣でも二キロも離れたツンジュンガン通——ジャカルタ銀座——は大降りのこともあるのだから、こゝで天氣だから傘は不要だなどは、かりそめにも申されない。

その點では自轉車に乗つてゐる連中などは、一番憐れな者である。ザツと來るとずぶ濡れ

で、夏の薄物は肌まで雨の雫で、びしょ／＼である。一生懸命にペダルを踏んで駛走しても、行きあし速い雨は避けられない。風邪をひいて、發熱するのも、雨に濡れた時などに多い。ベチャに乗つてゐても、スコールが來れば、到底満足には凌げず、濡れないでは済まされない。

電車では、車内は兎に角として、降りてからが問題である。自由主義的な考へ方では、自動車の利用が、絶対に許されてゐない時なのだから、街の到る處に、悲喜劇演ぜられることであらう。

雨期に入れば病氣も自然と殖えて來るが、乾期の時のやうに、連日連夜の痛飲も出来ない譯だから、この方での無理が祟つて病氣になることは少いであらう。枯れかゝつてゐた芝生の草も、元氣を増して緑が濃くなつた。これからは植物の天下であるらしいが、動物は惨めな格好で雨を避け廻らねばならぬ譯である。

ジャワの運動競技

熱帯での最良の健康法は、一日に一回、運動をして、積極的に汗を出すことである。これは暑さを征服し得るやうな健康な身體を先づ作るといふ點からも必要であるし、健康を積極的に毎日の暑熱に適應させて行くためにも必要なのである。

インドネシア人のやうに、熱帯に生れた者でも、夕方ともなれば蹴球などに夢中になつてゐる

るが、温帯とか亞熱帯に生れて、後刻常夏の熱帯に來た者に取つては、健康保持上、如何に毎日適度な運動が必要かと謂ふことは、いくら謂つても謂ひ切れる程度のことではない。

ジャワで最も普及してゐる運動は蹴球である。これに抑々オランダ人の青年達が最も好むところのもので自然斯うなつたのであるが、野外運動として、華僑も原住民もこれを愛好してゐる。一寸した廣場には必ずゴールがあつて、二、三人の子供が集れば、素足のまゝでボールを蹴りあげてゐる光景は、ジャワでは隨所に散見出来る。主人を待つ間の運轉手達の時間つぶしにも、小石などを拾つては蹴りあげる真似をし、練習をしてゐる位である。ジャワには丈夫な芝生がよく育つので、この二種の運動に手頃な場所を見付け易いことも、この運動を盛んにする一つの理由ではあらうが、何といつてもオランダ人が好きであり、従つて強い選手も居り、學校や軍隊でも獎勵するのがこの運動隆盛の因であらう。

次に盛んなのは庭球で、コートはローンもあるが、ジャワではコンクリートの方が多し。球は勿論、硬球で、ラケットなどは日本品もあるが、高級品はヨーロッパ又はオーストラリア製であり、殊にガットは殆んどオーストラリア製であつた。

敷地に餘裕のある住宅では、一つ或は二つの自家用テニスコートを備へてゐたし、俱樂部などではローンコートも持つてゐた。高原にある一流ホテルには水泳プール、ゴルフコースの他に、テニスコートを設備してゐるのが普通である。都會の人口に比較して、ジャワは實にテニ

スコートが多かつたやうで、その點について日本から遠征に來た庭球選手などもその實感を洩らしてゐた。

俱樂部やホテルのコートでは、照明の設備が完全で、夜間の使用にも差支へないが、現在では戰爭中でもあり、燈管が厳しいので、こんな照明が中止されてゐることは申す迄もない。

次に盛んなのは水泳であるが、これは全部プールで行はれる。スラバヤにも數ヶ所のプールがあつて、一番設備の立派なところは、ヨーロッパ人専用で、戦前には日本人さへ入場が許されなかつた。高原のホテルなどでは、山から湧き出る冷たい水を導き入れてゐるので、午後の燦々たる陽盛りに飛び込んでさへ、身震ひする程の寒冷を感じる。徐々に入るのでは、とても入り切れない。思ひ切つて飛び込むのであるが、その氣持のよいことは例へやうもない。

ジャワでは河水は原住民が水浴をするので、萬一の疫病などを慮つて、決してその流水をプールに導かない。山では湧水を導いてゐるし、市中では特別の井戸水か或は水道の水を用ひてゐる。だから維持費が非常に高くなる。都會では會員組織で經費を分擔してゐた。

ゴルフも甚だ盛んで、都會の近郊には立派なコースがあり、シーズンは十月頃から始まつて四月迄が盛んである。高原の一流ホテルには、コースを備へてゐることは前にも書いた。日本から來た贅澤なゴルファーに謂はすと、ジャワのコースはローンがよくないと云ふ。

嚴密に云へば、ジャワには立派な芝はない。いくら立派な芝の種子を蒔いても、熱帯の荒く

れた雑草に敗けて了つて、育たないのである。お上品なお方が熱帯に不適なのと同じやうに、適者生存の自然現象だから仕方がない。日本でなら抜いて捨て、了ふやうな雑草許りのコースである。

それも氣候のよい乾期は、枯れるとまでは行かなくとも、生色がなく疎となるので、シーズンは結局雨期を中心として前後に延びる。熱心な人は雨位は問題でないらしいが、熱帯の雨は猛烈なので、それに濡れて、病氣にならぬものでもない。運動して却つて病氣に罹るなんて奇現象が日本から來 許りの旅行者などには多かつたものである。

乗馬、ヨット、スカールなども上層のヨーロッパ人の間では、非常に發達してゐた。

高原のホテルの附近にはポニーが澤山ゐて、避暑客はこれに乗つて遊んでゐる。ポニーは子供の乗るものと思つてゐるが、ジャワでは大供達が、汗だくで一生懸命に乗つてゐる。最近では自動車不自由なので、その代りをポニーが勤めてゐる。例へばトレイテスに行く時でも、スラバヤから汽車でバンギルまで行く。そこには澤山なポニーが待つてゐるので、婦人も子供も、その背を借りて、二十五キロの道をトレイテスに登るのである。山登り、砂海の快走、瀧見物などは皆ポニーの便を借るのであつて、初めての人でも怖くないと云ふ。大供が跨がると足先が地上に届きさうにさへ見える。

婦人の運動としては、テニス、水泳、ゴルフ、乗馬などの外に、軽い運動として、バトミン

トンヤピンボンが仲々盛んである。これは華僑も原住民もインテリ階級はやつてゐる。

戦前の在留日本人間では、テニスとゴルフが最も盛んであつた。テニスの 級選手ともなると、相當な腕前で、その實力は大したものであり、テニスを通じての五族協和は成功してゐたと想ふ。武道熱も旺盛で、柔道、剣道、相撲などが勃興し、弓道は長い歴史を持つてゐた。皇軍の占領と共に、舊オランダ色彩の濃厚なものから、影を消して行き、反對に日本的な運動が盛んになりつゝある。先づ大衆的なのはラジオ体操であり、子供達の剣道なども開始されると聞く。この方面での、今後の變遷は刮目して待つべきものがあらう。

だが陸上競技などの成績は、今迄のところ餘り香しいものもないやうで、國際的水準には及ぶべくもない。これは熱帯と謂ふことと切つても切れぬ關聯があるのではないかと思はれる。

熱帯を知れ

×月×日(水)晴、夜雨 0°C—27°C。14°C—23°C半。
7°C—12°C。23°C—25°C。

内地から來た許りの人で、一番陥り易いことは熱帯氣候を馬鹿にすることである。強ひて馬鹿にする譯でないとするれば、その魔力の程度を知らないがため、往々これを輕視し勝ちである。

原住民の漫々の動作を見てゐると、つい内地式の考へからはがゆくなつて、自ら陣頭指揮